

高い時には捌るまくさ

澤山なむすめの脊丈伸揃ひ

縁にひかれてつとむからかひ

近ころは野田と田島も家つゝき

城きらくと月のおほろ夜

古猫も戀は忘れす遠あるき

爆竹ほこりのほがらかに來る

出入衆はかりの膳も一座敷

夢見た様に死れたも徳

地震からほつこりとした漁もなし

ねかひかなふて砥石切出す

人馴て晝もしは啼ほとゝきす

これも涼しき四五軒の茶屋

脇へ眼のふれては果ぬ針仕事

好みに派手な長刀の覆

葵雲も月にかゝらぬ新嘗會

納豆の粥を親子しる合ふ

氣のはらぬ小賣あぶらの得意持

柵へどゝかぬ脊をくやしがる

華そは草鞋もちんとすけて置

日の靜さに寄居虫つゝやく

遠山の淺黄もさめる春の末

紐くみ乍ら裏木戸を守る

詩も想應に作る息子の物いわず

うき事出來し湯津の逗留

嘘らしく見ゆる誠は根も深し

竹の酔日と聞て植かへ

入梅うちも折には峯をつくる雲

あきれ果たる粟の搗きべり

親方を笠に世間で口をきゝ

一 梧 成 梅 希 翠 雅 花 斗 龜 三 青 春 白 松

巴 桐 和 雅 聲 舍 雪 曉 成 淵 省 甫 水 楊 雄

良 芽 枕 巷 萬 松 紫 翫 斗 希 喜 一 近 雅 四

々

久 塙 之 朝 里 友 烟 月 成 聲 風 鳳 翠 雪 丸

古證文のよみかへる沙汰

茶をせねは唐木の小間も持くさり

紅葉を楯に柔術取せる

池に影さして氣のつく二日月

秋をさふかる牛の乳はなれ

逐ふて來た菊戴鳥を見うしなひ

新酒の醒た跡のほいなき

氣の毒で顔も合せぬ鳥流し

さすか三位の歌の寄麗さ

出のよさに無直もうれる道具市

しほり生妻は聲に妙藥

根つよう十夜のあくら解おふせ

磨たように冴わたる月

とちも腰打てみなきる女夫瀧

兵糧つめた岩屋小くらき

鋤鍬の禿しろもなき荒起し

榮耀をせねはとふて長生

朝晩に摺鉢の世話も花心

年禮かねて遅き藪入

出歩行は火水も春は只てなし

上手言るゝ禰宜のお内義

遠眼には木綿とみえぬ朽葉摺

船渡しの馬どのりあひ

燈心を荷なふてこまる吹まわし

からひかけては又いはふ灸

際前は無盡の席も打つとひ

頭巾おさへてすます挨拶

赤岸の袖を入日のかする也

堀ぬき井戸のたかき足代

飛脚屋が名のみふれ込む長屋口

良蘇芽隨萬春鷹芽紫千隨清蘇溪鯉

代

久老塙器里章羽塙畑丸器柯老泉昇

良芽萬鷹斗松紫一翠清鷹春四梧一

々

久塙里羽成友畑巴舍風羽章丸桐巴

またら狐にさすかりし福
月迄に衰柿の分はもきあらし

けしの二葉に重き置藁
幾秋もふるき石碑に墨入て

泥ばね上しかみ下の裾
奥深くつゝみ開ゆるむら構

鹽はまか殖て端浦あたゝまり
館ねふらせてうるる疱痘

朝起せよと雉子はけんく
打むれてその香をしたふ花の道

年ふるまゝに榮ふ藤垣

○大谷桃山

河邊東溪社中

早わらひやたけも揃わぬもゝのかけ
菜の花や野へ行抜の戸なし門
桃咲やたむく畠をひとつゝみ

清 松 春 白 峻 龜 水 溪 枕 馬 執 白 水 峻

耳 雄 章 曠 明 子 龍 泉 之 岬 草 曠 龍 明

笠脱て見るや廣みの揚雲雀

良あつて浪ひとつきぬ春の海

枝こりはきらいぬ桃のさかりかな

手を取は人の袖より秋の風

三日月もやつ張只のおぼろかな

夜さくらや雲の透間に灯の届く

涌口へ成たけすゝむ清水かな

鳴なくやきのふと替る下り處

沖見ゆる處へかわる納涼かな

片つらに入江ひかへて山眠る

朝空や心もひらく桃ばたけ

花散て何やら淋し春の暮

搔あけし溝の香や桃の花

亦しても衣桁すへるや正月着

鳥の來てしはし待けり梅囀ひ

江戸

ミ子山
宮津社中

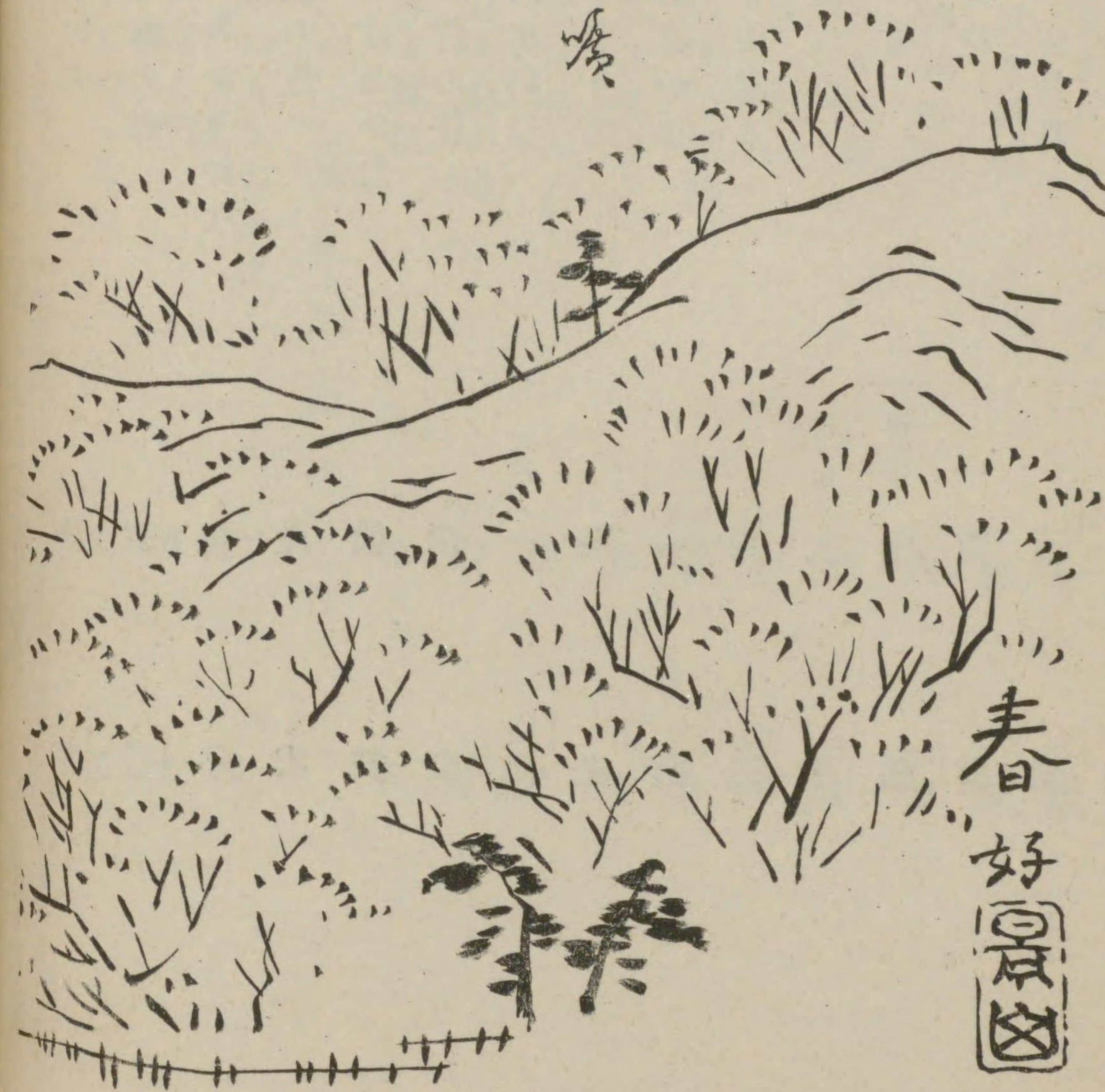
梅 玉 龜 蘆 仙 溪 一 點 古 式 叟 黄 百 梅

溪 音 子 雲 鶴 泉 志 史 醒 圓 子 龜 雲 壺 榮

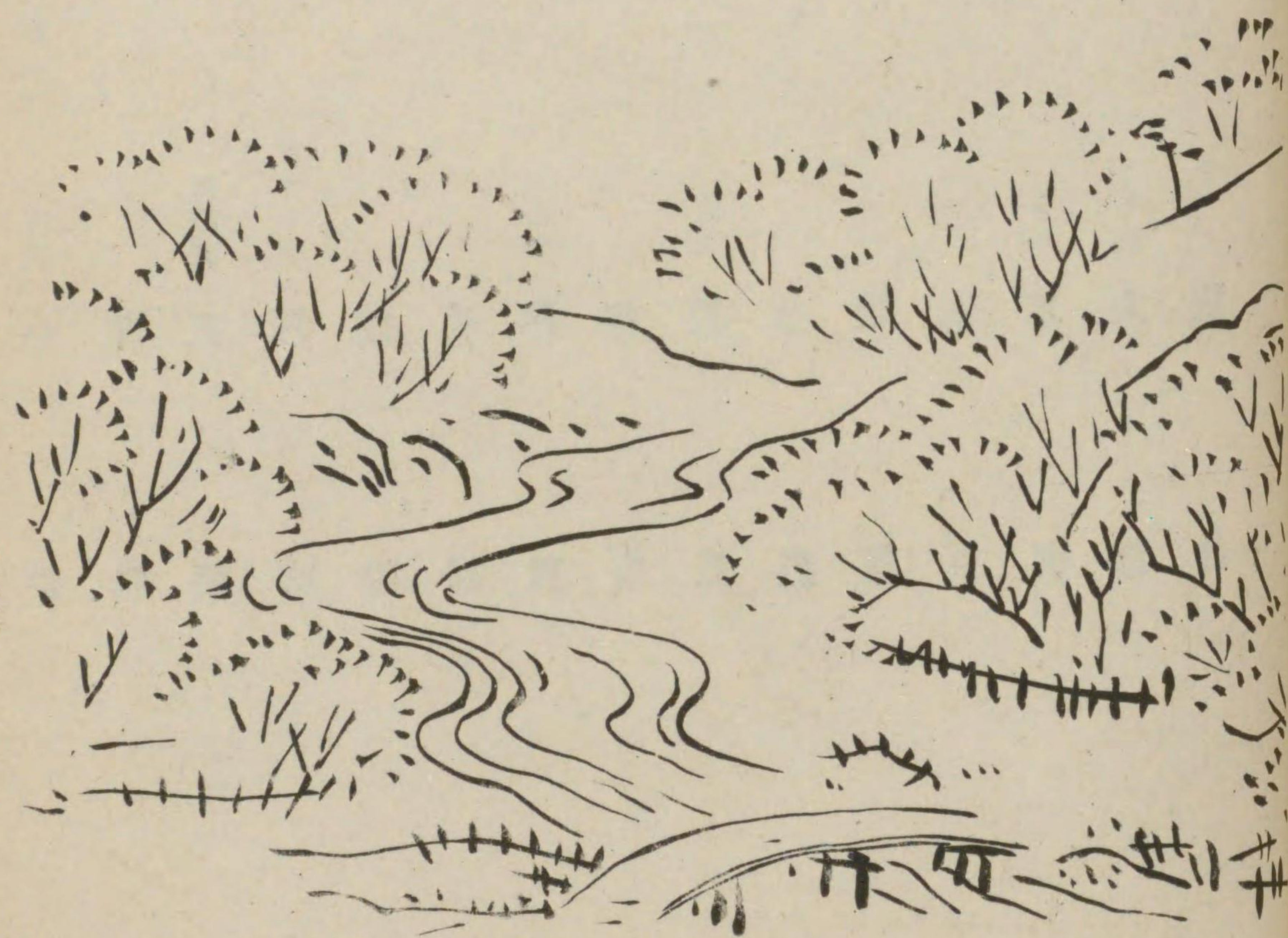
大谷枕山 河邊東溪 秋中

早々の山の中
秋の風を吹かす

と



春好景



いつちるとなく地にたまるさくらかな

書初や墨摺うちの文字くはり

白雲をはなれて梅の匂ひかな

散程は開くもあるか花の山

瀬の音もわらふ様なり春の川

下駄かけて小坂越えるや松のうち

花さかり今日といふ日のくもる空

戸口から見ゆる小家の雛かな

苦いほどとなり梅のほひけり

渡しから邊の殖けり彌生空

雨となるはしや葉裏にぬる胡蝶

○千歳坂にて

實生にも咲そなわりし櫻かな

雛も塀にうたふやうめ日和

古いのもうれしそうなり雛祭

瓜涼更

月 花 五 可 成 甫 琴 梅 可 水 曉 東 大 翫

一五六

花 明 橋 丈 賀 成 風 友 笠 里 翠 柯 鈴 月

のつとりに日は梅に来て初音哉

門へはや代り来て居るつはめかな

轉はせは猫も興かる手まり哉

梅さくやのつと伸たる子供の脊

門先に講笠かけて泊りかな

山吹のかけも流るゝ早瀬かな

直もよしまはらも春の野道かな

若鮎は一すじしろし瀬の早み

門まつや馴ぬかたなの落しさし

散花を余波と蘆を捲にけり

山の腰廻り足らぬや初かすみ

夕風やさくらか中の水のおと

初午のかた道月となりにけり

桃咲て人にとはるゝ山家かな

朝川に浮て慈なき小鴨かな

ミ子山

クミ

花 鯉 其 淇 谷 松 榎 春 有 雨 草 茗

大ノ

カヤ

水 月 山 雪 竹 水 昇 谷

アサモ川

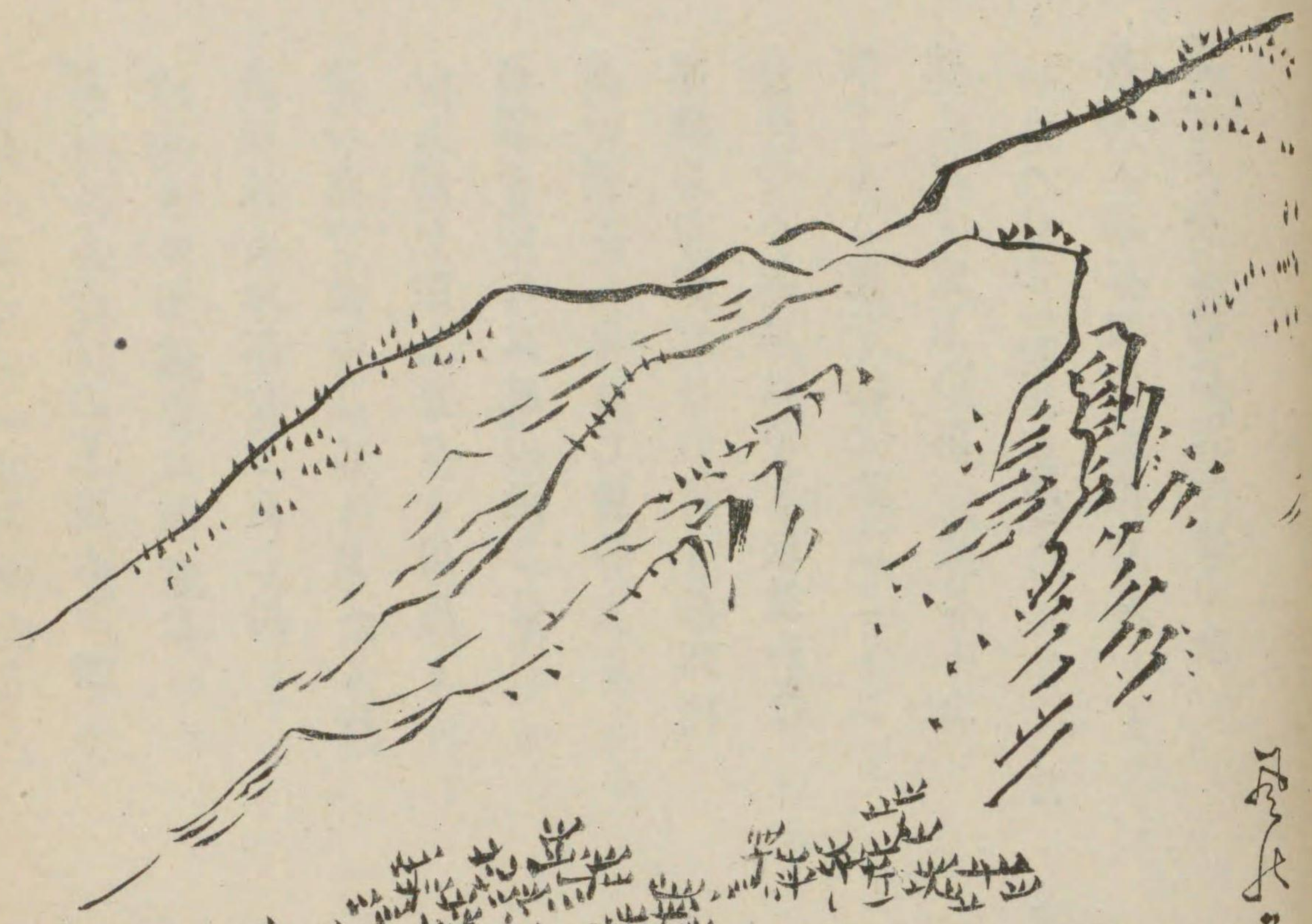
ミ子山

石川

如 希 一 茗 草 雨 有 春 榎 松 谷 淇 其 鯉 花

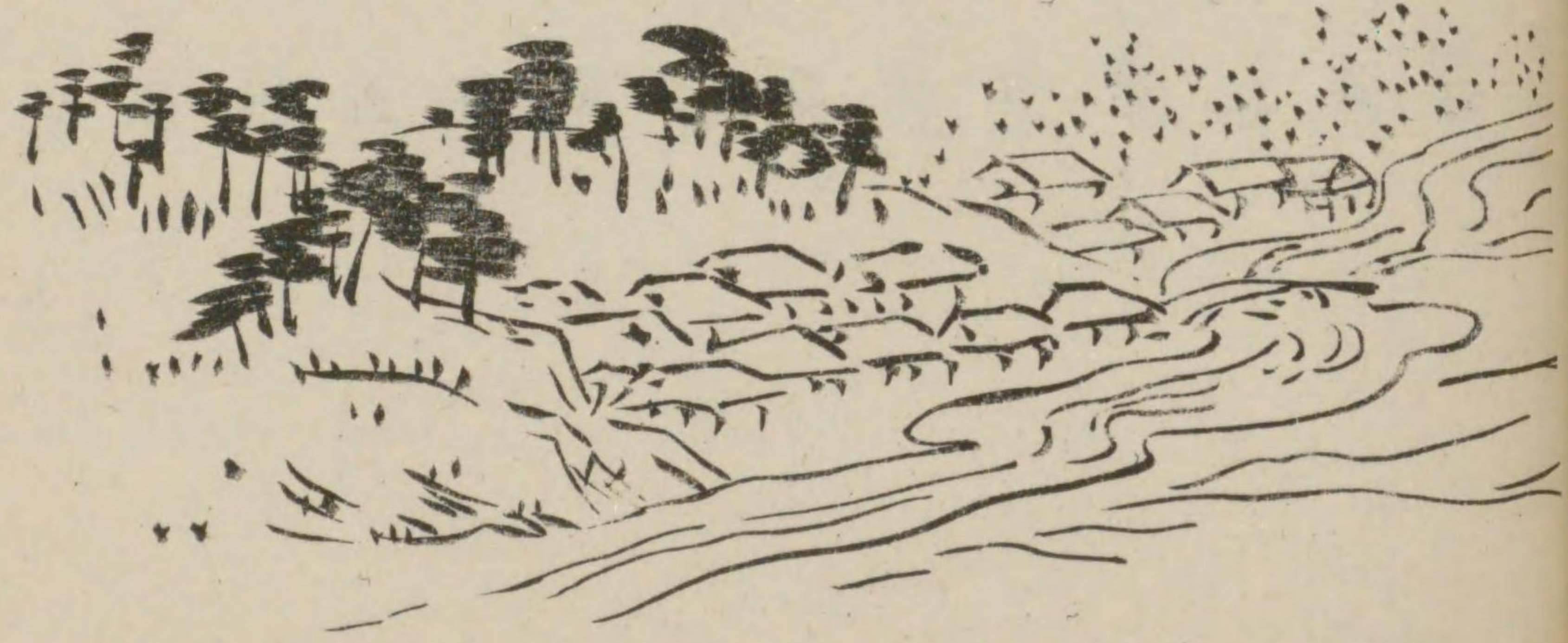
九 聲 鳳 鶴 夢 猴 兆 水 月 山 雪 竹 水 昇 谷

一五七

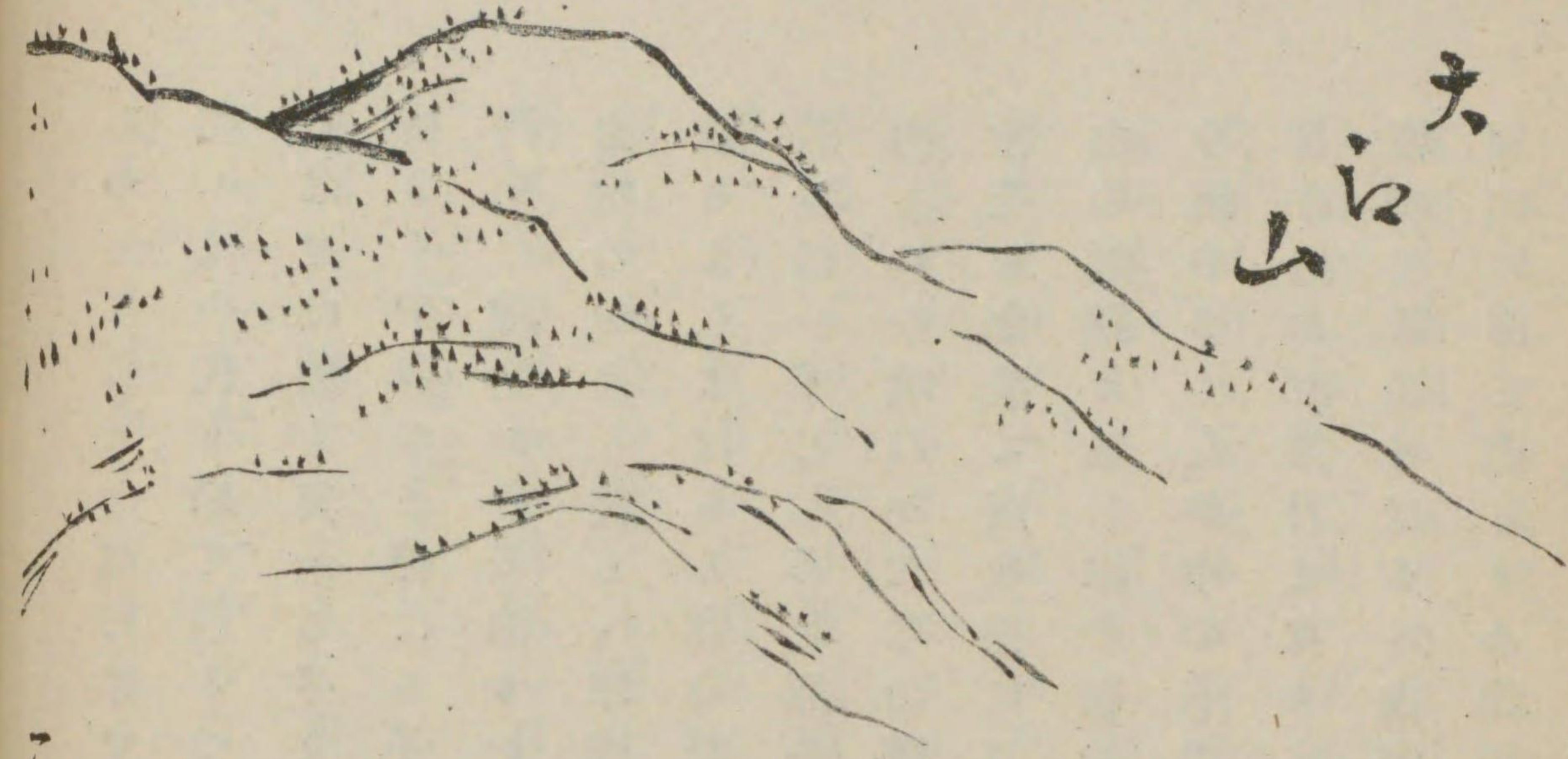


鳳山

有氷
マヤコク
雪の
草の
松友



大江山



大江山

花咲て撫子となる野草かな
 村はしや芥子の上這ふ薄烟り
 岩走る水音遠き紅葉かな
 井堰洩る水静なり夏の川
 菜の花や釣竿なども見へて行
 ひと腰を隠し差なり川漁り
 初鷄や松には風の過る音
 鶯の養るも見たし聲のすき
 水無月や有たけのはす釣瓶繩
 藪中の小家ははやく蚊遣かな
 明てある夜を繕ふやほととぎす
 吹こほす庭木の雨や火とり虫

○師の一周忌に詣で

宮津社

石川 露
 同 右
 雨 雨
 カヤ 井
 カヤナク 有
 ミコチ 梅
 アサモ川 西
 同 慈
 大ノ 三
 石川 霞
 曉 如

一六〇
 舊 北 風 猴 霞 夢 兆 友 瓜 月 省 舊 木 翠

蟬のほか静に晝の峠かな
 早乙女や鬢より曠なかふりもの
 行水に光うつして飛ほたる
 行越た人に又あふ清水かな
 馬に居て心の残る清水かな
 打はづす蟬は手に来てとまりけり
 月涼し川水すくふ松の枝
 納涼む氣になれは風あり月夜哉
 降り足らぬ門に傘干す暑さかな
 川狩のふくへやなきに釣しけり
 雲を見て居れば啼けり閑古鳥
 雨乞や雲の行衛のうらやまし
 植物の葉に風見へて薫りけり
 枝川の流れかねたる暑さかな
 竝松のことも年経て青田かな

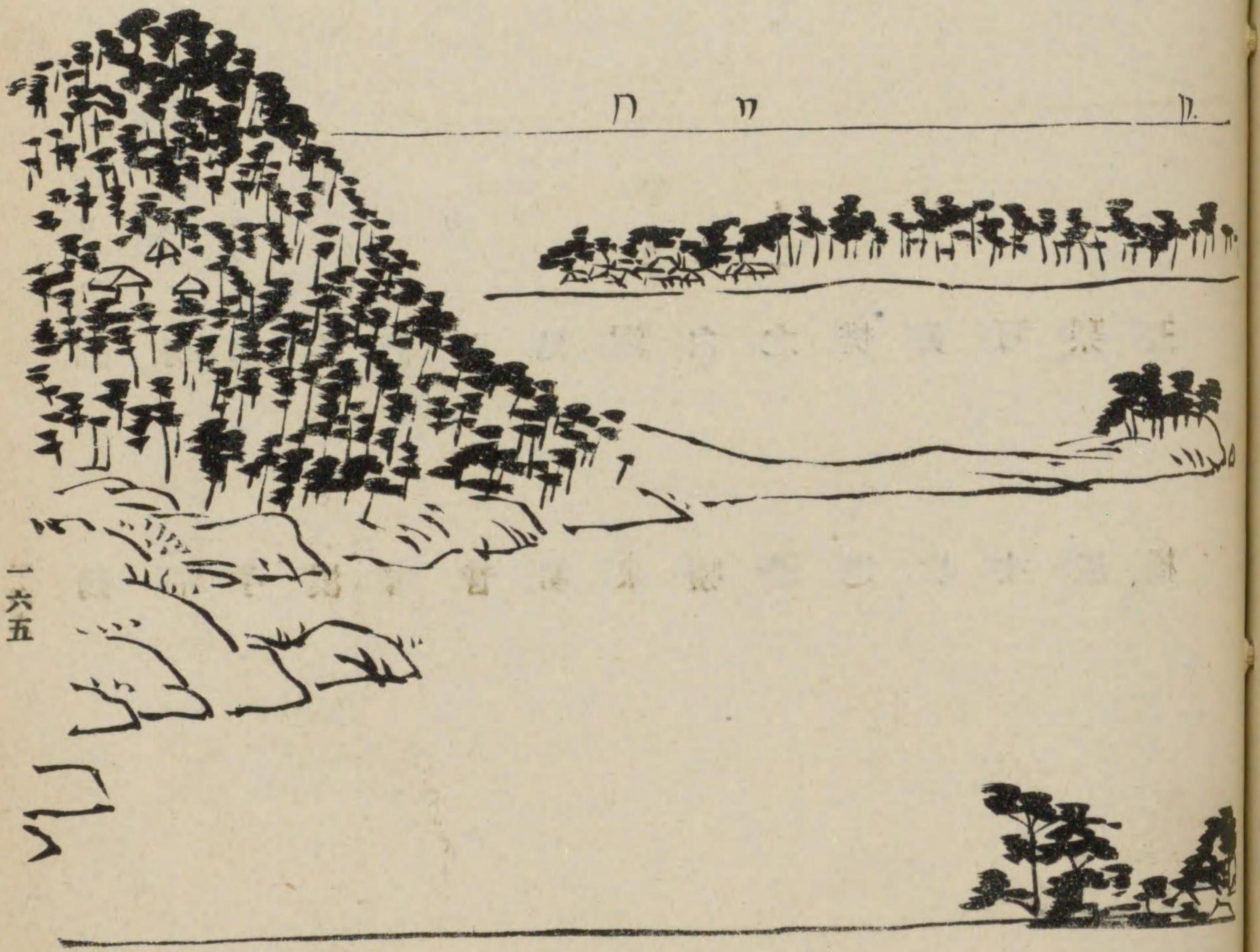
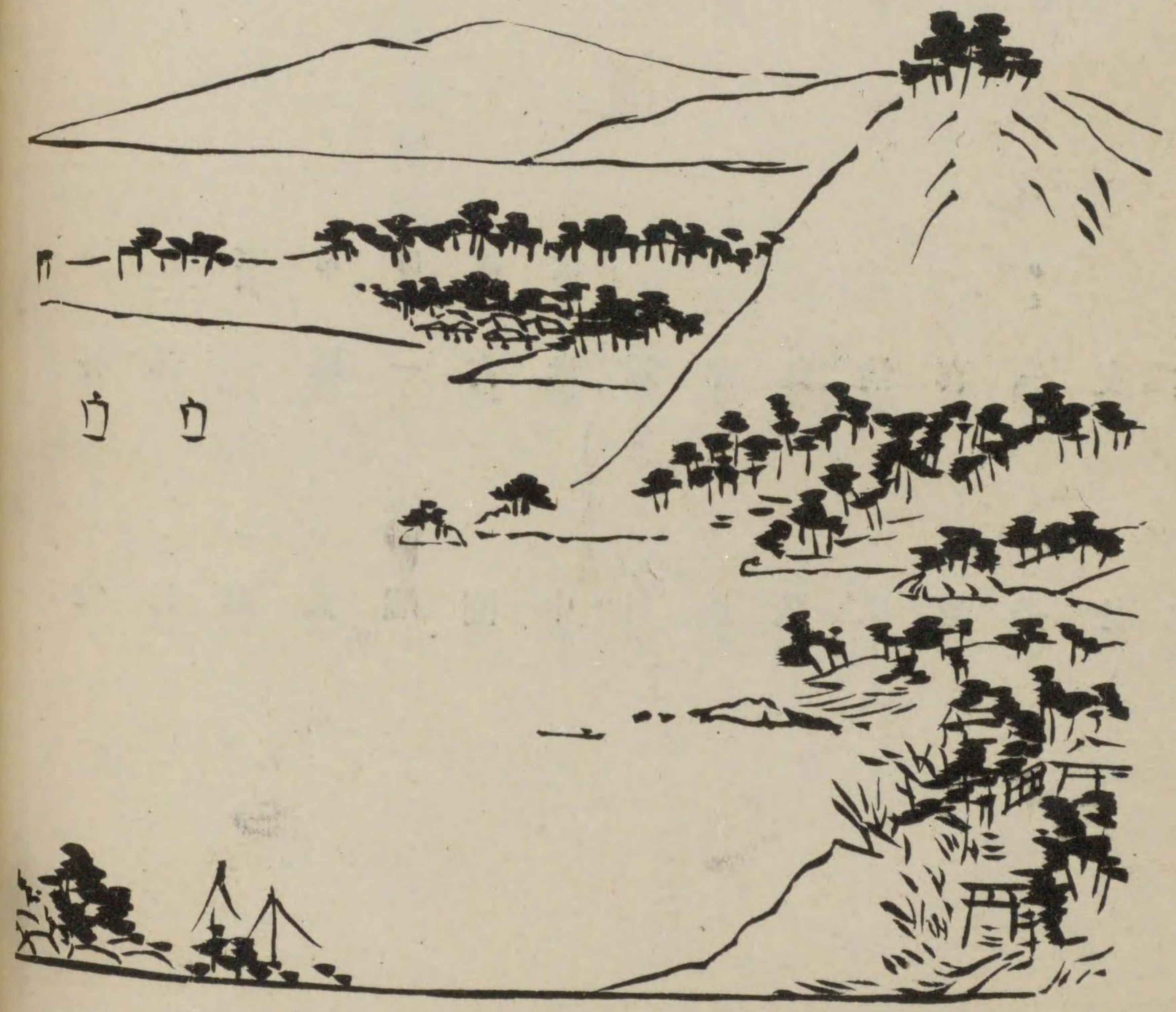
東溪社

大 東 月 五 梅 梅 甫 水 叟 峻 水 龜 梅 玉 白

鈴 柯 巷 橋 友 榮 來 里 龜 明 龍 子 溪 音 曠
 一六一

龜甲山眺望 久長廣 社中

西遊此樹之若山
高之穴園者松山



橋渡る人に見へけり秋の色
窮屈に船あかりけり花すゝき
いつにない海の廣さや今日の月
暮る日を逐ふて行けり赤蜻蛉
二階までにほひとゝかす後れ菊
曇る時酒に氣の付く月見かな
ゑのころの潜り覺て木槿垣
鐘はいつも聞ものなから秋の暮
月もはやある夜となりぬ虫の聲
常盤木にせり出されたる紅葉かな
殘菊や今一輪を咲をしむ
鹿啼てその山高きあみたかな
庭までも廣き心地や今日の月
野あらしや衾を盈す草の種
鹿川を狭みて萩のさかりかな

カウヘ

仙 水 龜 梅 茫 玉 島 溪 白 之 槌 黄 可 槩 五

ミツヤ

鶴 龍 子 溪 雪 音 明 泉 曠 道 達 雲 丈 風 橋

鹿狩やほつとする時かねの聲
門へ出て見れば月よしおどりの夜
抜て出てぬける連まつ踊かな
晴残る霧や野山にさす朝日
葉もともに赤らむ柿や山の裾
小半丁入こむ軒の木槿かな
朝寒や行義につゝむ膝かしら
あさかほや皆咲く隙に日の昇
群集をわける會釋や角力取

○浦島舊跡

網

野

板橋やたわりくゝと春のかせ
年急おしや鐘通しをうしろ差
すゝしさやふめはくれつく御の小石

浅 藻 河

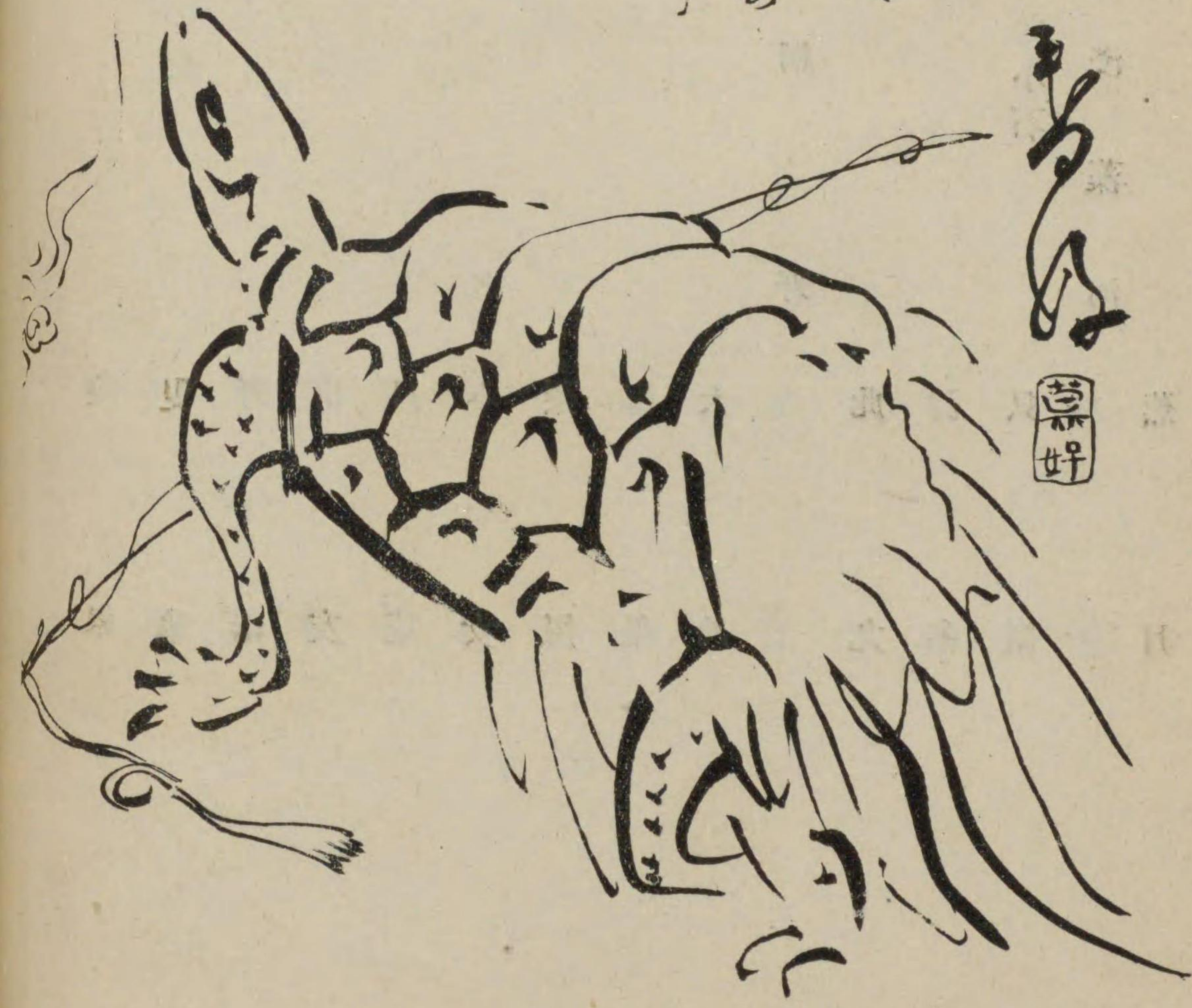
野は鍬の音はかりなり霧の朝

曉 叟 野 梅 月 み 槩 梅 大 此 御 只 蕉

つ

翠 龜 鶴 友 花 女 風 榮 鈴 九 傘 樂 月

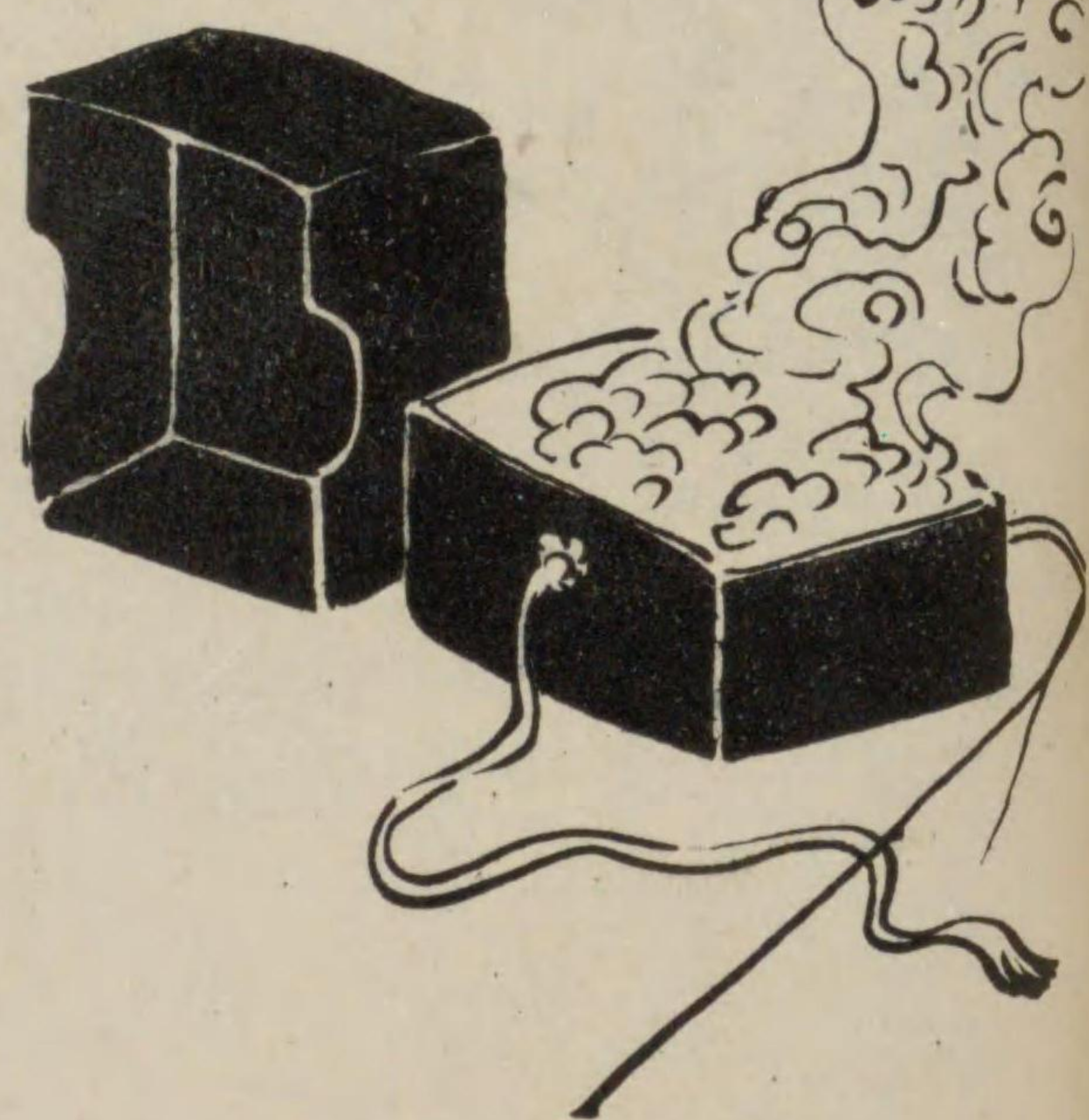
浦守の山園余社於家川の
 有るやい海濱演念の文や下
 志る一めす雄略をば其まに
 飽より鯛釣なく 海濱の神の
 乙女より海に世世たふや
 ことさし程とさひしよ思ふ
 一と糸乳根をいしあつた
 ちまよ還り来しし徳よ
 石松集の奇の海や
 其長歌は飯乃江の浦と
 一河は成瀬川よ
 隣り瀬のなよ任吉の
 社あり此地海江の砂
 六里重の長院とさく



あまの
 好

於成瀬川又浦守
 いづき糸れこすけ

羅山の神社老い森も明かす
 旅れより沖を乃岩るを激浪乃
 中よ一と海濱をさしとわしき
 浦といふと釣獲一急を流し
 雲とあん又字居いさあをさして波濤
 灘より躍さるる岸を昔昔(岩上の
 古松を海濱の耐積を卸て先を照さるる鏡柳の
 松と貴は日夜赫朝構海の長はし流して旧色を改は流流
 祭壇より歌い響く神宮の護を頼るの丸あけす何事あるに事ある
 云々
 事ありかたはあしとあつたふ

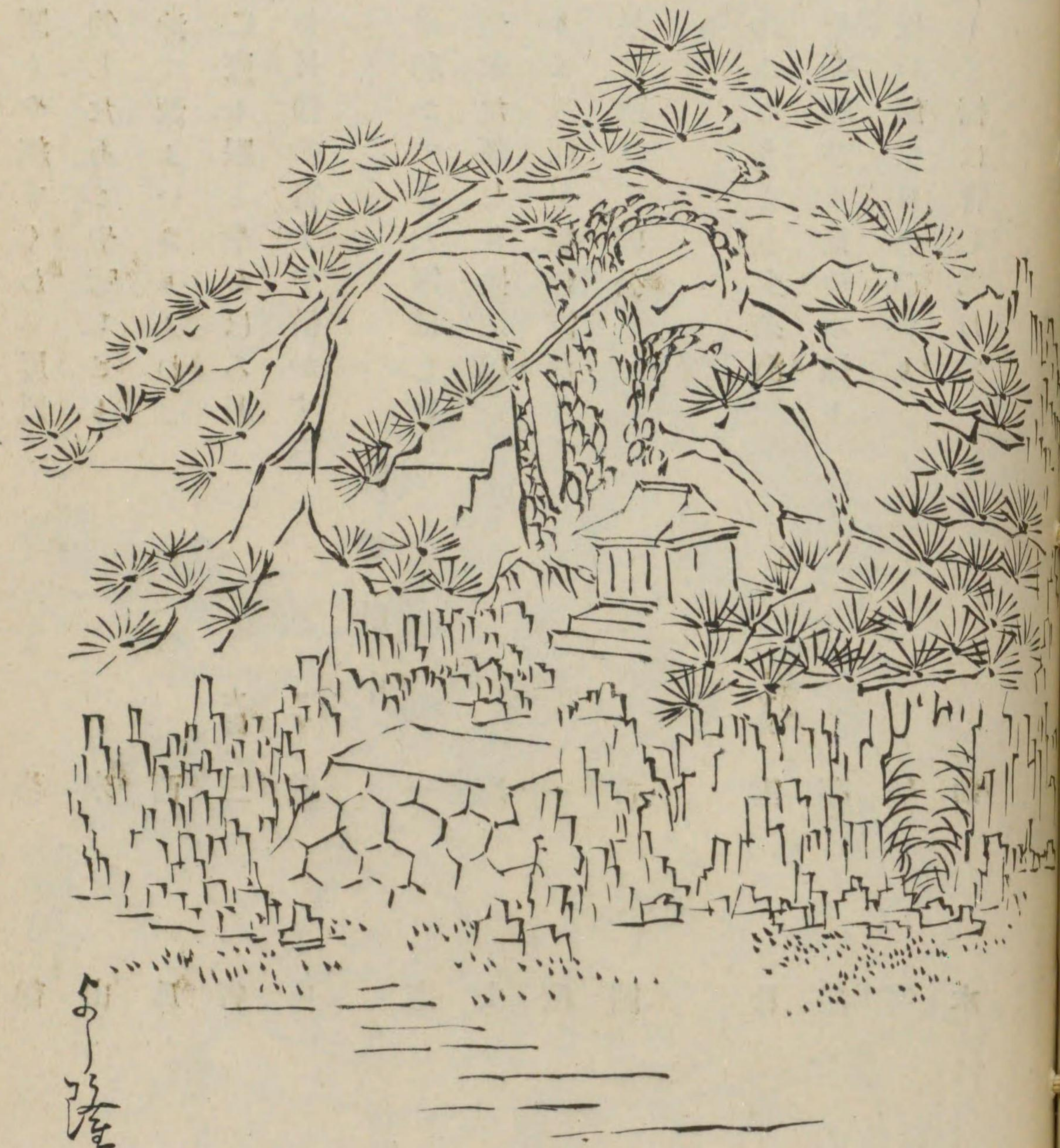


貞
 陸

浦守の跡

ツリタ

浦志中が法...
あや 淡路河
ま 山



の 隆 画

初雁を聞くや網すくわら屏風
浦島か釣したあとや啼ちどり
春雨や沖に漂ふいさりふね
城あとに鷹も眠るやおほろ月
うつ高き丹後の富士や横かすみ

江都社中

大野 三 西 米 茗
ヨザ 遊

虎 省 瓜 山 鶴

假名書は和かてよし筆はしめ
菌の花や未だ新しき撿地杭
ふつさりと入江を包む霞かな
時斗る星は隠れて郭公

秋風や此ころうまき夕茶漬
秋たつや今朝ひと提の水煙り
朝寒や提行鯛に日のひかり
つやくと櫛は青し九月空

ミヤツ

如 勢 夢 雪

木 河 屋 松

古 一 黙 一

圓 醒 夫 志

三浦宮

今五度

初

神

常盤

河

社
大



鳥影もさゝて暮けり秋の雨
落窪の雨水ひかる夜永かな
あとにして見ても眞向の案山子哉
飛違ふ鳥の羽おとや散紅葉

ミ子山

吟 東 百 來

枯切てもとの明るき柳かな

川上の雪か静な水の色

駒犬の脊中にけふる時雨かな

掛乞の早うしつまる在處かな

隠れ家に冬の牡丹を咲せけり

苜てからのびたやうなり枯尾花

干ものゝ邪魔にもならず枯柳

石燈籠潜る霰のはつみかな

牛の尻押のけてはく落葉かな

鼻の聲ぬくげなり冬の月

良 斗 花 一 梅 花 雅 芽 萬 翫

久 成 曉 巴 雅 朝 雪 塙 里 月

龍 柯 壺 賀

反橋の出来あかる日や神むかへ
雨はしくちからは見へす枯尾華
山茶花や氣高く見ゆる丘の家
寢轉べばしぐるゝ音やうらの松
あらためて昇る冬至の旭かな

○丹波路にて

うれしさや楯焚宿の雨やとり
戸を明けて見れば笑貞や室の梅
寒垢離や汲立水のひいきふり
むし除の札はのこりて大根曳
雲の枕はさきて降出す時雨かな
洗場やむすひしまゝの枯柳
凍る程くるまの軽き小坂かな
風當ぬ軒や日のさす冬至梅
嫁も出てちから見られつ大根引

六ノ

松 青 雀 春 梅

燧 圃 通 水 月

石川

クミ

霞 友 谷 一 溪 白 梅 玉 龜

舊 三 雪 秀 水 曠 溪 音 子

カウヘ

鷄も尾を吹れてはしる枯野哉
 松あれは風も吹くなり冬の月
 來た人に時を問ひけり冬籠
 藪うらや爰にもひとつ歸り花
 波音も押へて雪の夜明かな
 帆はしらも見へて枯野の廣さかな
 尻輕な小僧そたてゝ冬こもり
 石臼をひく音はかり積る雪
 古池やいつ時雨でももの靜
 年の暮初穂納る伊勢便り
 野からすも今日は靜や寒の雨
 宵の空崩れす明て今朝の霜
 雪に日のさすや手習子の早上り
 暫くの材木町や今朝の霜
 夜時雨の底に成けり白の音

ミヤツ

峻水甫可來也百水可青如去東黃如

ミヤツ

明龍來丈賀水壺里興軒木柳柯雲九

箴筋も新道付し枯野かな
 虫啼くや日も入道も爪さかり
 見た事はみな言にくしけふの月
 薪樵の加減しによる添水かな
 伐倒す音も冬木と成にけり
 水筋に青みの残る枯野かな
 松掘りに誘れて行く小春かな
 昇る日のふところ明て枯すゝき
 川水や海老かはねても瀬初る

タシマ

天野有梅忠龜南鳳四

々

鳳鶴木岨雄道強儀丸

○天 橋 立

散隙を見する旭かけや原の霞
 稻妻や磯馴るゝ松の枝ひくし
 霽置てあるは夜の間の一葉かな
 愛はせぬ夜もよそにせすきりくす
 松譽た眼で見あくるや天の川

タニハ

鑿南有椿觀

水涯秋室之

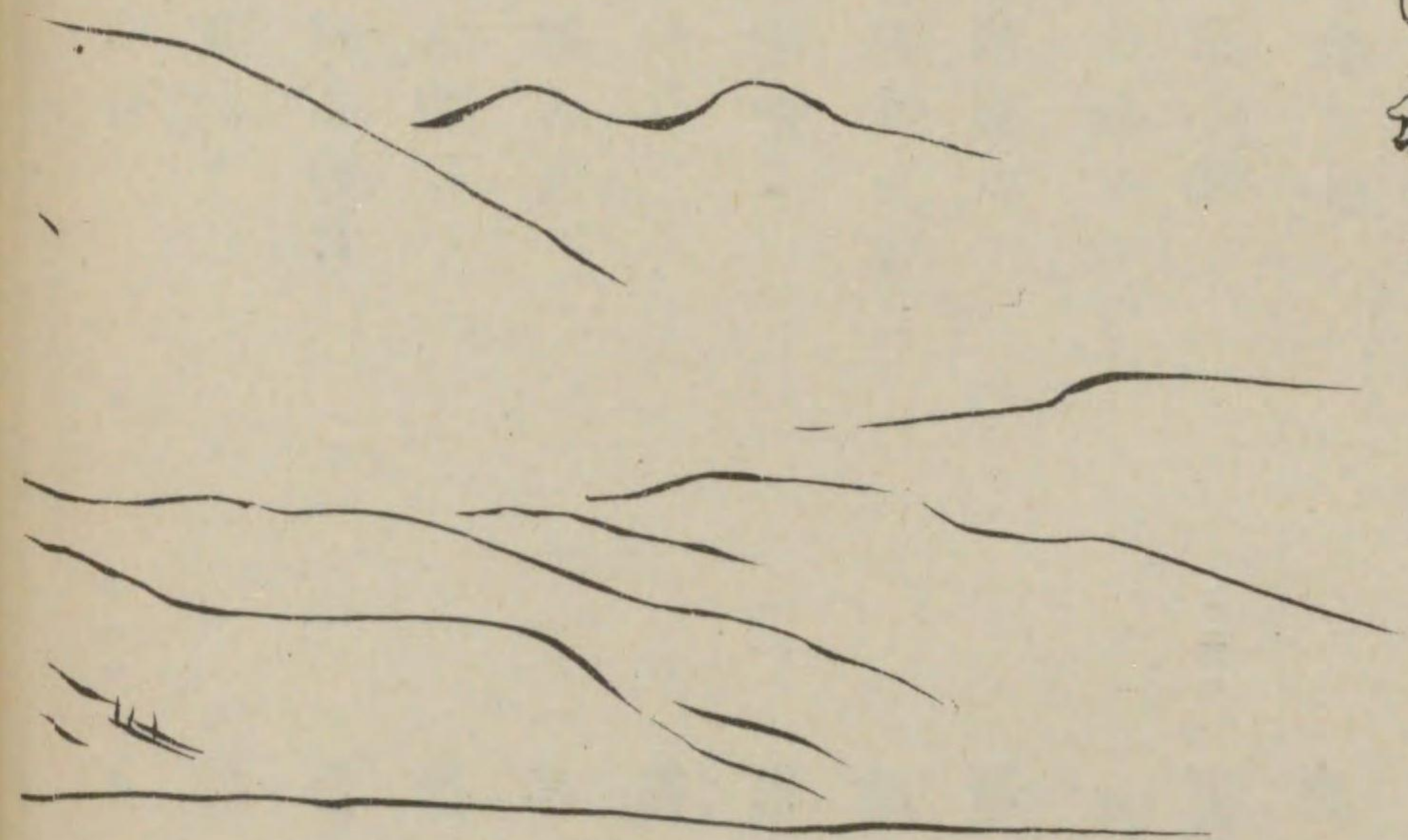
了持立

玄津新中

春日好

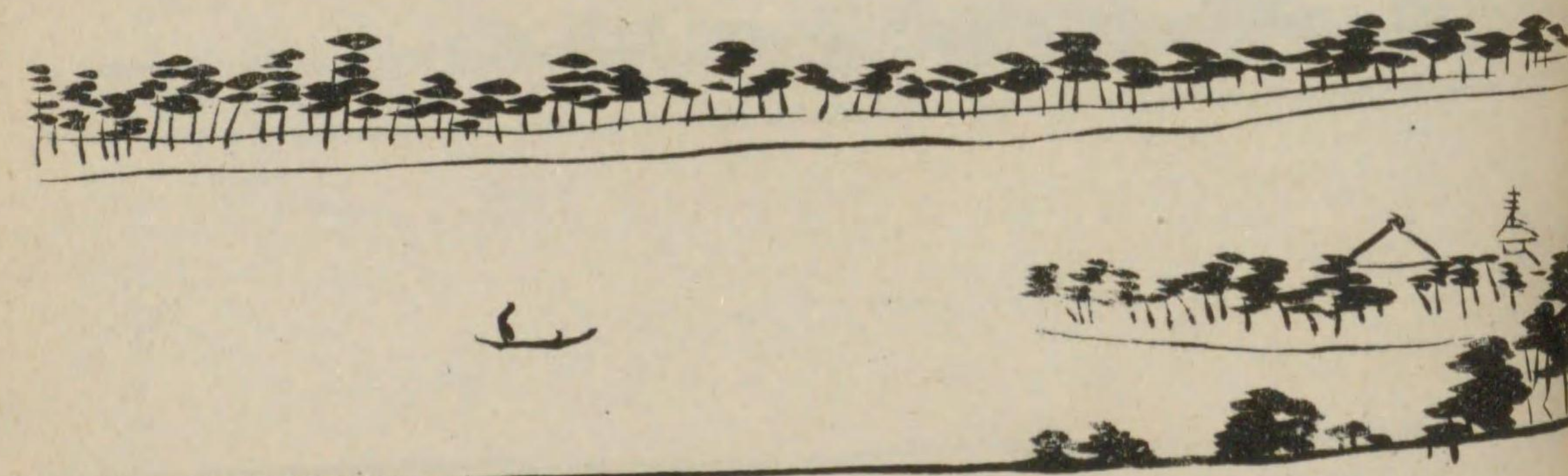
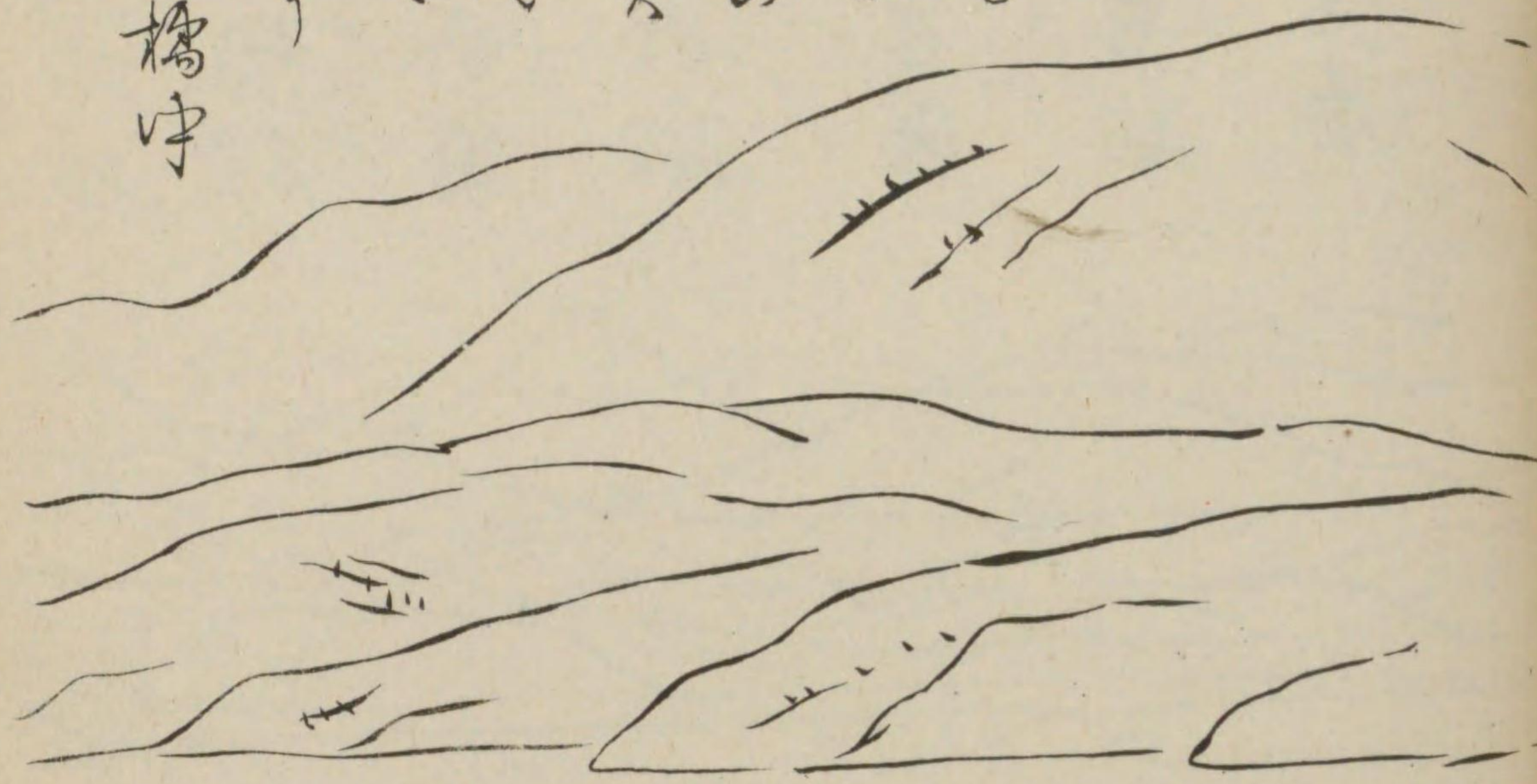


郭公只念とて
松の里 五里松
又の向よき退る
余波の 等々
波のまじり
千代と輝 波は流る
あまの 史 史
清ふれぬふさや林と
神在幣 焚 達



内海より舟を
流し入る

梅高や影をともして
暮色し 赤柯
鏡まうて積るの岸
船の音 松葉
明けや鏡 新の
くは舞う 来賀
舟のあゝ流るのや
流るる 黄
葉もふらぐ夕日
赤し山乃樟 橋守



降止て其後 大給

空にねむるを

しみのまゝ人柄 如木

床しゝ氣のけ

志のふらふらと町を 曉翠

仲りの海みられ

横町を 望子 月露

見せりては河

出ず、みふり侍 月潭

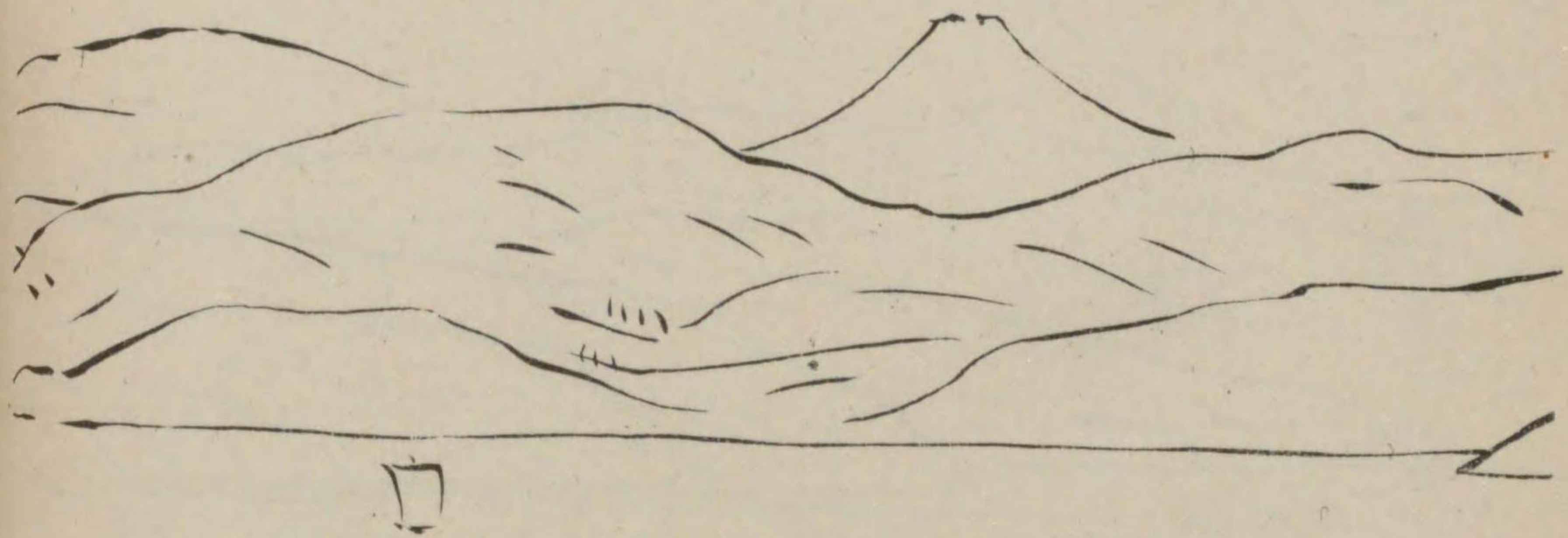
ふかしをりね

下り無て又を 智河

のしや海り香

日の御乃一翁 百壽

跨く清なるを



寝てその山の 左柳

隙をさるるを

菜のむらよききと 琴風

立込留れ家

知くしや目の音 菊介

よけてゐるを

帳をひらいてはつと 子橋

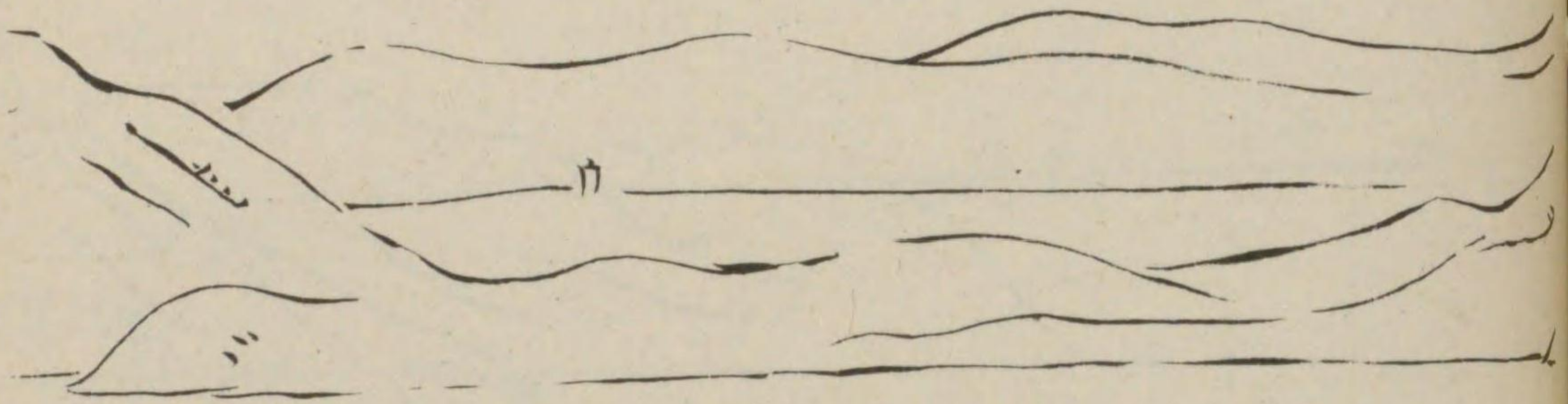
ふきかきやうれ

も一立やあま村 水里

つくる松の音

木隠りるを 清茂

さる河の音を橋



みのかげへ聲のまわるやきりくす
響させて二度とは來ぬや初嵐
來る雁や堤を超える暮のかけ
朝寒の挨拶添ふやもらひ水

あさかはや主人の響る聲はかり
秋も未たあつきにはひや松透し
橋立は海のかつらよ秋の月
散たたけ枝のはね出る柳かな
麥あとの水に追るゝ田植かな
手まくらによせるやう也萩の聲
谷底にひと夜聞ゆる踊かな
魂棚や浴おとする垣ひとへ
秋の蝶人のうしろへまわりけり
逢ふ程の人にをしゆる清水哉

美 脇 蕉 雨 公 默 九 梅 赤 有 芹 柳 也 顯

樹 玉 雨 岡 成 池 起 通 甫 節 舍 齋 然 水

日歸りも小春にあひぬ小原みち
低う越す千鳥や駕を通す冷
年々に川床肥て草の花
氣に足らぬなぶりやう也青ふくへ
伏ておく少桶のもとやきりくす
はし立や露を神の御幸道
橋立や浪の夕くれ春深し
人先の袷やさすか旅の空
はし立や常盤なからに風薫る
橋たてや海の上にも青あらし
黒雲をすむくぬけて冬の月
墓掃ふ翌日の釜日や三十三才
此集を綴るとて北丹を經巡る内多き名所に言捨しうちを二三
黄鳥や夕日の浦を朝わたり
風の香を浪の運ふや經ヶ崎

淡 祭 文 艾 鶯 帆 李 松 雨 梅 鶯 默

節 魚 海 園 語 道 曠 良 后 裡 居 翁

分入て紅葉に酔り大江山
琴彈の濱邊も冬を風の笛
夕つくや天のはし立かせ白し

右 瓦 礫

麥仙城鳥岬

彫工摺物師	楳月堂	丹後峯山	姫路屋	政治郎
助工番匠			廣瀬	榮助
製本師			河邊屋	庄兵衛

此書今より七十餘年前に奥丹後の山の中なる峯山で出版せられたものである。原本は木版數度刷の畫集句集を兼たものであり、其彫工、摺り物師、製本師、繪師、皆峯山人であつたのみならず、其手際が當時の江戸や京都で出版されたものに比し、遜色無い程垢抜けが仕て居るに至つては一驚の外無い、安政前後より明治初年に互り同地で出版されたもの、可なり多いに考へ餘程此方面の進歩發達して居たことが窺はれるのである。出版者なる藤頂社は當代に於ける峯山の俳團で宮津と相呼應して丹後俳壇の牛耳を把つて居たものである。編者麥仙城鳥岬は京都の人行脚俳人として屢丹後へ來た。それには宮津の東柯、峯山の

蘇老の如き後援者があつたにも因らうし、丹後の風景を愛したことも原因であらうが、俳傑萬籟の出現に依り丹後は俳諧の黄金時代とも云ふべき隆盛期であつたから、至る所指導者として歡待されたからであらう。序文を書いて居る蘇老は峯山の町醫者で、和漢の學に通じ一かどの人物であつたと云ふ。東柯は宮津の魚問屋で本名は嘉平、大浦氏、萬籟の門に學んで曲川、如九、清茂と共に籟門の四天王と稱せられ、宮津俳壇の中心人物として重きを爲して居た。財産家でもあつたし、俳道鼓吹に力を入れて居たから梅通、積水など丹後に下つた當時の俳人は多く、東柯の家に草鞋を解いた。從て芭蕉、其角のものを始め俳諧物と稱する書畫は其多きに堪へぬ程蒐集されて居たが、愛嬢のお國さんに迎へた婿養子の清兵衛一俳號一松一が三十で夭死して、後繼者が無くなつたので東鮮あづまで有名であつた實弟彌助が世話をして居る内、あづま同人も失敗して了ひ、惜しや俳諧に關する好資料も散逸して了つた。東柯の墓は波路町はろの青雲寺にある挿繪中最多く描いて居る春章は峯山の繪師で谷口氏勢多屋宗九郎と云つて紺屋であつたから職繪師とでも稱すべきものだが、さうした卑俗な筆致と相違して居る家は浪華町御旅橋詰にあつた。次に春好は興謝郡三河内の人伴海氏名は佐平一生妻らず、清貧を甘んじ世にも稀れなる偏物であつた。翠巖の圖を描いて居る蘭窓齋は狩野探卜の別名で、同人は天橋遊覽の際宮津に足を留め、分の宮へ菊兒童の繪馬額を奉納して居るが、其序に神官で又俳人であつた島谷大鈴からの依頼で筆を執つたものであらう。鳳山と秀嶺のことは寡聞にして詳にして居らぬが、秀嶺の繪は地方に散見して居り當時漫遊の途次加はつたもので無か

らうか。

丹後史料叢書 第三輯

昭和二年六月十五日



小室洗心

一八八

增補縁城寺年代記

增補緣城寺年代記

緣城寺西明院歷住收錄

永濱宇平增補

年代記

日本國東西九百九十里、南北五百五十里、山數千四百、谷數千四百、丑寅未申へ長ク辰巳戌亥へ短シ、一番ニ淡路國出來其後豐葦原中國出來、其後日向國出來ルト云。

人皇六代孝靈天皇御宇富士山湧出、金峯山出生、同出雲大社顯レ給フ壬辰年也。

自_三神代傳_ル有_三鏡_一一、在_三伊勢太神宮_一一、在_三紀伊國日前宮_一一、內侍所是也、自_三神代傳_ル有_三劍_一一、在_三大和國布留大明神_一一、在_三尾張國熱田宮_一一、在_三內裡_一寶劍是也。

天神七代

- 第一 國常立尊 陽神 天皇氏
- 第二 國狹槌尊 陽神 地皇氏
- 第三 豐樹淳尊 陽神 人皇氏

已上此三代天地開_キ始_ル時分也、亦云此三代元無_ニ來方_一无_ニ去方_一自然虛空無之神也、乾道獨_リ立_テ所_ニ以

化成也。

第四 泥土煮尊 陽神 沙土煮尊 陰神

第五 大戸道尊 陽神 大戸邊尊 陰神

第六 面足尊 陽神 惶根尊 陰神

第七 伊弉諾尊 陽神 伊弉册尊 陰神 此二種ノ神ヨリ夫婦ノ道始ル。

地神五代

第一 天照皇太神

第二 忍穗耳尊

第三 瓊瓊杵尊

第四 彥火出見尊

第五 鷓鷯葺不合尊

此尊玉依姬ヲメトリテ神日本磐余彦尊ヲ産ミ給フ是ヲ神武天皇ト申。

天神七代地神五代ノ年數合八百億二百三十五萬六千九百七十四年ト成ル。

神武天皇即位元年ハ葺不合尊ノ八十三萬五千九百九十二年也。

第一 人皇始

神武天皇

御稱號神日本磐余日子天皇。三年空位。

第十六	應神天皇	九三〇
第十五	神功天皇	九六一
第十四	仲哀天皇	八六一
第十三	成務天皇	八五〇
第十二	景行天皇	七九〇
第十一	垂仁天皇	七三〇
第十	崇神天皇	六三〇
第九	開化天皇	五六三
第八	孝元天皇	五〇三
第七	孝靈天皇	四四七
第六	孝安天皇	三七〇
第五	孝昭天皇	二六八
第四	懿德天皇	一八五
第三	安寧天皇	一一三
第二	綏靖天皇	一一〇
第一	自紀元八〇	

增補綠城寺年代記

- 【補】 御稱號日本足彥國押人天皇。
- 【補】 大日本根子彥太瓊天皇。
- 【補】 大日本根子彥國牽天皇。
- 【補】 當國丹波大縣主由基理ノ女竹野姬命皇妃ニ上リ皇子彥湯牟須美命ヲ生ム。
- 【補】 稚日本根子彥太日天皇。
- 【補】 十年九月彥湯牟須美命ノ子丹波道主命山陰道將軍任國、卅九年皇太神大和國笠縫邑ヨリ當國吉佐宮へ御遷幸鎮座四年後大和伊豆加志宮へ神幸。
- 【補】 丹波道主命女日葉酢姬命當國ヨリ皇后ニ上ル御妹三命皇妃ニ備リ景行成務二帝倭姬命其他皇子皇女多シ。
- 【補】 大足彥忍代別天皇。
- 【補】 天皇熊襲親征十二年八月、日本武尊東夷征討四十年七月平定凱旋四十二年二月。
- 【補】 武內宿禰大臣トナル三年正月大臣ノ始也、山河ヲ界シ國縣ヲ分チ阡陌ニ隨テ境域ヲ定ム五年九月。
- 【補】 一年空位。
- 【補】 大伴武以ヲ以テ大連ト爲ス元年十月大連此ニ始ル也。
- 【補】 神功皇后、皇后親ヲ三軍ヲ指揮シ三韓ヲ征伐ス、仲哀九年十月出陣十二月凱旋。
- 【補】 百濟國ヨリ王仁來朝論語及千字文ヲ上ル十五年二月。
- 【補】 二年空位。

- 第十七 (補) 九五三 仁德天皇 【補】皇弟牟婁命皇妹女鳥姬命當國吉佐倉崎山ニ遷御ト云。
- 第十八 (補) 一〇六五 履中天皇 【補】天下百姓ニ三年間課役ヲ免ヌ四年三月。
- 第十九 (補) 一〇七六 反正天皇 【補】阿曇濱子ノ死罪ヲ減シテ之ヲ諒ス諒此ニ始ル。
- 第二十 (補) 一〇七三 允恭天皇 【補】瑞齒別天皇。
- 第二十一 (補) 一一六四 安康天皇 【補】雄朝津間稚子宿禰天皇。
- 第二十二 (補) 一一三九 雄略天皇 【補】三年冬十二月履中皇孫億計弘計ニ王當國ニ御避難。
- 第二十三 (補) 一一四〇 清寧天皇 【補】穴穗天皇。
- 第二十四 (補) 一一四五 顯宗天皇 【補】二十二年七月勅使ヲ當國眞名井原ニ遣ハシ豐受大神ヲ迎ヘ九月伊勢度會ニ祀ル之ヲ外宮ト申ス。
- 第二十五 (補) 一一四八 仁賢天皇 【補】大初瀨幼武天皇。
- 第二十六 (補) 一一五九 武烈天皇 【補】白髮廣國推稚日本根子天皇。
- 第二十七 (補) 一一六七 繼體天皇 【補】億計弘計ニ王京ニ還リ億計王皇太子ト爲ル三年四月七日。

人皇始リテ自ニ神武天皇元年辛酉ニ至ル第二十七代繼體天皇十五年辛丑ニ一千八百八十一年也其後同天皇十六年壬寅始メテ建ニ年號ニ善記元年也。自ニ善記元壬寅ニ至弘治二年丙辰ニ一千三百三十五年也。併二千二百十六年也。

壬寅 (補) 紀元二二八二年 繼體天皇十六年 年號善記元繼體天皇自ニ丁亥ニ即位十六年目ニ始ル。

- 癸卯 二
- 甲辰 三
- 乙巳 二八六 正和元 【補】一本正知トアリ。
- 丙午 二
- 丁未 二
- 戊申 三
- 己酉 四
- 庚戌 五
- 辛亥 二九一 教到元 【補】舞遊始。曆作始。
- 壬子 二 【補】二月七日繼體天皇崩御
- 癸丑 三 【補】空位。
- 甲寅 四 【補】空位。
- 乙卯 五 【補】安閑天皇 繼體天皇第二王子。
- 丙辰 二九六 僧聽元 【補】宣化天皇 勾大兄廣國押武金日天皇。
- 丁巳 二 【補】十二月初七日安閑天皇崩御。

此代文字起ル。

戊午 三
 己未 四
 庚申 五
 辛酉 二〇一 明要元
 壬戌 二
 癸亥 三
 甲子 四
 乙丑 五
 丙寅 六
 丁卯 七
 戊辰 八
 己巳 九
 庚午 十
 辛未 十一
 壬申 三三二 貴樂元

天台智義大師誕生。
【補】二月十日宣化天皇崩御。

欽明天皇

【補】天皇ノ王子也。繼體天皇ノ王也。天國押開廣庭天皇。

【補】異本明安トアリ。

此代入幡應現。
【補】秦漢ノ歸化人ヲ國郡ニ安置ス。

梁武帝崩年八十六。

自百濟貢釋迦像、善光寺如來渡ル。

癸酉 二
 甲戌 三三四 法清元

自百濟國貢易曆醫三博士。

乙亥 二
 丙子 三
 丁丑 四

宇佐宮顯給フ。
【補】韓人ヲ大和國高市郡ニ置ク。

戊寅 三三八 兄弟元

【補】異本兄弟和トアリ。

己卯 三三九 藏和元

日本法師始。
【補】一本藏知。

庚辰 二

辛巳 三

壬午 四

癸未 五

甲申 三三四 師安元

自百濟國經卷渡ル即チ佛法ノ最初也。

乙酉 三三五 知僧元

丙戌 二

丁亥 三

戊子 四
己丑 五
庚寅 金光元一三三〇
辛卯 二
壬辰 三
癸巳 四
甲午 五
乙未 六
丙申 賢補元一三三六
丁酉 二
戊戌 三
己亥 四
庚子 五
辛丑 鏡常元一三四一
壬寅 二

建宇佐宮、金光明經渡ル。

【補】四月十五日欽明天皇崩御。

【補】天皇第二王、聖德太子誕生正月一日。

【補】淳中倉太珠敷天皇。

筆墨始ル。日本ニ而五德博士名付ル。

十一月一日自百濟貢禪律比丘尼及咒禁師佛工寺工等。

聖德太子七歳ノ時説法、六齋日二季ノ彼岸善教給。

自新羅國獻釋迦ノ像。

【補】異本鏡當トモ見ユ。

聖德太子文武二道ノ弓箭、百二十六人ノ童子ヲ集テ的シ玉ヲ遠サ六町百度千度ニ一ツモハツレズ。

癸卯 三
甲辰 四
乙巳 勝照元一三四五
丙午 二
丁未 三
戊申 四
己酉 端政元一三四九
庚戌 二
辛亥 三
壬子 四
癸丑 五
甲寅 告貴元一三五四
乙卯 二
丙辰 三
丁巳 四

【補】蘇我馬子佛教ヲ作リ佛法漸ク行ハル九月。

【補】守屋與殿寺焼。八月十五日敏達天皇崩。

【補】守屋及中臣勝海ノ奏上ニヨリ佛殿ヲ焼キ佛像ヲ難波ノ堀江ニ投ズ。

始テ立四天王寺、聖德太子誅守屋。

【補】天皇佛法ニ歸依シ給フ四月二日、同九日崩御。

崇峻天皇 欽明第三皇子。

法華經渡ル。 長谷部若雀天皇。

聖德太子倉橋宮ニテ御元服也。

【補】高麗僧惠慈、百濟僧慧聰渡來シ大ニ佛法ヲ弘ム。

【補】一本吉貴。 推古天皇 欽明之女敏達后。

三輪宗渡、諸國ニ國分寺立ツ。

【補】高麗僧惠慈、百濟僧慧聰渡來シ大ニ佛法ヲ弘ム。

天台大師入滅十一月二十四日。

戊午 五
己未 六
庚申 七
辛酉 ^{二二六}願轉元
壬戌 二
癸亥 三
甲子 四
乙丑 ^{二二五}光天元
丙寅 二
丁卯 三
戊辰 四
己巳 五
庚午 ^{二二七}定居元
辛未 六
壬申 二

【補】異本煩轉トアリ。

支辨三藏誕生。

【補】百濟僧觀勒來リ曆本天文地理道甲方術ノ書ヲ獻ズ。

聖德太子御製十七ヶ條憲法定ニ冠位ニ賜ニ百官。

【補】一本光充トモアリ此年始テ銅繡丈六佛像ヲ造ル。

聖德太子講ニ勝鬘經ニ天雨花。

【補】敬神ノ詔ヲ發セラルル二月九日大禮小野妹子ヲ隋ニ遣ス七月。

【補】妹子歸朝隋裴世清從ヒ來ル四月、裴世清國書信物ヲ上リ九月歸國妹子等ヲ隋ニ聘ス。

【補】妹子等隋ヨリ歸朝シ學生僧侶等從ヒ歸化スル者多シ。

【補】高麗僧曇徵法定ヲ貢ス三月。

達磨遊ニ大和國片岡ニ逢ニ太子。

【補】新羅佛像ヲ貢ス。此歲掖玖人來ル。

【補】唐高宗武德八年ニ當ル。一本單ニ景繩トモアリ。

【補】聖德太子大臣馬子ト議シ天皇詔國記臣連伴造國造百八十部公民等ノ本記ヲ錄ス。聖德太子崩御、御年四十九歲二月二十二日。

仁王經渡ル。

僧正僧都號始ル。

【補】高麗僧慧灌ヲ貢ス。

癸酉 三
甲戌 四
乙亥 五
丙子 六
丁丑 七
戊寅 ^{二二八}倭景繩元
己卯 二
庚辰 三
辛巳 四
壬午 五
癸未 ^{二二三}仁王元
甲申 二
乙酉 三
丙戌 四
丁亥 五

戊子 六
 己丑 聖徳元 二
 庚寅 舒明天皇 三
 辛卯 三
 壬辰 四
 癸巳 五
 甲午 六
 乙未 僧要元 二
 丙申 二
 丁酉 三
 戊戌 四
 己亥 五
 庚子 命長元 二
 辛丑 二
 壬寅 三

【補】三月七日推古天皇崩御。

舒明天皇

【補】敏達之孫。息長足日廣額天皇。

【補】大仁大上御田織藥師慧日唐ニ遣ヘ。

【補】百濟王義慈其王子豐璋ヲ納レテ質トス。

役行者生。

【補】一切經二千餘卷渡ル。善導入滅。異本僧安トモアリ。

善無畏ニ藏生ル。

六祖誕生二月八日。

【補】僧慧隱慧雲唐ヨリ還ル。

【補】明長トモアリ、此年慧隱無量壽經ヲ講ズ。

【補】十月九日舒明天皇崩御皇后踐祚。

【補】敏達之曾孫舒明后也。【補】天豐財重日足姬天皇。天下皆至德天皇ト稱シ奉ル。

六册

癸卯 四
 甲辰 五
 乙巳 大化元 二
 丙午 三
 丁未 四
 戊申 五
 己酉 白雉元 二
 庚戌 三
 辛亥 四
 壬子 五
 癸丑 齋明元 二
 甲寅 三
 乙卯 齋明元 四
 丙辰 五
 丁巳 三

【補】高麗朝貢使筑紫大宰府ニ來ル。

孝徳天皇

【補】皇極之弟。天萬豐日天皇。

【補】新令四條ヲ下ス。

【補】新ニ禮法ヲ制シ、七色十三階ノ冠ヲ定ム。

【補】千體佛ヲ作ル。大化六年二月十五日改元天下ニ大赦ス。

役行者入ニ金剛山。

【補】四祖塔戸自ラ開ク。戸籍ヲ造ル四月。

【補】僧曼寂ス畫工ヲシテ多ク佛像ヲ圖セシム。

【補】吐火羅國人舍衛國人日向ニ漂泊ス。十月十日孝徳天皇崩御。皇極女帝重祚齋明天皇ト申ス重祚ノ初メ也。

齋明天皇

皇極之重祚也。

法相宗渡ル。

維摩會始マル。

【補】蘇我入鹿大極殿ニテ誅セラレ。此年六月十九日天皇天神地祇ニ告ケ大化元年ト紀シ給フ。

戊午 四 【補】阿部比羅夫舟師ヲ率テ蝦夷ヲ征シ淳代津輕ノ二郡領ヲ置ク。

庚申 六 【補】阿部比羅夫肅慎ヲ伐ツ三月、此年五月八日。皇太子中大兄始テ漏刻ヲ作ル。

辛酉 七 【補】舟師征西耽羅始テ其王子阿波伎ヲシテ來貢セシム。七月二十四日皇極齋明天皇崩御。

壬戌 天智元 天智天皇 【補】舒明之太子。天命開別天皇。

癸亥 二 大般若經渡。

甲子 三 支葬三藏遷化六十三。

乙丑 四 【補】百濟男女四百餘人歸化シ之ヲ近江國神前郡ニ置ク。

丙寅 五 【補】百濟歸化人二千人東國ニ配ス。

丁卯 六 【補】都ヲ近江國滋賀大津宮ニ遷ス。

戊辰 七 行基誕生、鎌足右大臣賜藤原姓、號大織冠。

己巳 八 【補】戶籍ヲ作り盜賊浮浪ヲ糺斷ス。

庚午 九 【補】十二月三日天智天皇崩御。同五日大友天皇即位。

辛未 十 天武天皇 【補】壬申ノ亂七月二十三日大友天皇崩御。弘文天皇ト申シ御歷代ニ加フ。舒明第三皇子天淳中原瀛真天皇。

壬申 白鳳元 天武天皇

癸酉 二

甲戌 三

乙亥 四

丙子 五

丁丑 六

戊寅 七

己卯 八

庚辰 九

辛巳 十

壬午 十一

癸未 十二

甲申 十三

乙酉 十四

丙戌 朱鳥元

丁亥 二 持統天皇

大和國京立、自備後一獻白雉。

夏四月詔シテ牛馬犬鷄猿ノ肉ヲ食フヲ禁ズ。

畿内ノ山野伐木ヲ禁ズ。十一月丹波大地震。

九月訶沙郡大忌神遣使丙戌。

【補】文武官ノ考績進階ノ制ヲ定ム。

【補】龍田山大江山ノ二關ヲ置キ城ヲ難波ニ築ク。

【補】始メテ金光明經ヲ宮中ニ講シ諸寺ニ講ズ。

【補】詔シテ帝紀及ビ上古ノ事歷ヲ撰セシム。

【補】境部石積等ニ敕シテ新字四十四卷ヲ作ラシム三月又詔シテ男女悉ク髮ヲ結ハシム四月二十三日。

行基出家。

【補】詔シテ銅錢ヲ用フ四月十五日。

【補】百濟ノ歸化僧俗二十三人武藏ニ置ク五月、此年大地震アリ土佐國田圃五十萬頃陷沒海ト爲リ伊豆ノ海中三百餘丈ノ一島生ズ十月十四日。

丹後十二角ノ懷生ル。

人丸生ル。

【補】自和州獻赤鳥。【補】九月九日天武天皇崩皇后踐祚。

【補】白鳳十五年九月二十日改元。

【補】天武ノ后女帝也。高天原廣野姬天皇。

此年天下今年調賦半ヲ免ズ。

戊子 三
己丑 四
庚寅 五
辛卯 六
壬辰 七
癸巳 八
甲午 九
乙未 十
丙申 十一
丁酉 十二
戊戌 十三
己亥 十四
庚子 十五
辛丑 十六
壬寅 十七

【補】令二十二卷ヲ諸司ニ班チ又戸籍ヲ造リ毎國民四分ノ一ヲ點檢ス。

【補】伊勢宇治橋始渡九月十六日伊勢皇太后御造營。

【補】始メテ元嘉曆ヲ行ヒ又儀鳳曆ヲ頒ツ。

【補】伊豫國宇和島白銅ヲ獻ズ。

九月十六日伊勢豐受皇太后式年御造營始。

七月辛丑日遣大夫訶沙郡大忌神捧幣祈雨。

【補】天下百姓ニ黄衣奴僕ニ皂衣ヲ着セシム。

【補】三月二日鑄錢司ヲ置ク。

【補】八月朔日天皇位ヲ皇太子ニ讓リ太上天皇ト稱ス太上天皇ノ尊號此ニ始マル。

文武天皇 天武孫。天眞宗豐祖父天皇。

三島明神出現。十二月伊勢皇太后宮ニ神宮寺ヲ建ツ。

【補】役小角伊豆ニ流サル。

【補】十月八日始メテ製衣冠司ヲ置ク。

太政大臣淡海公不比等奉勅撰格式律令。三月廿一日紀年、三月大地震三日歇マズ。加佐郡大牛滄海トナル。

九月二十五日鄉村岩倉山明光寺立ツ。

【補】十二月二十二日太上天皇崩。

人丸在之東西ニ始テ市ヲ立。

諸國斗檟始ル。大寶四年五月十日改元。

【補】諸國々印ヲ作ル。

【補】重テ天下婦女髻髮ノ制ヲ布ク五月二十五日。

七月與謝訶沙山災。

【補】使テ七道ニ遣ハシ始テ田租ノ法ヲ定ム。

【補】六月十五日文武天明崩御。七月十七日文武元正御母元明即位。同月二十二日大地震。

元明天皇 天智第四皇子女帝也。日本根子天津御代豐國成姬天皇。天台山遍然上人開山鎮守藏王權現。

淡海公興福寺立ツ。九月十六日皇太后宮式年遷宮從五位上佐大忌寸老丹波國司。

【補】平城宮成リ都ヲ遷ス三月十日。

加茂祭禮始ル。太安麻呂古事記ナ上ル。九月十六日豐受太后宮式年御造營。

十月分ニ陸奥ニ爲ニ出羽國。

割ニ丹波ニ爲ニ丹後割ニ備前ニ爲ニ美作國、仲禪寺立。

【補】備前六郡ヲ割テ美作國ヲ日向四郡ヲ割テ大隅國ヲ置キ、敕シテ風土記ナ上ラシム。

新羅ノ軍來襲八幡追返。

元正天皇 【補】日本根子高瑞淨足姬天皇。和銅八年九月二日改元。丹波丹後飢五月朔賑貸之。

分ニ河内ニ成和泉唐ノ玄宗開元當ニ四年。

【補】八月九日光仁御父追尊春日宮天皇崩。

白山權現出現、緣城寺立善無畏八十一歳ノ時也始テ觀音ニ逢ヒタモフ再ヒ來ル約束有リト云。靈龜三年十一月十七日改元。

增補緣城寺年代記

癸卯 三
甲辰 四
乙巳 五
丙午 六
丁未 七
戊申 八
己酉 九
庚戌 十
辛亥 十一
壬子 十二
癸丑 十三
甲寅 十四
乙卯 十五
丙辰 十六
丁巳 十七

慶雲元

和銅元

元明天皇

元正天皇

靈龜元

養老元

增補緣城寺年代記

戊午 二
己未 三
庚申 四
辛酉 五
壬戌 六
癸亥 七
甲子^{一三八四} 神龜元 二
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四
戊辰 五
己巳^{一三八九} 天平元 二
庚午 二
辛未 三
壬申 四

割三越中國爲能登分三上總國爲三安房、依八幡託宣有放生會。

【補】陸奥十一郡ヲ割キ六郡ヲ石城國五郡ヲ石背國トス。

七月丹波國守小野馬養管三丹後但馬因幡三國。

日本紀勅撰五月二十一日奏覽。

德道上人建長谷寺。

【補】信濃國ヲ割キ諏訪國ヲ置ク六月二十六日、十二月七日元明太上天皇崩。

八月丹後國司入京乘驛始聽之。

【補】僧滿誓ヲ筑紫ニ遣シ觀音寺ヲ創ム。

聖武天皇

【補】文武天皇太子。【補】養老八年二月四日元正天皇讓位聖武即位同日改元。

【補】勝寶感神聖武勝滿皇帝。

唐土ヨリ九年母ノ種ヲ齋ラス。

一行入滅。宇治宮立。八月新任國司向任給食。

十二月丹後守羽林連兄麻呂配流。

長谷寺供養行基導師。

神龜六年八月五日改元。九月十六日皇太神宮式年御遷宮。

【補】九月二十九日殺生禁斷ノ令ヲ下ス。

竹生島立。

【補】諏訪國ヲ廢シ信濃國ニ併合ス三月七日。

九月十五日豐受太神式年御遷宮。

孟蘭盆會始。

奈良京立。四月大地震人死多シ。

吉備大臣入唐經論五千卷渡。善無畏入滅年九十九歲。

丹比廣成丹後國司。

諸國分寺立。十二月丹後目忌寸國依任國。

【補】十二月二十七日大和國ヲ大養德國ト爲ス。

【補】八月二十六日天下ニ令シ諸國郡ノ地圖ヲ上ラシム。

華嚴經渡。米五斗ヲ一俵ト定。

春日社移三笠山、始テ伊勢太神宮ニ行幸。

【補】六月十九日天下ニ令シ每國法華經十部ヲ寫シ七重ノ塔ヲ造ラシム。八月廿日和泉ヲ省キ河内ニ併ス。

【補】都ヲ恭仁京ニ遷シ大養德恭仁大宮ト名ク。

日本國五月五日菖蒲葺始。四月大地震三日不止、七月又地震アリ月ヲ踰テ不止。

大養宿禰須奈保丹後國司任命。

【補】佐渡ヲ越後國ニ併ス。

八幡京移給。

【補】二月二十六日難波京ヲ定メテ皇都ト爲ス。

行基任大僧正、九月丹後守大養宿禰須奈保任國。

柿本朝臣市守丹後國司。

始金陵與ヨリ出來。九月十六日皇太神宮式年御遷宮。

【補】三月十六日大養德國ヲ大和國ニ復ス。

癸酉 五
甲戌 六
乙亥 七
丙子 八
丁丑 九
戊寅 十
己卯 十一
庚辰 十二
辛巳 十三
壬午 十四
癸未 十五
甲申 十六
乙酉 十七
丙戌 十八
丁亥 十九

戊子

二十

【補】釋奠儀式八月五日定、四月二十一日元正太上天皇崩七月聖武天皇剃髮受戒、沙彌勝滿下號ス皇女踐詐。

己丑

天平勝寶元

孝謙天皇

【補】聖武天皇ノ女帝也。【補】實字稱德孝謙法基尼皇帝。天臺宗渡ル。天平二十一年四月十四日改元。九月外宮遷宮。

庚寅

二

二月二日行基入滅但馬國養父郡水谷明神ノ傍ニ葬之、近江國石山寺立。

辛卯

三

【補】十一月十日勅元年以前公私負租ヲ免ズ。

壬辰

四

大佛開眼東大寺供養萬僧會之、有ニ八幡託宣ニ爲ニ大佛拜ニ自ニ豐前宇佐ニ上洛。

癸巳

五

自唐鑑眞和尚來朝日本律宗之始。

甲午

六

東大寺戒壇被行皇始登ニ戒壇ニ給フ、吉備大臣歸朝。九月佐伯宿禰大成丹後守任國。

乙未

七

【補】正月四日勅年ヲ改メテ歲ト曰フ。

丙申

八

十二月丹後丹波等一十六國金光明寺頒下灌頂幡一具道場幡四十九首緋網條。

丁酉

天平寶字元

【補】五月三日聖武太上天皇崩御。天平勝寶九年八月十八日改元、丹後國田租御免、十二月尾張連帳人丹後目任國。

戊戌

二

住吉社造立。【補】歲年ニ復ス。孝謙女帝八月讓位淳仁即位。

己亥

三

淡路廢帝 天武之孫舍人之子。

庚子

四

【補】惠美押勝大師ト爲ル此年渤海來貢ス。

辛丑

五

不空三藏誕生。都ヲ近江ニ造。十月長野連公足丹後守任國。

壬寅

六

當麻寺ノ曼陀羅ヲ繪六月十三日。正月河内王丹後守任國、丹後國飢七月丙申朝廷賑給。

十一月藤原朝臣武良丹後守任國。

癸卯

七

【補】儀鳳曆ヲ廢シ大衍曆ヲ行フ。此年九月四日僧道鏡少僧都ト爲ル。

甲辰

八

十月荻田王丹波守任國。【補】九月二十日孝謙法尼皇帝僧道鏡ヲ大臣禪師ト爲シ十月九日天皇ヲ廢シテ重祚ス。

乙巳

天平神護元

稱德天皇

【補】十月二十三日淳仁廢帝淡路ニ崩ス。

西大寺立。天平寶字九年正月七日改元。

丙午

二

紀朝臣古佐美丹後守任國。七月伊勢皇太神宮ノ神宮寺ニ丈六ノ佛像ヲ造ル九月十六日式年御遷宮。

丁未

神護景雲元

天平神護三年八月十六日改元。

戊申

二

傳教大師誕生。九月十五日伊勢外宮式年御遷宮。【補】十月二十日道鏡禪師法王ノ位ニ上ル。

己酉

三

田中王丹後國司。【補】法王道鏡天位ヲ窺ヒ和氣清曆字佐ノ神託ヲ奏ス。

庚戌

寶龜元

光仁天皇

【補】天智天皇ノ御孫。【補】天宗高紹天皇。

神護景雲四年十月一日改元。【補】七月十五日禁軍酒入山門、八月四日孝謙稱德女帝崩。

辛亥

二

粉河寺立。白居易生。緣城寺ノ觀音アラワレタマフ寺出來。

壬子

三

【補】出羽國司ノ戸篠ヲ免ズ。

癸丑

四

鞍馬寺立。

甲寅

五

弘法大師御誕生六月十五日。清岡連廣島丹後介任國三月。

乙卯

六

傳教出家。【補】十月十三日天皇誕辰僧尼轉經天長節ト名ズ。

丙辰

七

緣城寺立ル。閏八月壬子與謝郡人采女部宅刀自女一產三男賜稻及乳母糧料。

丁巳

八

戊午 九
己未 十
庚申 十一
辛酉 十二
壬戌 十三
癸亥 十四
甲子 十五
乙丑 十六
丙寅 十七
丁卯 十八
戊辰 十九
己巳 二十
庚午 二十一
辛未 二十二
壬申 二十三

佐伯宿禰牛養丹後守任國二月。
伊勢内宮外宮炎上八月五日丑尅。
紀朝臣犬養丹後守任國二月。

【補】官吏ヲ省減シ弓馬ニ堪フル者ヲ以テ武ニ當ラシメ他ハ皆農ヲ勸メ兵農始メテ分ル。
宇川上山寺立、明法上人隱岐國本主佐々木隱岐守弘成未子五子引。丹後袖志ニ着吉野山ニテ上山寺開ク、寶龜十二年正月元日改元。【補】十二月天皇崩御。

桓武天皇 光仁天皇太子。日本根子皇珍照柏原天皇。
天應二年八月十九日改元。三島真人丹後介任國。

二月續殖王丹後守任國。
三月庚寅丹後國丹波郡人正六位上丹波直眞養任國造。

【補】六月都城ヲ長岡ニ經營シ、十一月天皇長岡京ニ移ル。

九月十八日大神宮式年御遷宮。傳教居三觀山。建中堂。
【補】廢太子皇弟早良親王十月八日淡路ニ薨ス。

二月大宅朝臣廣江丹後介任國。

二月石川朝臣魚麻呂丹後守任國。
九月十五日豐受太神式年御遷宮。

弘法讚州ヨリ入洛十五歲普通寺化度行事之御子也。

平家自桓武出葛城親王同高棟賜平姓。
高光九代之孫有太政大臣清盛公。

丹後國飢四月乙丑朝廷賑給。

弘法出家。
太神宮炎上臨時御遷宮。

癸酉 十二
甲戌 十三
乙亥 十四
丙子 十五
丁丑 十六
戊寅 十七
己卯 十八
庚辰 十九
辛巳 二十
壬午 二十一
癸未 二十二
甲申 二十三
乙酉 二十四
丙戌 二十五
丁亥 二十六

平安城立。
【補】新京遷都ヲ加茂神社ニ奉告。
【補】十月二十三日車駕新京平安城ニ遷リ、十一月山背國ヲ改メテ山城國ト曰フ。
光仁天皇勅願靈場地境北東西高南下ク平安城ニ似タルヲ以テ桓武天皇初メテ寺號ノ額ヲ綠城寺ニ下シ給フ。
【補】燧燧ヲ山城河内ニ置ク。
【補】二月十三日續日本紀成ル。
田村將軍建清水寺。
丹後國飢七月己未遣使賑給。
【補】六月國司ニ勅シ僧尼ヲ錄上セシム。
【補】七月十三日廢太子早良親王ヲ追尊シ遺骨ヲ淡路ヨリ大和ニ迎ヘテ改葬シ、崇道盡敬天皇ト申ス。
田村凡征東夷。
箱根道開、七月十五日大洪水九月丹後損田免租稅。
【補】五月八日箱根道塞リ足柄路開ク。
空海傳教入唐。

大同元 二
平城天皇 桓武天皇ノ皇子。奈良皇帝。
【補】八月八日憲法十五條ヲ頒ツ。

增補綠城寺年代記

空海歸朝真言宗開、延曆二十五年五月十八日改元、八月晦大洪水訶沙郡人死多。
【補】三月十七日桓武天皇崩。

戊子 三 【補】二月齋部廣成古語拾遺ヲ上ル。
 己丑 四 【補】三月天皇病ニ罹リ讓位嵯峨踐祚。四月十四日(鹿原山金剛院開祖)高岳親王ヲ立テ、皇太子トス。
 庚寅 弘仁元 二 嵯峨 天皇 平城乃弟。
 辛卯 二 藤原朝臣弟貞丹後守任國。
 壬辰 三 正月尾張連粟人丹後守任國。
 癸巳 四 九月十五日外宮式年御遷宮。
 甲午 五 【補】三月肥前小近島、新羅海賊來リ土民ヲ殺傷ス。
 乙未 六 【補】十月新羅人二十六人歸化ス。
 丙申 七 八月大中臣朝臣弟守丹後守任國。
 丁酉 八 養老元年緣城寺開基ヨリ一百年、高野山開。
 戊戌 九 【補】二月新羅人百八十名歸化ス。
 己亥 十 天下大旱。
 庚子 十一 【補】新羅人二月三十三名四月百四十四名歸化ス。
 辛丑 十二 大内額空海改。
 壬寅 十三 【補】藤原冬嗣等勅ヲ奉テ日本後紀ヲ撰ス。
 【補】三月二十一日弘仁格式十卷ヲ布ク。
 【補】五月播磨ノ民徑一尺二寸高三尺八寸ノ銅鐸ヲ土中ヨリ發掘ス。
 【補】七月新羅人四十人歸化ス。

癸卯 十四 天長元 淳和 天皇 嵯峨弟。西院天皇。
 甲辰 一四八四 浦島太郎蓬萊ヨリ歸ル。
 乙巳 二 東寺塔立始。

丙午 三 【補】僧空海ニ敕シ佛舍利ヲ内裏ニ奉安ス。
 丁未 四 【補】畿内斑田使ヲ置ク、此年文殊會ヲ修ス。
 戊申 五 九月十六日太神宮式年御遷宮。
 己酉 六 【補】十月七日藤原三守新撰格式ヲ上ル。
 庚戌 七 九月十五日外宮豐受御遷宮。
 辛亥 八 九月十五日外宮豐受御遷宮。
 壬子 九 【補】二月十一日天皇讓位仁明踐祚、十二月十五日清原、夏野令義解ヲ上ル。
 癸丑 十 仁明 天皇 嵯峨ノ皇子。深草天皇。
 甲寅 一四九四 新錢四萬ヲ京城平城ノ大寺ニ施ス。
 乙卯 二 實惠大德東寺長者。
 丙辰 三 正月橘朝臣岑繼丹後守任國。
 丁巳 四 藤原朝臣行道丹後守任國。

戊午 五
己未 六
庚申 七
辛酉 八
壬戌 九
癸亥 十
甲子 十一
乙丑 十二
丙寅 十三
丁卯 十四
戊辰 十五
己巳 十六
庚午 十七
辛未 十八
壬申 十九

【補】十月書ヲ能クスル者ヲ冷然院ニ召シ金剛壽命陀羅尼一千軸ヲ寫サシム。
 【補】正月諸國ニ農ヲ勸メ七月畿内ニ蕎麥ヲ種ユ。
 正月從四位朝臣秋津丹後守任國。
 【補】四月八日佛ヲ清涼殿ニ灌ス灌佛會此ニ始マル。五月八日淳和太上天皇崩。
 【補】十二月十九日藤原緒嗣等日本後紀ヲ上ル。
 七月藤原朝臣安成丹後權掾朝野宿禰清雄丹後權自就任。八月久賀朝臣三夏丹後守任國。
 【補】七月十五日嵯峨太上天皇嵯峨院ニ崩ス。
 丹波丹後飢六月壬午勅加賑恤。
 拾二月笠朝臣數道丹後守任國。
 【補】三月九日五畿内ニ勅シ所在ノ皇胤ヲ錄上セシム。
 眞雅東寺一長者。正月淡海眞人弘峰丹後守任國。
 承和十五年六月十三日改元。
 九月十六日皇太神宮式年御遷宮。
 【補】三月十九日天皇落飾受戒廿一日崩。
 文德天皇 仁明之皇子。
 【補】田村天皇。
 正月從五位弘宗王丹後守任國。

嘉祥四年四月廿八日改元。七月二十日大
 洪水與謝丹波竹野災殊甚。九月十五日外
 宮式年御遷宮。

癸酉 三
甲戌 四
乙亥 五
丙子 六
丁丑 七
戊寅 八
己卯 九
庚辰 十
辛巳 十一
壬午 十二
癸未 十三
甲申 十四
乙酉 十五
丙戌 十六
丁亥 十七

二月紀朝臣松永丹後守任國。
 仁壽四年十一月二十二日改元。
 丹後國飢饉二月乙亥遣使者賑恤飢民。
 【補】京畿ニ隱首ヲ禁シ括出ヲ附帳セシム。
 五世王ノ服色ヲ制シ諸臣ニ準ズ。三月大地震アリ。
 齊衡四年二月廿一日改元。
 正月丹墀眞人高棟丹後守入國。
 【補】對馬島昨年騒亂二月其罪人ヲ鞠獄ス。八月二十七日天皇崩。
 清和天皇 文德天皇子。
 【補】水尾帝。
 天安三年四月十五日改元。
 正月廿七日大宮寶神社敍位。
 三月文室朝臣笠科丹後守入國。
 【補】瀬戸内海海賊横行シ五月備前ノ貢米ヲ奪フ。
 十一月丹後國竹野郡松原村へ細羅國人五十四人來着。糧ヲ給シテ之ヲ還ラシム。
 【補】七月十七日富士山噴火ス。
 五月十六日丙申丹後甲斐能登等諸國置ニ介掾。
 飢饉京中白米一升值錢四十文。
 佐伯宿禰眞敏丹後守入國正月。
 正月大春日朝臣澤王丹後守任國。

戊子 十 九月十六日皇太神宮式年御遷宮。
 己丑 十一 八月十四日藤原良房春澄等續日本後紀ヲ上ル。
 庚寅 十二 九月十五日豐受太神式年御遷宮。
 辛卯 十三 和樂宿禰弟歲正月丹後介入國。
 辛辰 十四 補天智天皇山階山陵、春日宮天皇田原山陵、天宗高紹天皇、後田原山陵、桓武大皇相原山陵、贈皇太后長岡山陵、崇道天皇八島山陵、先太上天楊梅山陵、仁明深草山陵、文德田邑山陵、太皇太后後山階山陵ヲ下爲ス。
 癸巳 十五 補因幡伯耆出雲石見隱岐ニ勅シ戒嚴セシム。
 甲午 十六 僧尼禁綾羅。
 乙未 十七 補冷然院回祿圖書財寶多ク亡ブ。
 丙申 十八 丹後國水旱飢疫七月十一日朝廷賑給百姓、廿三日詔以穀類三萬斛借貸絕乏戶。
 丁酉 元慶元 補天皇讓位五月陽成踐祚。
 戊戌 二 三月廿三日己未丹後國與謝郡仁壽元年洪水流損田三百二十五町三百五十步奉充清和院。
 己亥 三 三月十三日丹後國竹野郡異國船長六丈一艘漂着。
 庚子 四 補右大臣藤原基經文德實錄ヲ上ル十一月十三日。
 辛丑 五 補清和院崩御十二月四日。
 壬寅 六 補獎學院ヲ創ム。
 補二月二十八日天皇弘徽殿ニ御シ關鷄ヲ見ル。
 元慶九年正月廿一日改元。

癸卯 七 補博士醫師郡司等私ニ職ヲ讓ルモノヲ禁ズ。
 甲辰 八 補二月四日天皇位ヲ二條院ニ遷レ給フ。
 乙巳 仁和元 仁明之皇子。
 丙午 二 補小松帝。
 丁未 三 東寺雷火、八月十六日勅以丹後國丹波郡竹野郡田百四十三町餘荒田十二町餘奉充後院田。
 九月十六日太神宮式年御遷宮。
 二月忠臣王丹後守入國。七月晦日大地震アリ。
 丹後國貢絹廉惡特甚六月二日勅譴。
 宇多天皇 光孝之皇子。
 補亭子院空理法皇。
 補九月十五日巨勢金岡賢聖障子ヲ畫ク。
 補九月十五日豐受外宮式年遷宮。
 補寬平大寶錢ヲ鑄ル。
 補九月十一日京畿人婚姻ニ因リテ畿外ニ住シ畿外ノ百姓五畿ノ戶籍ニ附クヲ禁ズ。
 補陸奥出羽ノ逋巡ヲ搜括シテ本郷ニ還ラシム。
 小野道風生ル。
 補三月王臣家ノ私出學ヲ禁ズ。
 補六月十九日藤原時平大納言左近衛大將、菅原道真權大納言右近衛大將トナル。七月三日天皇禪位。

十六 戊午

一五五八

昌泰元

醍醐天皇

宇多之皇子。
【補】小野帝。

【補】寬平十年八月廿九日改元。
年代紀要四月十六日改元。

己未

二

忌部久世人丹後國入國。

庚申

三

【補】十月廿一日三善清行明年辛酉革命ノ議ヲ上ル。

辛酉

一五六一

延喜元

昌泰四年七月十五日改元。

【補】正月二十五日菅公筑紫ニ左遷セラレ、八月二日藤原時平三代實錄ヲ上ル。

壬戌

二

【補】敕旨開田ヲ禁シ諸院宮臣ガ百姓ノ田宅ヲ買占ムルヲ禁ズ。

癸亥

三

高田春雄丹後權省入國。

甲子

四

【補】二月十日皇子崇象親王皇太子。

乙丑

五

九月十六日皇太后宮式年御遷宮。源就丹後介入國。

丙寅

六

【補】御書所預紀貫之古今和歌集ヲ撰ス四月十八日。

丁卯

七

九月十五日外宮式年御遷宮。

戊辰

八

【補】十二月廿七日昨年藤原時平等ノ上リタル延喜格ヲ頒ツ。

己巳

九

【補】正月廿七日天下常平倉ノ穀直ヲ定ム。

庚午

十

三月二十一日東寺灌頂院ニ於テ永代儀式トシテ大師御影供ヲ修スヘキ旨勅使ヲ以テ宣下シ給フ。長者觀賢導師トナリ法會ヲ修ス。

辛未

十一

壬申

十二

癸酉

十三

甲戌

十四

乙亥

十五

丙子

十六

丁丑

十七

戊寅

十八

己卯

十九

庚辰

二十

辛巳

廿一

壬午

廿二

癸未

一五八三

延長元

延喜廿三年閏四月十一日改元。

甲申

二

九月十六日皇太后宮式年御遷宮。

乙酉

三

【補】十一月十四日諸國ニ命シ風土記ヲ上ラシム。

丙戌

四

九月十五日豐受太神式年御遷宮。

丁亥

五

延喜式撰上丹後國五郡大小神祇六十五座。
【補】左大臣藤原忠平等十二月廿六日撰上。

戊子 六
己丑 七
庚寅 八
辛卯 承平元 二
壬辰 三
癸巳 四
甲午 五
乙未 六
丙申 七
丁酉 天慶元 二
戊戌 天慶元 三
己亥 四
庚子 五
辛丑 六
壬寅 七

【補】六月小野道風漢以來明君良臣ノ言行ヲ清涼殿ノ南廂粉壁ニ書ス。

渤海入朝十二月廿四日丹後竹野郡大津濱ニ着。

四月朔日、唐客東丹國使着ニ丹後國。

【補】九月二十二日天皇讓位二十九日崩御。

朱雀天皇 醍醐之皇子。

【補】佛陀壽法皇。

延長九年四月廿六日改元。

【補】未開地ヲ開墾セシム。

【補】十二月南海道海賊起ル。

五月廿四日大地震アリ、七月兵庫允在等海賊ヲ追捕ス。

三月中大臣定行丹後守任國。

【補】六月紀伊豫守海賊ノ魁小野氏彦ヲ降ス。

四月十五日丹後大地震、十一月富士山噴火。

承平八年五月廿二日改元。

四月大地震アリ五日不止。

饑饉米一升價十八文。

【補】十一月平將門叛シ十二月下野上野ヲ陷レ、武藏相模ヲ略シ自ラ新皇ト號ス。

【補】三月將門誅ニ伏シ藤原秀郷平貞盛等奏上ス。

【補】九月廿五日期位ノ制定マル。

【補】四月廿九日天皇加茂社ニ始テ行幸。

九月十六日太神宮式年御遷宮。

十二月十五日外宮式年御遷宮。

菅臣比良良種託シテ北野一夜千本松生北野天神栖ニ右近馬場。六月九日長谷寺立。

【補】四月二十日天皇讓位。

村上天皇 朱雀ノ弟。

【補】覺真法皇。

天慶十年四月廿二日改元。

北野始テ立、八坂塔傾ニ傾方。

【補】九月二十日陽成上皇落飾法皇ト爲リ晦日崩御。

延曆寺回録。

貞任兵亂。

【補】十月和歌所ヲ置キ藤原伊尹ヲ別當トシ後撰和歌集ヲ撰ス。

【補】朱雀上皇三月落飾八月十五日崩御。

【補】三月冷然院ヲ冷泉院ト改ム。

二月大江齊光丹後掾入國。

癸卯 六
甲辰 七
乙巳 八
丙午 九
丁未 天曆元 二
戊申 三
己酉 四
庚戌 五
辛亥 六
壬子 七
癸丑 八
甲寅 九
乙卯 十
丙辰 十一
丁巳 天德元 一

天曆十一年十月廿七日改元。

戊午 二 法性寺立。
 己未 三 【補】乾元大寶錢通用。
 庚申 四 九月廿三日內裏炎上内侍所之鏡自飛南殿ノ櫻木ニ懸ル。
 辛酉 一六二一 應和元 天台法相宗論五月也、自山門慈惠大師自三南都松室忠等七日七夜也、天德五年二月十六日改元。
 壬戌 二 九月十六日太神宮式年御遷宮東。
 癸亥 三 【補】閏十二月勸學院獎學院二年宮ヲ給フ。
 甲子 一六二四 康保元 應和四年七月十日改元。
 乙丑 二 九月十五日外宮式年御遷宮。
 丙寅 三 【補】正月廿七日橋ヲ紫宸殿ノ前ニ栽ユ。
 丁卯 四 慈惠大師天台座主ニ成。
 一六二八 安和元 清慎公攝政。
 己巳 二 【補】八月十三日天皇位ヲ皇弟守平親王ニ讓ル。
 一六三〇 天祿元 圓融院 村上第二皇子。
 辛未 二 【補】二月八日石清水臨時祭永式ト爲ス。
 壬申 三 八幡平野兩社行幸、空也上人入滅、十月大地震。
 康保五年八月十三日改元。
 安和三年三月廿五日改元。

癸酉 一六三三 天延元 天祿四年二月廿日改元。
 甲戌 二 北野炎上。
 乙亥 三 丙子 貞元元 內裏炎上、六月十八日大地震。
 丁丑 二 天延四年七月十三日改元。
 戊寅 一六三八 天元元 眞雅百年忌。
 己卯 二 貞元三年十一月廿九日改元。
 庚辰 三 大風雨閏三月四日、日蝕有二度。
 辛巳 四 九月十六日太神宮式年御遷宮西。
 壬午 五 【補】二月海賊大ニ起リ調庸ノ路ヲ塞グ。
 一六四三 永觀元 順禮始。
 甲申 二 天元六年四月十五日改元。九月十五日外宮御遷宮。
 一六四五 寬和元 通錢杜塞シ食鹽一升錢六十文。桑原成見丹後權日入國。
 乙酉 二 花山院 天皇位ヲ皇太子ニ讓ル。
 丙戌 二 冷泉之皇子。
 一六四七 永延元 一 條院 圓融之皇子。
 【補】精進覺法皇。
 永觀三年四月廿七日改元。
 嵯峨釋迦宋ヨリ周然將來。
 寬和三年四月五日改元。

戊子 二
己丑 一六四九 永祚元
庚寅 正曆元
辛卯 二
壬辰 三
癸巳 四
甲午 五
乙未 一六五五 長德元
丙申 二
丁酉 三
戊戌 一六五九 長保元
己亥 二
庚子 三
辛丑 四
壬寅 五

寛印供奉縁城寺再興ス、當山縁起或大徳トハ此寛印供奉ノコトナリ。養老元年ヨリ二百七十二年目也。

大風捲芝大洪水自八月十三日至廿日。永延三年八月八日改元。

【補】三月二十二日初メテ春日社ニ行幸。

永祚二年十一月七日改元。

四月菅原輔正丹後介藤原吉方丹後掾入國。

大江山酒典童子誅此御宇也。

五月廿日安樂寺正一位太政大臣官ヲ贈ル、簾中ヨリ改ヲ出十一月廿一日大原野行幸。

【補】八月痘瘡流行十一日調庸牛ヲ免ズ。

正月紀時國丹後掾入國。

正曆六年二月廿二日改元。

【補】五月内大臣藤原伊周ヲ播磨ニ權中納言藤原隆家ヲ但馬ニ貶置ス。

【補】伊周隆家ヲ召還四月五日。

【補】赤斑瘡流行ス。

長德五年正月十三日改元。

九月十六日太神宮式年御遷宮東。

九月十五日外宮太神御遷宮。

癸卯 五
甲辰 一六六四 寛弘元
乙巳 二
丙午 三
丁未 四
戊申 五
己酉 六
庚戌 七
辛亥 八
壬子 一六七二 長和元
癸丑 二
甲寅 三
乙卯 四
丙辰 五
丁巳 一六七七 寛仁元

【補】内侍所神樂。

長保六年七月廿日改元。

三月行衡丹後守入國。

【補】藤原道長十二月九日東三條第二奉遷ス。

【補】二月八日花山法皇崩御。

【補】十月五日一條院火延喜天曆ノ御詔災ニ罹ル。

【補】六月十三日天皇讓位十九日落髮廿二日崩御。

【補】三月一條院

【補】華山之弟。

【補】金剛淨法皇。

【補】

【補】

【補】

【補】

【補】

增補縁城寺年代記

長和六年四月十三日改元。
【補】四月晦日三條上皇落飾法皇五月九日崩御。
二二五

戊午 二
己未 三
庚申 四
辛酉 治安元 二
壬戌 二
癸亥 三
甲子 萬壽元 三
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四
戊辰 長元元 二
己巳 二
庚午 三
辛未 四
壬申 五

藤原經教丹後守任國。

九月十七日太神宮式年御遷宮。

濟信許_二牛車_一沙門許_二牛車_一自_レ信始。

寬仁五年二月二日改元。

九月十五日外宮式年御遷宮。

藤原保昌丹後守任國三月大地震。

治安四年七月十三日改元。

四月大雪降四尺五寸。

萬壽五年七月十五日改元。

守部光武丹後權掾任國。

【補】四月廿三日六位以下ノ者板垣檜皮屋ヲ作ルヲ禁ズ。

【補】二月六日耽羅人ヲ放還ス。

癸酉 六
甲戌 七
乙亥 八
丙子 九
丁丑 長曆元 二
戊寅 二
己卯 三
庚辰 長久元 二
辛巳 二
壬午 三
癸未 四
甲申 寬德元 二
乙酉 二
丙戌 永承元 二
丁亥 二

【補】十二月醫得業生明經得業生ヲ試課ス。

【補】四月十七日天皇剃髮崩御。

後 朱雀院 後一條之第二皇子。

九月十六日太神宮式年御遷宮。

【補】三月十六日延曆寺僧徒賀陽院ヲ燒ク。

長曆四年十一月十日改元。九月十五日外宮式年御遷宮。

【補】京極火アリ神鏡災ニ罹ル九月九日。

正月大地震。十月十四日祇園炎。八幡太郎義家生ル。

自_二正月_一至_二六月_一雨不_レ降。長久五年十一月廿四日改元。

【補】宋商張守隆等八月但馬ニ來ル。

【補】正月十六日天皇讓位。

後 冷泉院 後朱雀之子。

【補】筑前人清原守武等私ニ宋ニ往クノ故ニ十二月廿四日佐渡ニ流ス。

戊子 三
己丑 四
庚寅 五
辛卯 六
壬辰 七
癸巳 一七二三 天喜元
甲午 二
乙未 三
丙申 四
丁酉 一七二八 康平元
戊戌 一七二五 治曆元
己亥 二
庚子 三
辛丑 四
壬寅 五

【補】 興福寺供養。
【補】 大宰府五月新羅曆ヲ十一月宋曆ヲ獻ズ。
七月十五日大風。

【補】 九月宋人張守隆等歸化ス但馬ニ居ラシム。
釋迦如來入涅槃以來當三千年一即正法像法之終也。
末法萬年之始。

永承八年正月十一日改元。
二月惟宗俊通丹後介入國。

十月藤原師成丹後守入國。

九月十六日太神宮式年御遷宮。

天喜六年八月廿九日改元。

河內國太子未來記掘出ス。九月十五日外宮式年御遷宮。
【補】 正月八日一條院火壺切釵災ニ罹ル。

【補】 七月宋商林表候改等來ル越前ニ居ラシム。

十一月藤原有俊丹後掾入國。

貞任首入洛。

癸卯 六
甲辰 一七二五 治曆元 七
乙巳 二
丙午 三
丁未 四
戊申 一七二九 延久元 四
己酉 二
庚戌 三
辛亥 四
壬子 五
癸丑 一七三四 承保元 五
甲寅 二
乙卯 三
丙辰 一七三七 承曆元 三
丁巳 一

康平八年八月二日改元。

二月藤原爲季丹後掾入國。

日吉社火。
藤井吉近丹後少掾入國。

七月藤原敦基丹後守任國。
【補】 四月十九日天皇崩御。

後三條院 後冷泉之弟。
【補】 金剛行法皇。

石清水放生會始準ニ行幸儀式。

【補】 七月十二日天皇親ラ侍臣ノ詩賦ヲ試ム。

【補】 十二月八日天皇讓位。

白河院 後三條之皇子。
【補】 融觀法皇。

延久六年八月廿日改元。
【補】 六月九日延曆寺僧徒園城寺ヲ火ク。

延曆園城合戰。
藤原清宗丹後少掾入國。

九月十六日太神宮式年御遷宮。

承保四年十一月十七日改元。

治曆五年四月十三日改元。
四月藤原爲定丹後大掾。

【補】 後三條上皇四月剃髮法皇六月七日崩御。

戊午 二
己未 三
庚申 四
辛酉 一七四一 永保元
壬戌 二
癸亥 三
甲子 一七四四 應德元
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 一七四七 寬治元
戊辰 二
己巳 三
庚午 四
辛未 五
壬申 六

石山寺火。正月藤原仲實丹後守任國。

九月十五日外宮式年御遷宮。

【補】伊勢內宮外院二月十八日火アリ印鑰文簿燒ク。

【補】閏八月宋商孫忠牒等敦賀ニ來ル。

自山門燒二井寺。

承曆五年二月十日改元。

四月ヨリ七月ニ至ル旱魃。

加佐郡志樂金剛院不動尊影向。

永保四年二月七日改元。

藤原師信丹後守任國。

【補】九月十六日參議藤原通俊拾遺和歌集ヲ上ル。

十一月二十六日天皇讓位。

堀川院 白河之皇子。

應德四年四月七日改元。

帝高野ニ行幸。

大惠禪師誕生。

熊野行幸。

濟水寺火。

癸酉 七
甲戌 一七五四 嘉保元
乙亥 二
丙子 一七五六 永長元
丁丑 一七五七 承德元
戊寅 二
己卯 一七五九 康和元
庚辰 二
辛巳 三
壬午 四
癸未 一七六四 長治元
甲申 一七六六 嘉承元
乙酉 二
丙戌 二
丁亥 二

【補】八月延曆寺僧徒坐主良真ノ宅ヲ壞チ良真延曆寺ノ坊ヲ潰ツ。同月興福寺僧徒神木ヲ奉シ高階爲家

寬治八年十二月十五日改元。

參河吉常丹後權目入國。

九月十六日太神宮式年御遷宮。

【補】延曆寺僧徒神與ヲ奉シ義綱ヲ訴フ。

熊野本宮火。嘉保三年十一月廿一日改元。

【補】八月九日白河上皇剃髮法皇ト爲ル。

永長二年十一月廿一日改元。

九月十五日外宮式年遷宮。

藤原能實丹後權守入國。

承德三年十一月廿一日改元。

高階爲家丹後守入國。

東坡居士卒七十五。

八月藤原家保丹後守任國。

正月阿部盛親丹後介入國。

【補】興福寺僧徒神木ヲ奉シテ三月入京湛秀ヲ訴フ。

康和六年八月廿八日改元。

【補】年代紀要二月十日改元。

山谷居士卒六十一。

【補】正月延曆寺僧徒祇園神與ヲ奉シ入京園城寺僧證觀ヲ訴ヘ八月延曆寺僧日吉神人等十月同上及祇園

加茂社火。

長治三年四月九日改元。

源三位賴政射鶴。藤原家保丹後守再任。

【補】七月十九日天皇崩御。

四七

戊子

一七六八

天仁元

鳥羽院

【補】堀河之皇子。空覺法皇。

【補】嘉承三年八月三日改元。延曆寺僧數千神與ヲ奉シテ入京。

己丑

一七七〇

天永元

天仁三年七月十三日改元。

庚寅

一七七〇

天永元

【補】九月奈良興福寺東大寺僧徒鬥フ。三月十三日三十三間堂供養。平正盛丹後守任國二月。

辛卯

一七七三

永久元

【補】正月一日主上御元服十一歳。天下兵亂旱疫癘。天永四年七月十三日改元。四月延曆寺興福寺兵ヲ構ヘテ京師騷擾。九月十六日大神宮式年御遷宮。源師俊丹後守入國十二月。

壬辰

一七七三

永久元

養老元年ヨリ四百年。九月十五日外宮式年御遷宮。十一月高階爲遠丹後守任國。

癸巳

一七七八

元永元

藤原顯賴丹後守入國。天臺最勝寺灌頂始。元永三年四月十日改元。源季房丹後守五月藤原長輔丹後守入國十二月。

甲午

一七八〇

保安元

【補】興福寺春日神木ヲ奉シテ入京。賀茂家榮丹後權介入國。

乙未

一七八六

大治元

高野西院御行。十一月家成朝臣丹後守入國。【補】源後賴白河法皇ノ勅ヲ奉シ金葉和歌集ヲ撰ス。

丙申

一七八六

大治元

天治三年正月二十二日改元。

丁酉

一七八六

大治元

正月藤原顯業丹後介小槻政重權介入國。

戊戌

一七八六

大治元

正月縣主友行丹後大掾。十一月資憲丹後守入國。

己亥

一七八六

大治元

【補】七月七日白河法皇崩御。宇川上山寺開山ヨリ三百五十年忌。

庚子

一七八〇

保安元

大治六年正月廿九日改元。天承二年八月十一日改元。十月爲綱朝臣丹後守任國。四月八日法然生ル。二月藤原爲忠丹後守任國。

辛丑

一七八〇

保安元

天下大疫病飢饉。長承四年四月廿七日改元。九月十五日外宮式年御遷宮。五月藤原俊盛丹後守入國。

壬寅

一七八〇

保安元

【補】二月興福寺僧神木ヲ奉シテ入京定海ヲ訴フ。

癸卯

一七八四

天治元

祇園涼始。【補】正月二十八日天皇讓位。七月延曆寺僧神與ヲ奉シテ入京平忠盛ヲ訴ヘ忠盛擊テ走ラス。正月源資賢丹後守任國。保安五年四月三日改元。

甲辰

一七八四

天治元

崇徳院

【補】鳥羽之皇子。讚岐院。

乙巳

一七八六

大治元

正月藤原顯業丹後介小槻政重權介入國。

丙午

一七八六

大治元

天治三年正月二十二日改元。

丁未

一七八六

大治元

高野西院御行。十一月家成朝臣丹後守入國。【補】源後賴白河法皇ノ勅ヲ奉シ金葉和歌集ヲ撰ス。

戊申

一七八六

大治元

正月縣主友行丹後大掾。十一月資憲丹後守入國。

己酉

一七八六

大治元

【補】七月七日白河法皇崩御。宇川上山寺開山ヨリ三百五十年忌。

庚戌

一七九一

天承元

大治六年正月廿九日改元。

辛亥

一七九一

天承元

天承二年八月十一日改元。十月爲綱朝臣丹後守任國。

壬子

一七九一

長承元

四月八日法然生ル。九月十六日大神宮式年御遷宮。

癸丑

一七九五

保延元

二月藤原爲忠丹後守任國。

甲寅

一七九五

保延元

天下大疫病飢饉。長承四年四月廿七日改元。九月十五日外宮式年御遷宮。

乙卯

一七九五

保延元

八月幡火。五月藤原俊盛丹後守入國。

丙辰

一七九五

保延元

【補】二月興福寺僧神木ヲ奉シテ入京定海ヲ訴フ。

丁巳

一七九五

保延元

【補】二月興福寺僧神木ヲ奉シテ入京定海ヲ訴フ。

正月丹後權介賀茂宗憲入國。

戊午

己未

五

庚申

六

辛酉

永治元

六

壬戌

康治元

二

癸亥

天養元

二

甲子

久安元

二

乙丑

久安元

二

丙寅

久安元

二

丁卯

久安元

二

戊辰

久安元

二

己巳

久安元

二

庚午

久安元

二

辛未

久安元

二

壬申

久安元

二

【補】 閏五月大山香椎宮崎ノ僧徒等太宰府ヲ火ク。

【補】 保延七年七月十日改元。

【補】 鳥羽上皇三月十日落飾法皇トナル。十二月七天天皇讓位皇太弟二十七日即位近衛天皇年甫メテ三歳。

【補】 丹後權守賀茂在憲正月入國。

【補】 康治三年二月廿三日改元。十二月丹後守藤原惟方入國。

【補】 六月藤原顯輔崇德上皇ノ勅ヲ奉シ詞花和歌集ヲ撰ス。

【補】 天養二年七月廿二日改元。

【補】 三月奈良興福寺東大寺爭門シ七月興福寺金峯山門フ。

【補】 清水寺火。加佐郡鹿原金剛院本尊美福門院安置。興謝郡三重郷丹波郡ニ屬ス。二月。

【補】 三月延曆寺園城寺戰フ。

【補】 四月鳥羽法皇兵ヲ摧テ、延曆寺ノ僧徒ニ備ヘ。七月僧徒所司坊ヲ壞キ兵仗ヲ火ク。

【補】 三月藤原惟方丹後守重任。

【補】 玉藻前ト云化女失玉成狐殺生石是也。

【補】 四月藤原俊成丹後守入國。

【補】 高野大塔爲ニ雷火ヲ燒。

【補】 八月奈良興福寺神木ヲ奉シテ入京隆覺別當トナル。

【補】 久安七年正月廿六日改元。

【補】 九月十六日大神宮式年御遷宮。

【補】 忠盛死。

【補】 四月十五日祇園大政所火書冊數萬卷燒ク。

【補】 仁平四年十月廿八日改元。

【補】 九月十五日外宮式年御遷宮。

【補】 七月二十三日天皇崩御壽十七。

【補】 三月丹後守藤原定能入國。

【補】 八月十一天天皇讓位。

【補】 八月二十日改元。

【補】 二月 條 院

【補】 後白河之皇子。

【補】 源賴朝伊豆國へ流罪正月十九日。下野守義朝於尾張國野間庄誅。廿九。長田莊司平忠致奉誅。平治二年正月十日改元。丹後守藤原實清入國四月。

【補】 永曆二年九月四日改元。

【補】 丹後守藤原資賴入國。

【補】 賀茂宣憲丹後介入國。

【補】 應保三年三月廿九日改元。丹後守藤原資賴入國。

【補】 延曆寺僧徒園城寺ヲ燒ク。

【補】 八月二十六日崇德法皇讚岐ニテ崩御。

【補】 八月山門大衆清水寺ヲ燒。長寛三年六月五日改元。七月二十八日二條上皇崩御。

增補綠城寺年代記

二三五

戊午

己未

四

庚申

五

辛酉

永治元

六

壬戌

康治元

二

癸亥

天養元

二

甲子

久安元

二

乙丑

久安元

二

丙寅

久安元

二

丁卯

久安元

二

戊辰

久安元

二

己巳

久安元

二

庚午

久安元

二

辛未

久安元

二

壬申

久安元

二

癸酉

久壽元

三

甲戌

久壽元

三

乙亥

保元元

二

丙子

保元元

二

丁丑

保元元

二

戊寅

保元元

二

己卯

平治元

三

庚辰

平治元

三

辛巳

平治元

三

壬午

平治元

三

癸未

平治元

三

甲申

平治元

三

乙酉

平治元

三

丙戌

平治元

三

丁亥

平治元

三

戊子

平治元

三

己丑

平治元

三

庚寅

平治元

三

辛卯

平治元

三

壬辰

平治元

三

癸巳

平治元

三

甲午

平治元

三

乙未

平治元

三

戊子 三

【補】二月十九日天皇讓位年五歲太上天皇ノ尊號ヲ受ク元服以前ニ太上天皇ノ尊稱此ニ始マル。

己丑 嘉應元 二

高倉院 後白河之皇子。

仁安四年四月八日改元。十二月十六日太神宮炎上假遷宮。【補】延曆寺僧徒神與ヲ奉シテ入京成親ヲ訴フ。

庚寅 二

中堂火。九月廿日熊野郡圓頓寺如法經理藏。

辛卯 承安元 二

嘉應三年四月廿一日改元。九月十六日太神宮式年御遷宮。

壬辰 二

【補】七月蕃船嚴島ニ來リ島人ヲ害ス。此年泰平ト改元ノ訛言アリ閏十二月勅シテ之ヲ禁ズ。

癸巳 三

日ヲ神輿奉振ニ大内裏。九月十五日外宮太神式年御遷宮。【補】十一月興福寺僧入京宇治ニ拒ク。

甲午 四

高倉院赴三井寺。賴政起義兵。承安五年七月廿八日改元。

乙未 安元元 二

丹後大掾清原守近入國。【補】七月十七日六條太上天皇崩御年十三。

丙申 二

安元三年八月四日改元。【補】延曆寺僧徒禁闕ヲ犯シ三月藤原師經ヲ訴ヘ四月藤原師高ヲ訴フ。

丁酉 治承元 二

五月六日天臺座主明雲伊豆國へ被配流。平經正丹後守就任入國。

戊戌 二

【補】福原ニ遷シ立。丹後權介清科重友丹後大目秦牛用丹後省藤井行義入國。

己亥 三

【補】十一月二十日平清盛後白河法皇ヲ鳥羽殿ニ幽ス。奈良大佛炎上十二月廿八日但平清盛東大寺興福寺ヲ燒ク。源賴朝義兵ヲ起ス。

庚子 四

【補】二月十二日天皇讓位二十二日安徳即位年三歲。治承五年七月十四日改元。【補】閏二月四日清盛薨。

辛丑 養和元 二

安徳天皇 高倉之皇子。

壬寅 壽永元 二

養和二年五月十日改元。

癸卯 二

平民奉具主上三種之神器西へ落ッ。七月廿五日源義仲入洛。【補】八月二十日後白河法皇神器ヲ傳ヘズ。皇孫ニ踐祚セシメ天皇ト申ス。天皇兩位アリ。

甲辰 元曆元 二

安徳天皇壽永四年二月十九日海ニ浮ビ三月二十四日西海ニ沈ム壽八歲。【補】後鳥羽院元曆二年八月十四日改元。壽永三年四月十六日後鳥羽院改元。安徳天皇壽永三年改元ナシ。

乙巳 文治元 二

【補】三月源賴朝六十六國總追捕使ト爲ル。

丙午 二

丹後守長保丹後ニ下ル九月。【補】七月二十日神器ヲ長門ノ海中ニ索ム。九月藤原俊成千載和歌集ヲ上ル。

丁未 三

義經自害閏四月廿九日廿一歲。

戊申 四

賴朝上洛任右大將、菅原淳高丹後守任國。文治六年四月十一日改元。九月十六日太神宮式年御遷宮。

己酉 五

宮中守本尊阿彌陀如來公庄後藤實基ヨリ寄進但丹後舊事記ニハ當山西明院へ寄進スト有。藤原仲經丹後守入國九月。

庚戌 建久元 二

藤原長經丹後守任國。九月十五日外宮式年御遷宮。【補】三月十三日後白河法皇崩御。七月十二日源賴朝征夷大將軍ニ任シ府ヲ鎌倉ニ開ク。

辛亥 二

曾我兄弟討死。【補】五月廿七日富士卷狩。

壬子 三

【補】三月鎌倉幕府東大寺大佛ノ資ヲ獻ズ。

癸丑 四

二月十一日東大寺供養。六月四日賴朝大將ト爲テ東大寺供養上洛。同未尅也。大雨降同。十六日供養也。賴朝上洛勢拾八萬騎也。供養導師菩提山信圓僧正。藤井久友丹後大掾入國正月。

甲寅 五

二月十一日東大寺供養。六月四日賴朝大將ト爲テ東大寺供養上洛。同未尅也。大雨降同。十六日供養也。賴朝上洛勢拾八萬騎也。供養導師菩提山信圓僧正。藤井久友丹後大掾入國正月。

乙卯 六

二月十一日東大寺供養。六月四日賴朝大將ト爲テ東大寺供養上洛。同未尅也。大雨降同。十六日供養也。賴朝上洛勢拾八萬騎也。供養導師菩提山信圓僧正。藤井久友丹後大掾入國正月。

丙辰 七

二月十一日東大寺供養。六月四日賴朝大將ト爲テ東大寺供養上洛。同未尅也。大雨降同。十六日供養也。賴朝上洛勢拾八萬騎也。供養導師菩提山信圓僧正。藤井久友丹後大掾入國正月。

丁巳 八

二月十一日東大寺供養。六月四日賴朝大將ト爲テ東大寺供養上洛。同未尅也。大雨降同。十六日供養也。賴朝上洛勢拾八萬騎也。供養導師菩提山信圓僧正。藤井久友丹後大掾入國正月。

戊午 九
 己未 正治元 二
 庚申 建仁元 二
 辛酉 建仁元 二
 壬戌 二
 癸亥 三
 甲子 元久元 三
 乙丑 二
 丙寅 建永元 二
 丁卯 承元元 二
 戊辰 二
 己巳 三
 庚午 四
 辛未 建曆元 四
 壬申 二

正月藤原範光丹後守入國。

【補】天皇讓位三月三日土御門年四歲。

土御門院 後鳥羽第一皇子。

【補】土佐院。

正月藤原長命丹後掾任國。

正治三年二月十三日改元。

三月六日加佐郡松尾寺炎上。

建仁寺建。藤原光實丹後守トナル正月。

【補】九月七日將軍賴家落飾同日賀朝職ヲ嗣ケ。鎌倉三代。

平義時殺二賴家。

建仁四年二月二十日改元。

新古今奏之。

正月和氣時成丹後介入國。同十一月藤原範基丹後守。

熊野本宮炎上貳月廿八日也。

元久三年四月廿七日改元。

建永二年十月廿五日改元。

【補】正月十六日問註所火鎌倉累代ノ文書燒ク。二月廿八日源空土佐ニ配流。

九月十六日大神宮式年御遷宮。

【補】十一月二十五日天皇讓位。十二月廿八日順德即位。

順德院 土御門之弟。

【補】佐渡院。

大圓上人當國丹波郡三重郷ニ生ル。

【補】三月二十二日新制二十一條ヲ頒ツ。

和田義盛合戰。建曆三年十二月六日改元。

【補】正月大地震。八月延曆寺清水寺兵ヲ構フ十一月奈良ノ僧徒延曆寺ヲ攻ム。

三井寺火。【補】四月十五日延曆寺ノ僧徒ノ燒ク所也。嵯峨堂火六月朔日。

十二月十七日故屋島内府家人美濃前司則清子左衛門尉則種丹後國ヨリ參上。

夏中百日大旱魃。

九月大風吹。

緣城寺開基養老元年ヨリ五百年目。

正月源資雅丹後介就任入國。

由良ノ開山誕生。賴朝ノ二男征夷大將軍實朝正月廿七日薨。賴家ノ子息公曉正月廿九日被殺十九歲。

【補】六月三日左大臣藤原道長四男賴經鎌倉將軍職ヲ嗣ク年二歲二位禪尼之ヲ輔ク。鎌倉四代。

藤原成實丹後守五月入國。

宇治橋合戰。【補】四月二十日天皇讓位七月後鳥羽法皇隱岐ニ順德上皇佐渡ニ遷ル。

【補】中恭天皇。九條廢帝。順德第三皇子。四月受禪七月遜位。明治三年奉諡八十五代ニ加ヘ給フ。

後堀河院 高倉之皇子。

永平道元入唐。

【補】高麗人越後寺泊浦ニ到ル。

貞應三年十一月廿日改元。

賴曉丹後律師トナル六月十九日。

元仁二年四月二十日改元。

源有資丹後權介入國。

【補】賴經將軍宣下。

嘉祿三年十一月十一日改元。

【補】一本十二月十日改元。

增補緣城寺年代記

二二二九

後仍入宋。建久十年四月廿七日改元。

正月十三日賴朝薨。二月六日賴家嗣ケ。

鎌倉將軍二代。

後仍二月ニ歸朝。藤原範宗丹後守。

承元五年七月十四日改元。九月十五日外宮遷宮。

戊子 二 大風雨一日一夜。
 九月十六日太神宮式年御遷宮。
 己丑 一八九九 寬喜元
 安貞三年三月五日改元。
 藤原公基朝臣丹後權介入國。
 庚寅 二 五月洪水七月大風。
 九月十五日外宮太神式年遷宮。
 辛卯 三 藤原經範丹後守入國。
 【補】土御門上皇阿波ニ崩ス十一月十二日。
 壬辰 一八九二 貞永元
 八月作式日。寬喜四年四月五日改元。
 【補】十月二日藤原定家新勅撰和歌集ヲ上ル。四日天皇讓位。
 癸巳 六八 天福元
 甲午 文曆元
 乙未 嘉禎元
 丙申 二 聖一國師入唐。藤原永光丹後守任國。
 文曆二年九月十九日。
 足利泰氏任丹後守護任國十二月。
 丁酉 三 嘉禎四年十一月廿三日改元。
 戊戌 一八九八 曆仁元
 曆仁二年二月七日改元。
 【補】後鳥羽院隱岐ニ崩ス。
 己亥 延應元
 大佛脇ヨリ血出。丹後介藤原公雄入國正月。
 延應二年七月十六日改元。
 辛丑 二 東福開山聖一國師歸朝。
 壬寅 三 三月丹後守藤原行雄任國。
 【補】正月九日天皇崩御三月十三日後嵯峨即位九月十二日順德院佐渡ニ崩ス。

七八 癸卯 一九〇三 寬元元

後 嵯 峨 院

土御門第七皇子。

東福寺立。
仁治四年二月廿六日改元。

甲辰 二

【補】四月二十八日鎌倉四代將軍賴經職ヲ罷メ五月五日賴嗣五代將軍宣下。

乙巳 三

丙午 四

丁未 一九〇七 寶治元

後 深 草 院

後嵯峨第一皇子。
【補】素覺法皇。

寬元五年二月廿八日改元。
九月十六日太神宮御遷宮。

戊申 二

己酉 一九〇九 建長元

菅原在匡丹後據トナル十二月。
【補】正月二十九日天皇讓位三月十一日後深草即位年四歲。
無筆和尙入滅。内裏炎上。天下瘡痍布ス。
寶治三年三月十八日改元。九月廿六日外宮式年遷宮。

庚戌 二

辛亥 三

壬子 四

癸丑 五

甲寅 六

乙卯 七

丙辰 一九一六 康元元

丁巳 正嘉元

康元二年三月十四日改元。丹後守藤原賴景三月任命七月廿三日入國。
二月廿三日大地震。

增補緣城寺年代記

戊午 二

【補】四月延曆寺僧徒日吉神興ヲ昇キ園城寺ヲ訴フ。

己未 一九一九 正元元

【補】正嘉三年三月廿八日改元。十一月二十六日天皇讓位。

庚申 九八 文應元

龜山院 後深草之弟。【補】金剛源法皇。

辛酉 弘長元

南禪寺立。文應二年二月二十日改元。

壬戌 二

癸亥 三

【補】中岑和尚誕生。七月二十九日初心愚草成ル。

甲子 一九二四 文永元

弘長四年二月廿八日改元。丹後守平忠世五月任國。

乙丑 二

【補】八月唐ヨリ日本ヲ責メ博多ニ合戦。十二月二十六日續古今和歌集成ル。

丙寅 三

【補】九月十六日太神宮式年御遷宮。七月四日將軍宗尊親王廢セラレ廿四日惟康親王將軍宣下鎌倉七代。

丁卯 四

【補】僧紹明宋ヨリ歸ル。

戊辰 五

【補】九月十五日外宮式年御遷宮。十月後嵯峨上皇剃髮。

己巳 六

日吉神興入洛。即休和尚誕生。

庚午 七

佛光國師來朝。東寺火。五月藤原公冬丹後守任國。

辛未 八

【補】九月高麗書ヲ齎シテ蒙古來寇告ケ。十月蒙古使者趙良弼來ル。北條時宗奏上十二月十六日勅使ヲ伊勢大廟ニ遣シ奉告。

壬申 九

【補】二月十七日後嵯峨法皇崩御。

癸酉 十

蒙古來。

甲戌 十一

【補】正月二十六日天皇讓位三月廿六日御宇多即位。十月五日蒙古對馬ニ寇シ。同十四日壹岐ニ寇シ十月九日筑前ニ寇ス船艦覆沒餘賊遁走。

乙亥 一九三五 建治元

後宇多院 龜山第一皇子。【補】金剛性法皇。夢窓國師誕生。文永十二年四月廿五日改元。【補】蒙古國號ヲ元ト改メ又來ル四月十五日。

丙子 二

【補】正月二十四日元寇國難攘除ヲ十二社ニ祈ル。

丁丑 三

【補】虎鬚誕生。大江季行與謝郡日置ノ地ヲ賜リ日置城ヲ築ク。建治四年二月九日改元。六月藤原行宗丹後守。

戊寅 一九三八 弘安元

【補】八幡神興入洛。元王將夏貴苑文虎等ヲ遣ス時宗博多ニ之ヲ斬ル六月二十五日。

己卯 二

長谷寺火。聖一國師入滅。左衛門尉ヨリ綠城寺へ制札下サル。其寫寶藏ニ有リ。

庚辰 三

【補】蒙古來侵船四千艘。五月二十一日元兵大舉來寇六月五日太宰府ヲ侵ス閏七月一日神風起リ元艦悉ク肥前鷹島ニ没ス。

辛巳 四

平時宗圓覺寺ヲ立。

壬午 五

【補】正月六日延曆寺僧徒神興ヲ奉シ禁闕ニ迫ル。

癸未 六

【補】熊野行幸。五月卜部仲賢丹後守任國。

甲申 七

【補】十二月北條兼時六波羅南ニ入。

乙酉 八

九月十六日太神宮式年御遷宮。

丙戌 九

佛光國師入滅九月三日。

丁亥 十

【補】九月十五日外宮太神宮式年御遷宮。十一月二十一日天皇讓位。

一九四八

正應元

伏見院

後深草第二皇子。
【補】素融法皇。

弘安十一年四月廿八日改元。
八月北條盛房丹後守。

己丑

二

【補】一逼上人示寂。

【補】十月一日將軍惟康親王北條高時ニ追ハレ京師ニ歸リ同月九日久明親王將軍宣下鎌倉八代。

庚寅

三

【補】四月竹野郡等樂寺湯舟七月同與法寺湯舟鑄造鑄大工山川貞清。賀茂在言丹後介入國。

【補】後深草法皇剃髮。

辛卯

四

壬辰

五

十一月大地震人民多死。

【補】興福寺神木ヲ奉シ廷臣五氏ヲ訴フ。

癸巳

一九五三
永仁元

龜山創南門大講堂以下炎上。四月大地震アリ。

正應六年八月五日改元。

甲午

二

八月與謝郡岩屋巖寺石燈籠竝ニ寶篋印塔立ッ。

乙未

三

八月二十四日與謝郡浦島子傳訛成ル。藤原雅孝丹後介入國。

丙申

四

久美濱如意寺へ勅額ヲ下サル勅使藤原朝臣定成。

丁酉

五

【補】六月北條宗方六波羅北ニ同宗宣六波羅南ニ入。

戊戌

六

【補】緣城寺外陳ノ正體掛ル八月一日。七月六日加佐郡松尾寺燒。

己亥

一九五九
正安元

後伏見院

伏見之第一皇子。
【補】理覺法皇。

永仁七年四月廿五日改元。

庚子

二

【補】閏七月三日奈良西大寺觀尊ニ與正菩薩ノ號ヲ賜フ菩薩此ニ始ル。

天王寺石鳥居立。

辛丑

三

【補】正月二十一日天皇讓位三月二十四日後二條即位。

壬寅

一九六二
乾元元

後二條院

後字多之皇子。

正安四年十一月廿一日改元。

癸卯

嘉元元

乾元二年八月五日改元。
【補】十二月十九日新撰和歌集成ル。

甲辰

二

【補】十二月廿二日太神宮式年御遷宮。

乙巳

三

【補】七月十五日後深草法皇崩御。

丙午

一九六六
德治元

虎鬬作聚分韵。

丁未

二

【補】九月十五日龜山法皇崩御。

戊申

一九六八
延慶元

從三月至五月緣城寺二十八部衆造立。嘉元四年十二月十四日改元。十二月廿六日外宮御遷宮。

己酉

二

春日神木入落。丹波郡周枳大宮寶神社五月七日石燈籠立ッ。

庚戌

三

【補】六月廿四日夜大風。

辛亥

一九七一
應長元

【補】金澤貞顯六波羅北ニ北條時敦南ニ入。

壬子

二

延慶四年四月二十八日改元。

癸丑

二

應長二年三月二十日改元。

甲寅

三

【補】三月三月二十八日玉葉和歌集成ル。

乙卯

四

【補】閏三月石清水神人神與ヲ奉シテ京ニ訴フ。

丙辰

五

【補】三月鎌倉幕府火。八月北條維貞六波羅南ニ入。

丁巳

一九七七
文保元

佛國禪師入滅。養老元年ヨリ六百年。

一九七七

增補緣城寺年代記

德治三年十月九日改元。【補】將軍久明親王北條時敦ハレ歸京八月十日邦守親王將軍宣下鎌倉九代。同月二十五日天皇崩御十一月十六日花園即位。

戊午

元應元

【補】二月二十六日天位讓位二十九日後醍醐即位。

己未

元應元

文保三年四月廿八日改元。

庚申

元亨元

自正月三日辰時地震ニテ廿七日迄毎日二三度ツ、動ク東寺塔九輪ノ火焔坤ヨリ良ニユカム。從三日一
至五日一廿三度ツイジ等皆崩ル。【補】爲世續千載和歌集ヲ上ル。

辛酉

元亨元

元應三年二月廿三日。【補】後宇多法皇政ヲ還ス十二月此月天皇親政。

壬戌

元亨元

綠城寺六日講初レ西明院善獻施主。

癸亥

元亨元

八月十四日中峯和尚入滅。九月十六日太神宮式年御遷宮。

甲子

正中元

大洪水正月廿一日於三清涼殿妙超侍者與四千大寺之諸諱師等宗論。十一月廿一日大地震。元亨四年十二
月九日改元。【補】後宇多法皇六月廿五日崩。

乙丑

正中元

九月十五日豐受太神宮式年御遷宮。

丙寅

嘉曆元

興福寺火。大德寺開堂。
正中三年四月廿六日改元。

丁卯

嘉曆元

正澄和尚來朝。長井宗衛丹後守ニ任セラレ入國三月。
五月八日丹後國分寺再建斧始。

戊辰

嘉曆元

國分寺本尊移徒法會十月八日。

己巳

元德元

嘉曆四年八月廿九日改元。
六月廿四日日置郷高石地藏造立。

庚午

元弘元

明極和尚來朝。
【補】北條時益六波羅南ニ北條仲時六波羅北ニ入。

辛未

元弘元

光嚴院 後伏見第一皇子。
北條高時立光嚴帝。

壬申

正慶元

元弘二年四月廿八日改元。但光嚴院所定。藤原隆宗丹後守三月任。
【補】三月七日後醍醐天皇ヲ隱岐ニ遷シ四月二日隱岐國分寺ニ達シ給フ。

米壹斗三百錢飢渴尤モ甚シ。
【補】元德三年七月二日大地震數日不止
七日富士山崩數十丈。分吉改元。

癸酉

建武元

【補】閏二月二十四日天皇隱岐ヲ出テ二十八日伯耆國大阪ニ着名和長年天皇ヲ船上ニ奉ズ。六月車駕
還京五日正慶ノ號ヲ廢ス。 王政復古。
元弘四年正月廿九日改元。四月九日國分
寺金堂供養。

甲戌

建武元

後醍醐院復位

一色範光丹後守護ニ任セラシム。

乙亥

延元元

【補】尊氏鎌倉ニ據リテ叛シ自ラ征夷大將軍關東管領ト稱ス。

丙子

延元元

光明院 光嚴之弟。
北朝光明帝立。

丁丑

延元元

大燈國師入滅。

戊寅

曆應元

尊氏任將軍等持院殿。延元三年八月廿八日改元。
【補】南朝延元三年。

己卯

曆應元

天龍寺立。

庚辰

曆應元

【補】八月十六日後醍醐天皇古野ニ崩御。十月六日後村上即位。【補】南朝延元四年。
【補】延元五年四月廿八日改元。
興國元年。

辛巳

康永元

大地震。
【補】二月親房職原抄ヲ上ル。興國二年。
愚中和尙入唐。曆應五年四月廿七日改元。

壬午

康永元

【補】興國三年。
八坂塔供養。十二月廿八日太神宮式年御遷宮。

癸未

康永元

【補】興國四年。
正月賀茂在丹後權介任國。

甲申

貞和元

【補】興國五年。
八月廿八日天龍寺供養。大友賴時丹後守八月任國。康永四年十月廿一日改元。十二月廿七日外宮御遷宮。

乙酉

貞和元

【補】興國六年。
天下分チ南方ニハ改ニ平號一名正平宮方ニハ用レ之將軍方ニハ不用レ之。熊野郡品田石地藏立日本六體
地藏ノ一ト云。七月。【補】興國七年七月改元。

丙戌

貞和元

三月安部良宣丹後介十二月源具家丹後守入國。

丁亥

貞和元

【補】正平二年。

八九 戊子

崇光院

光嚴之第一王子。
【補】勝圓心法皇。

十一月十一日花園法皇崩御。
【補】正平三年楠正行戰死。

己丑

二〇〇

清水寺火。二月藤原國氏丹後權掾任國。
【補】正平四年。

庚寅

二〇一〇

貞和六年二月廿七日改元。菅原在音丹後掾。山背花有丹後少目任國三月。
【補】正平五年。

辛卯

二〇二〇

【補】十月足利義詮南朝ニ降ル。天皇還京。
【補】正平六年。

九九 壬辰

二〇三〇

後光嚴院
崇光院之弟。
【補】光融法皇。
六月大亂。
【補】十二月尊氏後光嚴院ヲ奉ツテ近江ニ走ル。正平八年。

觀應三年九月廿七日改元。【補】山名時氏南朝ニ歸シ丹後國ヲ奪フ。五月天皇奈良ニ幸シ八月義詮光嚴帝ヲ立。

癸巳

二〇四〇

【補】正平九年。

甲午

二〇五〇

【補】正平十年。
興謝郡山田郷四辻八幡石燈立卯月廿八日。卯月廿四日足利尊氏地蔵尊ヲ綠城寺ニ寄進。

乙未

二〇六〇

【補】正平十一年。
文和五年三月廿八日改元。

丙申

二〇七〇

【補】正平十二年。

丁酉

二〇八〇

【補】正平十三年。

戊戌

二〇九〇

【補】正平十四年。
正月三日天龍寺火。五月江田良宗丹後守。
【補】寶篋院義詮征夷大將軍十二月十八日足利二代。【補】正平十五年。

己亥

二一〇〇

【補】十二月廿二日大將義詮山名細川ヲ首トシテ南方發向アリ其勢七千餘騎ト云。源長尙丹後守平行知權介。
【補】四月新千載和歌集成ル。
花園開山入滅。
【補】五月大地震。【補】正平十五年。

庚子

二一一〇

【補】正平十六年。
應和異本延文六年三月廿九日改元。

辛丑

二一二〇

【補】正平十七年。
八月常綠城寺へ信家ヨリ制札ヲ下其寫寶藏ニ有リ。康安二年九月廿三日改元。

壬寅

二一三〇

【補】正平十八年。
二月廿六日太神宮式年御遷宮。山名時氏南朝ヨリ足利將軍ニ降リ。因伯ノ外丹波丹後美作守護職トナル。
【補】八月廿五日加佐郡河邊八幡石燈籠立ッ。
此年痘瘡流行。
【補】正平二十年。
此年疫疾流行。
【補】正平二十一年。
【補】正平二十二年。
後龜山院【補】正平二十三年三月十一日天皇崩御皇長子二十一日即位長慶天皇ト申シ、大正十五年御歷代ニ加フ。北朝二月十七日改元。十二月鹿苑院義滿大將軍足利三代。
丹後全國檢地。
【補】正平二十四年。
【補】南朝建德改元月日不詳。
【補】丹後守護山名時氏卒十二月二十八日。長子伊豆守師義守護ヲ襲フ。三月二十三日北朝後光嚴院禪位。南朝建德二年。
御圓融院
後光嚴之皇子。
【補】光淨法皇。
長慶天皇位ヲ皇太弟熙成親王ニ讓ル之ヲ後龜山天皇ト申シ奉ル。文中二年八月二日。
綠城寺金堂四月六日炎上上之坊失火境内灰盡養老元年開創ヨリ六百五十八年目ナリ。
【補】正月後光嚴院崩。【補】文中三年。
南朝天授元年。應安八年二月廿七日改元。
【補】南朝改元月日不詳。
丹後守護山名師義卒三月十一日。男播磨守滿幸守護ヲ襲フ。
【補】天授二年。
【補】天授三年。

癸卯

二一四〇

甲辰

二一五〇

乙巳

二一六〇

丙午

二一七〇

丁未

二一八〇

戊申

二一九〇

己酉

二二〇〇

庚戌

二二一〇

辛亥

二二二〇

壬子

二二三〇

癸丑

二二四〇

甲寅

二二五〇

乙卯

二二六〇

丙辰

二二七〇

丁巳

二二八〇

永和元

三

戊午 四
 己未 康曆元 二〇三九
 庚申 二
 辛酉 永德元 二〇四一
 壬戌 二
 癸亥 三
 甲子 至德元 二〇四四
 乙丑 二
 丙寅 三
 丁卯 嘉慶元 二〇四七
 戊辰 二
 己巳 康應元 二〇四九
 庚午 明德元
 辛未 二
 壬申 三

緣城寺金堂柱立。

【補】天授四年。

永和五年三月廿二日改元。六月松田貞秀丹後守任。

【補】天授五年。

【補】六月光明院法皇崩。九月八日外宮太神宮式年御遷宮。天授六年。

康曆三年二月廿四日改元。南朝弘和元年。八月二十日竹野郡上山寺結衆十八人寶篋印塔ヲ立。

宮津金屋谷大板地藏尊建。

【補】四月十一日後圓融院禪位。十二月後小松即位。年六歲。

【補】弘和二年。

後小松院

後圓融之皇子。

【補】弘和三年。

永德四年二月廿七日改元。南朝元中元年。

十二月藤原爲重後拾遺和歌集上ル。

【補】元中二年。

【補】元中三年。

至德四年八月廿三日改元。八月七日竹野郡此代安樂寺寶篋印塔立。

【補】元中四年。

【補】一色範光卒正月二十五日歲六十四慈雲寺殿。範光子詮範孫滿範ト共ニ加佐郡ヲ引拂ヒ丹波郡吉原山ニ移リ一色ノ氏ヲ忍ビ吉原左京ト名乗ル。

嘉慶三年二月九日改元。

【補】元中六年。

七月十七日大風洪水春ヨリ大飢饉ニテ餓死多シ。康應二年三月廿六日改元。大吉實昌丹後守入國。

【補】元中七年。

十二月二十日太神宮式年御遷宮。十二月晦日山名奥州亂入洛中内野合戰是也。氏清切腹ヲ遂ル。

【補】元中八年。

八月廿八日相國寺供養。南北講和天下一統三種神器入洛。【補】元中九年閏十月五日。一色滿範山名ヲ亡ホシ丹後再封正月四日。【補】將軍義滿一色滿範ヲ丹後守護トス。

癸酉 四

甲戌 應永元 二〇五四

乙亥 二

丙子 三

丁丑 四

戊寅 五

己卯 六

庚辰 七

辛巳 八

壬午 九

癸未 十

甲申 十一

乙酉 十二

丙戌 十三

丁亥 十四

南禪寺火。【補】四月二十六日後圓融院崩御。五月十八日將軍方太政大臣丹後九世戶御參詣若州木津庄高濱へ御成。

相國寺回祿。明德五年七月五日改元。【補】十二月十七日將軍義滿剃髮勝定院義勝將軍宣下足利四代。

【補】六月一色左京太夫詮範出家法名信將。九月十九日將軍家一色家九世戶御參詣若州へ御成。

【補】正月十三日崇光院法皇崩。

大内義弘兵ヲ和泉ニ起ス十二月七日。

相國寺塔供養。

二月廿八日外宮太神宮式年御遷宮。

内裏回祿七月大洪水。與謝郡拜師郷溝尻燈籠塔立。六月廿四日。

【補】一色滿範剃髮道範ト號ス。

加佐郡鹿原金剛院開帳。【補】五月將軍家西御所一色道範父子ノ御臺相與ニ九世戶御參詣。十二月大地震。

【補】八月明船來リ僧岐陽詩經四書ノ新註ヲ齎ス。

【補】明使趙居仁來リ八月僧室ヲ明ニ遣ハス。

【補】三月初鮮使五月明使來ル義滿北山ニ引見ス。

大風吹大飢饉人民多死。【補】六月前國主一色詮範卒。法號長慶寺殿信將。【補】拾月一日國主道範京都室町ノ館ニ三河代官小笠原明鎮三郎父子ヲ拘禁シ。後丹後ニ護送シ石川ノ城ニ籠閉ス。

圓覺寺火。【補】正月五日大地震。

戊子 十五

【補】二月朝鮮使來朝六月幕府復書ス。

己丑 十六

愚中和尚遷化八十七歲。心王院中興助葬四月七日寂。正月一色滿範卒去法號慈光寺殿。子持範義範遺領ヲ爭フ。【補】三月石川城ニテ明鏡父子ヲ切腹セシム。心王院二世教葬四月廿二日寂。

庚寅 十七

唐使來朝。十二月廿日太神宮式年御遷宮。【補】一色持範義範和睦。

辛卯 十八

【補】八月二十九日天皇讓位。十月二十六日將軍義持北山ヨリ三條萬里小路本御所ニ御移ニ付キ一色五郎義範同御一族皆々御移。後小松院第一王子。【補】大寶壽法皇。

壬辰 十九

稱光院

癸巳 廿

建長寺回祿。【補】十二月天皇即位大典ノ段錢ヲ諸國ニ徵シ十九日即位。六月大雪。【補】幕府四月七日一色義範ヲ遣シ北畠滿雅ヲ擊ツ。養老元年ヨリ七百年。鎌倉亂。

甲午 廿一

【補】鎌倉府應永戰死供養碑ヲ清淨光寺ニ建ツ。蒙古來。十二月廿一日豐受太神宮式年御遷宮。【補】我邊民朝鮮及明境ヲ侵シ朝鮮明兵對島ニ來寇。饑饉米一升錢百文。

乙未 廿二

【補】十二月七日一色義範幕府侍所別當ヲ罷メ佐々木高教代リ補ス。【補】七月十五日後龜山法皇崩御。

丙申 廿三

鎌倉亂。

丁酉 廿四

鎌倉府應永戰死供養碑ヲ清淨光寺ニ建ツ。

戊戌 廿五

蒙古來。十二月廿一日豐受太神宮式年御遷宮。

己亥 廿六

【補】我邊民朝鮮及明境ヲ侵シ朝鮮明兵對島ニ來寇。饑饉米一升錢百文。

庚子 廿七

鎌倉亂。

辛丑 廿八

【補】十二月七日一色義範幕府侍所別當ヲ罷メ佐々木高教代リ補ス。【補】七月十五日後龜山法皇崩御。

壬寅 廿九

鎌倉亂。

癸卯 三十

正月廿五日晨日三出。久美濱如意寺山頂ノ池ヨリ鰐口出ル。【補】三月十八日將軍義持罷メ長徳院義量職ヲ嗣ケ足利五代。上皇幸相國寺。【補】醍醐寺石山寺ト爭ヒ興福寺東大寺ト門フ。八月十四日午尅相國寺回祿。

甲辰 卅一

鎌倉亂。

乙巳 卅二

鎌倉亂。

丙午 卅三

鎌倉亂。

丁未 卅四

九月十七日三重城主大江越中守等身地藏尊ヲ文殊ニ建ツ。【補】一色義範幕府ノ命ヲ奉シ山名時熙ト共二十月二十八日赤松滿祐ヲ擊ツ。應永卅五年四月廿七日改元。【補】七月二十日天皇崩御廿八日後花園踐祚。

戊申 卅五

應永卅五年四月廿七日改元。【補】七月二十日天皇崩御廿八日後花園踐祚。

己酉 永享元

後花園院 正長二年九月五日改元。【補】三月十五日普廣院義宣將軍宣下名ヲ義教ト改メ足利六代。

庚戌 二

常喜寺立。

辛亥 三

十二月十八日太神宮式年御遷宮。【補】十二月十一日將軍義教室町北小路ノ新第二徒ル。

壬子 四

四月廿七日因州太守等身地藏尊ヲ文殊ニ立。【補】九月廿四日大地震。幕府侍所別當ヲ一色義範ニ復メ十月十九日。【補】延曆寺僧神與ヲ奉シテ入京。七月京師騷擾八月三井寺ト戰フ。

癸丑 五

九月十五日外宮式年御遷宮。

甲寅 六

【補】八月幕府延曆寺ノ寺田ヲ削ル僧徒怒リ神與ヲ奉シテ京師ヲ侵メ幕府山門及ヒ坂本ヲ攻メ僧徒ヲ破ル。

乙卯 七

二月四日山門中堂炎上大衆三十五人腹切入火。【補】貞成親王十月廿三日古今著聞集ヲ上ル。

丙辰 八

鎌倉寺金堂供養八月廿四日。

丁巳 九

八坂塔火。【補】足利持氏一色直兼ヲ追フ六月七日。

戊午 十
己未 十一
庚申 十二
辛酉 嘉吉元
壬戌 二
癸亥 三
甲子 文安元
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四
戊辰 五
己巳 寶徳元
庚午 二
辛未 三
壬申 亨徳元

【補】 一色義範七月幕府ノ命ヲ奉シ大僧正義昭ヲ天河ニ擊ツ。

【補】 一色兵部少輔持信、藤原雅世等勅ヲ奉シ新續古今和歌集ヲ撰シ六月廿七日上ル。

五月十四日相公於大和陣誅一色義範同日誅土岐之世安追腹切衆數百人於三國々所々。

【補】 武田信賢一色家領若狹ヲ奪ヒ丹後ヲ窺フ。普廣院殿薨六月廿四日。赤松奉打之。則播州へ下向山名金吾播州へ發向同九月赤松腹ヲ切ル。

永享十三年二月十七日改元。將軍若宮御元服。

【補】 十一月七日慶雲院義勝征夷大將軍ニ任ス足利七代。九月諸國大洪水。西明院三世慶融十月十八日。

【補】 七月二十一日將軍薨シ弟義成職ヲ襲ケ足利八代。三月二日天ヨリ大豆降ル其豆芽出生花白膠木ニ同シ。

嘉吉四年二月五日改元。【補】 古今集撰者一色持信子左京太夫教親丹後守護。

四月二日南禪寺回祿。

【補】 加佐郡西大浦多福寺板地藏。與謝郡石田ヲ字大板碑立ツ。一色教親侍所長者トナル。五月五日。

八月琉球人來ル。十月大地震。

文安六年七月廿八日改元。【補】 與謝郡府中難波野見谷逆修塔建ツ。十二月十七日丹後守護一色教親卒ス。

一色左京太夫義直丹後國主トナル。八月十八日宇川上山寺懸佛奉納。

寶徳四年七月廿八日改元。九月竹野郡網野神社再建。

癸酉 二
甲戌 三
乙亥 康正元
丙子 二
丁丑 長祿元
戊寅 二
己卯 三
庚辰 寛正元
辛巳 二
壬午 三
癸未 四
甲申 五
乙酉 六
丙戌 文正元
丁亥 應仁元

【補】 五月十三日將軍義成名ヲ義政ト改ム。

【補】 十月暴民嘯集德政ト稱シ京師ヲ橫掠ス。亨徳四年七月廿五日改元。十二月晦日大地震。

心王院四世舜盛六月七日。【補】 八月廿九日後崇光院崩。

九月廿九日洪水。康正三年九月廿八日改元。【補】 十二月神璽南朝遺族ノ爲メニ禁闕ヲ出ツ。

赤松次郎法師奪還ニ神璽ニ拜ニ領賀州八月三十日。

三重郷國富兵庫助丹後田數帳ヲ寫ス五月三日。

長祿四年十二月廿一日改元。

【補】 兵庫關通船ヲ檢シテ稅錢ヲ收ム太神宮及石清水加茂春日ノ船ハ之ヲ免ス。

十二月廿七日太神宮式年御遷宮。

【補】 明僧等揚來ル。

【補】 七月十九日天皇讓位政ヲ院中ニ聽ク。

後土御門院 後花園之皇子。【補】 正等觀院。

寛正七年二月廿八日改元。竹野郡宇川上山寺懸佛奉納。十一月廿九日大地震。

正月廿八日御靈合戰。四月一色義直丹後ノ兵ヲ率ヒ山名ニ黨シ。五月廿五日山名細川合戰天下大亂。文正二年三月五日改元。

戊子 二
己丑 三
庚寅 二
辛卯 三
壬辰 四
癸巳 五
甲午 六
乙未 七
丙申 八
丁酉 九
戊戌 十
己亥 十一
庚子 十二
辛丑 十三
壬寅 十四

【補】正月朔天皇幕府ニ在リ朝儀ヲ停ム。九月廿一日東軍西兵ヲ丹後ニ破リ十月八日西軍東兵ヲ鳥羽ニ敗ル。
應仁三年四月廿八日改元。【補】應仁ノ亂一色義直御敵トナルニ因リ若狹ノ守護武田大膳太夫信賢丹後ノ守護ニ補セラル。四月丹後討入一色義直ノ兵ト普甲山寺ニ戰フ。
十一月十五日與謝郡山田郷菩提寺鐘鑄。
【補】十二月十七日後花園法皇崩御。
【補】丹後守護武田信賢卒六月二日。

武田内逸見駿河入道爲大將九月十三日丹後加佐郡へ亂入。
【補】一色義直ノ弟義遠ト戰フ。常徳院義尙十二月十九日將軍宣下足利九代。

六月十一日丹後大地震。

規矩ヲ當寺ニ下サル其寫寶藏ニアリ法度狀問。

【補】九月二十四日一色義直三河守護代東條國氏ヲ逐フ。

【補】十一月應仁亂漸ク平ギ京師焦土ト爲ル。

【補】八月二日丹後國主一色義直伊勢守護トナル。

六月二日大洪水閏七月十九日洪水。

癸卯 十五
甲辰 十六
乙巳 十七
丙午 十八
丁未 十九
戊申 二十
己酉 二十一
庚戌 二十二
辛亥 二十三
壬子 二十四
癸丑 二十五
甲寅 二十六
乙卯 二十七
丙辰 二十八
丁巳 二十九

山名政豊征伐播州十二月。
【補】丹後國主一色義直從四位下五月。

正月廿二日赤松退播州。四月廿三日熊野郡佐野城主死法名前備州廣林源譽禪定門。
【補】九月四日一色義春卒ス。

十二月二十日伊勢外宮火。

九月二日夜大風。

九月十二日義尙將軍江州御動座。丹後一色義直殿御從軍。
文明十九年七月二十日改元。

緣城寺鐘鑄十月廿三日。三月十三日和田野村楢森宮郎春日大明神願主教葬、表書楢森宮御神體箱丹後國竹野郡恆枝保裏書春日大明神御本地箱。

八月廿五日大風洪水。長亨三年八月廿一日改元。
【補】三月廿六日將軍義尙薨ス。

八月一日三重郷榎並興善菩提ノ爲其妻妙産長壽寺へ梵鐘ヲ寄進ス。
【補】正月十三日惠林院義植嗣ギ七月五日將軍宣下足利十代。

義植將軍御動座江州六角退治。

延徳四年七月十九日改元。

義植將軍越中へ都ヲ落チ給フ。緣城寺宮殿造立。

六月十日地震遠州濱名陥没シテ海トナル。
【補】十二月廿七日法住院義澄將軍トナル。足利十一代。

【補】九月廿六日太政大臣冬良新撰菟玖波集ヲ上ル。

五月十一日大地震。八月廿五日大地震。

五月廿八日一色左京亮於善甲ノ山中御生害御内七十三人討死。同日於善王寺石河中務齋腹ヲ切。

戊午 七
己未 八
庚申 九

【補】九月二十八日天皇崩御。十月廿一日後鳥羽院追號。

辛酉 文龜元

後柏原院

明應十年二月廿九日改元。武田元信將軍義澄ヨリ丹後守護ニ補セラル。【補】元信丹後ニ攻入り一色義遠ト加佐郡ニ戰フ。義遠與謝郡石川城ニ入ル。

壬戌 二

【補】元信昔欽國人順ハズ一揆六月二十日蜂起シテ子孫ヲ小濱ニ殺ス。

癸亥 三

【補】天皇戒ヲ雲龍院善教ニ受ケ給フ二月廿八日。

甲子 永正元

大飢饉風癘。文龜四年二月三十日改元。

乙丑 二

丙寅 三

三月廿七日武田丹後國加佐郡へ亂入。七月廿八日渡河八月三日於宮津合戰始リ細川殿武田合力。【補】年代記要四月廿七日細川澄元京師ヲ發シ武田元信ヲ援ク。六月十二日元信一色義有ヲ丹後ニ攻ム。六月廿四日細川右京大夫爲ニ臣殺サル。廿七日武田敗軍澤藏軒宗益於宮津一打死同日十六ヶ國合力勢没落ス。【補】年代記要四月廿七日細川政元兵ヲ徵シ一色義有ヲ丹後ニ討ツ。六月廿七日一色義有赤澤朝經和ストアリ。

丁卯 四

【補】將軍義澄近江ニ出奔シテ薙髮シ前將軍京ニ入り七月朔日再ビ征夷大將軍トナル。七月九日一色義直卒加佐郡龍勝寺ニ葬ル法名天岩行公。

戊辰 五

己巳 六

八月七日大地震。四天王寺石鳥居崩裂。

庚午 七

丹後綠城寺下之坊寺立。

辛未 八

心王院五世快舜十月廿五日。

壬申 九

癸酉 十
甲戌 十一
乙亥 十二
丙子 十三
丁丑 十四
戊寅 十五
己卯 十六
庚辰 十七

八月十四日自但州丹後久美濱亂入九月八日敗軍。

養老元年ヨリ八百年。

辛未 大永元

【補】年代記要五月廿五日幕府栃木植綱ヲシテ丹後守護一色義清ヲ援ケ一色九郎ヲ擊タシム。八月八日一色義清若狹武田元信ヲ攻ントス。幕府朝倉孝景ヲシテ元信ヲ援ケシムト。

壬午 二

永正十八年八月廿三日改元。十二月丹後守護元信卒去。【補】武田元信子元光丹後守護ヲ嗣グ。十二月廿五日萬松院義晴征夷大將軍トナル足利十二代。

癸未 三

丹後大悲寺金堂炎上二月十四日了。大悲寺今大悲寺綠城寺總分末寺。

甲申 四

【補】八月六日延曆寺日蓮宗ヲ滅サンコトヲ管領ニ求ム。

乙酉 五

與謝郡岩屋雲巖寺兵燹ニ罹ル夏七月。

丙戌 六

【補】四月七日天皇崩御。

丁亥 七

後柏原皇子。

六百 丁亥

後奈良院

丹後海賊若狹小濱西津浦濱ヲ侵掠シ武田元光逐テ加佐郡ニ討ツ。

戊子^{二八八} 享祿元 大永八年八月二十日改元。

己丑 二

庚寅 三 七月御室惠忠僧正丹後巡錫。

辛卯 四 七月十九日竹野郡福昌寺逆修塔立。

壬辰^{二九二} 天文元 緣城寺鰐口掛ル十月。享祿五年七月廿九日改元。

癸巳 二 【補】 一向宗徒法華宗徒ト鬥フ。

甲午 三 【補】 一向宗徒細川晴元ト戰フ。

乙未 四 【補】 一向宗徒將軍ノ兵ト戰フ。

丙申 五 自延曆寺ト六角殿ニ京中ノ法華宗退治法華方千餘人討死。誓願寺炎上七月廿七日。

丁酉 六 【補】 曆博士加茂在康止月剃髮ス。

戊戌 七 十月十八日ヨリ大悲寺千部經アリ。

己亥 八 【補】 武田元光剃髮宗勝ト號ス。

庚子 九 九月七日吉原嶺山麓逆修塔立。

辛丑 十 十二月廿六日大悲寺火事丑尅。 【補】 正月五日根來寺僧覺饒ニ大師號ヲ賜フ延曆寺ノ僧徒服セズ。神輿ヲ奉ツテ入京。

壬寅 十一 【補】 四月八日撰錢流通ノ澁滯ヲ禁シ背ク者ハ官没トス。

癸卯 十二

八月廿五日大隅種子ヶ島ニ葡萄牙船漂着島司時幾鐵砲竝ニ火藥ノ製法ヲ傳フ。

甲辰 十三 三月二日申尅大谷進藤五箇城討取。同月廿九日寅尅ニ彼ノ兩人心替シテ伊賀尉號夜討生害。七月溝谷等樂寺逆修塔立。

乙巳 十四

【補】 十二月二十日光源院義輝將軍ト爲ル足利十三代。

丙午 十五 高野山大塔カネイ八月廿五日高サ六尺アツサ七寸。

丁未 十六 三重郷彌陀ヶ成ニ阿彌陀石像立ツ。

戊申 十七 緣城寺本尊開帳。 【補】 ホルトガル宣教師ザビエル來朝切支丹宗ヲ傳フ。

己酉 十八 二月廿一日ヨリ成相寺千部經アリ。

庚戌 十九 三月廿一日ヨリ山城於ニ嵯峨ニ十萬部經アリ。

辛亥 二十

【補】 武田元光七月十日卒法名發心寺殿宗勝子伊豆守信豐丹後守護職ヲ襲グ。

壬子 廿一

二月廿一日ヨリ成相寺千部經アリ。

癸丑 廿二

甲寅 廿三

乙卯^{三二五} 弘治元

正月七日粟屋丹後加佐郡コツトイサキノ城ニテ腹切。九月十日大悲寺柱立閏十月九日ヲタマシ。

丙辰 二 天文廿四年十月廿三日改元。

丁巳 三 【補】 武田信豐十月六日卒法名靈雲寺殿紹真長子大膳太夫義統丹後守護ヲ嗣グ。

戊午 永祿元 正親町院

後奈良皇子。

天下大旱。一色義道父義幸ノ讓ヲ受ケ國主トナル。弘治四年二月廿八日改元。

己未 二
庚申 三
辛酉 四
壬戌 五
癸亥 六
甲子 七
乙丑 八
丙寅 九
丁卯 十
戊辰 十一
己巳 十二
庚午 元龜元
辛未 二
壬申 三

【補】五月十九日織田今川桶狭間合戦。

【補】切支丹宣教師ウイレヲ京師ニアリテ法ヲ畿内ニ弘ム。

【補】大村純忠宣教師ヲ豊後ニ召シ洗禮ヲ受ケテ天主堂ヲ建ツ。

仲禪寺金堂炎上閏十二月晦日酉尅。宇川上山寺千部經アリ三月。五箇舟岡山麓四月五日逆修塔立。八月彼岸與謝郡大島逆修塔立。九月廿三日外宮永亨六年百三十年目御遷宮。

九世戸ニナイテ十禮十方牧有。

二月廿六日三重郷森本大逆修塔立ッ大サ三丹一ナリ。

四月十八日五箇笛原寺大門逆修塔立ッ。

【補】正月朔宣教師フロエー幕府ニ賀正ス。五月將軍義輝弑セラル。

八月宇川上山寺寶篋印塔立。

【補】二月八日大智院義榮大將軍ト爲ル足利十四代。九月義榮薨ッ十月十八日靈陽院義昭大將軍ヲ拜ス足利十五代。

【補】四月廿五日信長切支丹教師バードレンヲ安土ニ引見シ京師ニ宣教ヲ允ス。

【補】永祿十三年四月廿三日改元。七月竹野郡等樂寺山風呂逆修塔立。

【補】長崎開港。

七月廿八日大風。

癸酉 天正元
甲戌 二
乙亥 三
丙子 四
丁丑 五
戊寅 六
己卯 七
庚辰 八
辛巳 九
壬午 十
癸未 十一
甲申 十二
乙酉 十三
丙戌 十四
丁亥 十五

七月廿九日大風。元龜四年七月廿八日改元。

【補】一色義道足利義昭ニ從フ。天正中中原山廢寺纒ニ本堂屋敷ノミ残り觀音山下四辻堂ニ安置ス。雄坂寺本堂炎上七月十八日午尅。大雪降久美濱内海水ハリ湊迄テ陸地ノ如ク通ル也。九月丹波郷後藤家逆修塔緣城寺墓地ニ立。

【補】織田信長改メテ一色義道ヲ丹後ニ封ズ。義道無道國人順ハズ。

【補】延曆寺ノ僧徒年號ヲ以テ寺號ト爲スモノ延曆寺ノ外アルベカラズト切支丹永祿寺ヲ訴ヘ南蠻寺ト改稱。

宇川上山寺中野城主小倉備前守繁弘祈願所ニテ百廿石奉納ノ處中野城此年落城上山寺中廿五坊亡フ南坊門坊ハ修驗ト成ル。

【補】織田信長長岡藤孝ヲシテ丹後ヲ征セシム。藤孝子忠興與元ト共ニ丹後ニ入り宮津猪ノ岡八幡山ニ戰ヒ敗レテ丹波ニ退ク。

【補】藤孝忠興等父千明智光秀ノ後援ヲ得テ初春加佐郡ニ攻入り八田城ヲ突ク義道防ケ能ハズ城ヲ出テテ中山ニ戰死ス。子義俊弓本稻富城ニ據ル。

【補】英船始メテ平戸ニ來ル六月。

長岡殿細川越中守殿入國所々地頭職關所被成、八月廿日吉原殿腹切、是ヨリ神社佛開田地皆落ル也。

【補】一色義俊宮津ニ誘殺セラル。

早魁。大村純忠大友義鎮有馬鎮實西教ヲ信シ、其臣四人ヲ伊太利ニ遣ス昨年五月發シ本年二月歸朝。

【補】大地震十一月九日。熊野郡久美濱本願寺千體佛讓與始ル。

【補】十月十三日太神宮寛正三年百廿四年目正遷宮、十五日外宮遷宮。

【補】十月廿九日大地震。

【補】七月竹野郡福昌寺逆修塔立。

【補】十一月七日天皇禪位。

後陽成院 正親町孫誠仁之子。

九州へ關白殿御陣立貳月。島津降參七月開陣。

戊子 十六 四月十四日主上御幸關白殿へ。京都大佛屋鋪石積少々狂。聚也同釘カスガイノ用國々百姓ノ武器出ス也。丹波郷行人塚立ッ。

己丑 十七 【補】 關白秀吉西教ヲ禁シ會堂ヲ燒ク。

庚寅 十八 二月中旬ヨリ關東へ出陣相摸國小田原城へ詰メヨセラレ四月ヨリ七月ノ初ニ没落則亦奥州入在之。

辛卯 十九 【補】 切支丹宗國禁トナル。

壬辰 文祿元 二月初ヨリ高麗入り諸國ノ人數同。

癸巳 二 【補】 我諸將朝鮮王沈惟敬ノ和ヲ納レ二王子ヲ捕擄トシテ凱旋ス。

甲午 三 【補】 秀吉西教徒ヲ捕ヘ長崎ニ刑ス。

乙未 四 【補】 西教師オルガンタン大村有馬ニ布教ス。

丙申 慶長元 閏七月大地震愛宕山ユリクダス皆坊中立カアル也。大阪フシミノヤカタツブレ數人死。文祿五年十一月廿七日改元。【補】 西教徒國土ヲ窺寄セントスル者露ハル。

丁酉 二 丹波郡周枳村少林庵草立後周德寺ト號。

戊戌 三 【補】 朝鮮再征。

己亥 四 【補】 出征ノ將士朝鮮ヨリ還ル秀吉薨。

庚子 五 【補】 阿彌陀峰秀吉廟四月十七日豐國大明神ノ號ヲ賜フ。

辛丑 六 【補】 出陣中田邊城攻古今傳授。七月二十七日。

壬寅 七 京極殿信州ヨリ御入國。細川玄蕃頭殿御判物緣城寺エ下サル。田邊城主丹後守道可公御判物緣城寺へ下サル八月廿六日。

癸卯 八
甲辰 九
乙巳 十
丙午 十一
丁未 十二
戊申 十三
己酉 十四
庚戌 十五
辛亥 十六
壬子 十七
癸丑 十八
甲寅 十九
乙卯 元和元
丙辰 二
丁巳 三

【補】 四月十日宮津大久保盛林寺上宮津城山ノ隣ニ引越。

【補】 二月十二日徳川家康征夷大將軍トナル江戸第一代東照宮。

【補】 心王院入道舜植八月四日寂八十四。此年始メテ西洋ヨリ煙草長崎ニ傳ハル。

【補】 五月京極丹後守宮津ニ大頂寺ヲ立。

【補】 心王院九世永舜正月七日寂七十一歲。

【補】 京都大佛立初。

【補】 肥前島原切支丹ノ亂。

【補】 九月廿一日内宮廿七日外宮式年御遷宮。

【補】 三月二十七日天皇讓位四月十二日後水尾即位。切支丹宗制禁後法度八月六日。

【補】 尾張名古屋城修築。

【補】 後水尾院 後陽成之皇子。

【補】 十二月十八日令シテ西教徒ヲ誅竄セシム。

【補】 京都大佛立カネイ在。大阪籠城十月ヨリセメヨセ正月ヨリアツカイニナル城ヲアル。

【補】 西教徒ヲ阿瑪港及ビ奥州外濱ニ謫ス。十一月二十五日地震越後高田大地震海嘯。

【補】 卯月ヨリ亦大阪ヘセメヨセ五月七日城ヲヤク。五月梅池ナル十六日アラレフル未時也。高道道山公判物緣城寺へ十月十三日下サル。慶長二十年七月十三日改元。

【補】 養老元年緣城寺開創ヨリ九百年。

【補】 人身賣買唐船互市天主教ヲ嚴禁ス。

【補】 八月二十六日後陽成上皇崩御。

戊午 四
己未 五
庚申 六
辛酉 七
壬戌 八
癸亥 九
甲子 二三三四 寬永元
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四
戊辰 五
己巳 六
庚午 七
辛未 八
壬申 九

【補】正月朔大輿出入ノ禁ヲ定ム。

【補】八月二十九日切支丹宗徒六十餘人ヲ七條磔ニ火刑ス。

【補】京極丹後守高知八月十二日卒遺命ニヨリ所領三分。嫡男高廣七萬八千石宮津。次男高三三萬五千石田邊。猶子高道一萬三千石峰山。

【補】八月二十六日暹羅國使臣來朝。

西明院ノ寺立七月十八日盛舞。

京極高道公峰山へ始封。

緣城寺千部經有リ。

【補】將軍秀忠職ヲ讓リ七月二十七日大猷院家光將軍宣下江戶三代。

今山寺千部經有リ三月二日ヨリ。今山寺今迎接寺。元和十年二月三十日改元。

緣城寺心王院ノ寺立普舞。京極丹後守高廣宮津城築キ入城ス。宮津京街道智源寺創立。

【補】宮津金屋谷國清寺建立。

カヤ西光寺鐘鐺有リ。

正月廿一日大地震。早四月二日ヨリ七月十二日迄。

【補】五月切支丹宗徒ヲ嚴罰ニ處ス。

緣城寺本堂廿八部修理有之。心王院十世普舞三月廿九日寂。九月廿一日內宮廿三日外宮式年遷宮。

【補】十一月八日天皇讓位。

明 正 院 後水尾之女。

丹後諸眞言退散山伏共ニ二月十日ヨリ內ニ京極丹後守御ハライ同五月歸山其內緣城寺ハ京極主膳之頭領地ナレバ無事也。

高野山大塔金堂御影堂檀場諸堂不殘炎上九月廿一日ソレヲケシ十月五日炎上。

癸酉 十

甲戌 十一

乙亥 十二

丙子 十三

丁丑 十四

戊寅 十五

己卯 十六

庚辰 十七

辛巳 十八

壬午 十九

癸未 二十

甲申 二十一三三四 正保元

乙酉 二

丙戌 三

丁亥 四

【補】七月人身賣買ノ禁ヲ布キ目安越訴ヲ制シ八月公事裁判ノ法ヲ定ム。

成相寺千部經三月廿三日ヨリ始。弘法八百年ニアタル。

八月十三日大水丹波フクチ山ノ町皆流人多死。宮津如願寺鐘鐺有リ九月廿八日。同禪宗チゲンザノカネイ霜月。【補】九月七日切支丹宗ヲ更ニ嚴禁シ教徒ヲ誅罰ス前後二十八萬人ト云。

九月九日ヨリ勸進始メテ緣城寺鐘鐺有リ十月廿八日。

【補】九月十三日田邊城主京極高三卒。

高道公御家來原治右衛門ト云峰山藏王權現ヲ信心シ自分ニ小社ヲ立此時緣城寺盛舞上人遷宮ヲ勸ム。

【補】切支丹殘黨昨年十一月九日ヨリ島原ニ據テ亂ヲ爲シ今年二月二十七日賊壘陥リ亂平ク九月二十日更ニ切支丹ヲ嚴禁ス。

【補】四月二十二日邪教ヲ戒メ七月二十八日復タ切支丹宗ノ嚴禁ヲ布ク。十一月五日地震越前福井烈天下ノ病不殘死。弓本村玉田寺千部經有三月七日ヨリ、九世戸千部經アリ八月九日ヨリ但シ時正。

【補】五月十日諸大名ニ令シテ切支丹教徒ヲ糾察セシム。翌十九年五月朔日又タ切支丹禁止ノ令ヲ布初。

緣城寺般若院寺立。盛舞西明院隱居。田邊隨泰寺千部經有京極主膳守施主九月四日始ル。高野山大塔主

緣城寺不動院寺立任舜下之坊隱居。

【補】十月三日天皇讓位十一月二十一日後光明即位。

後 光 明 院 後水尾之皇子。

緣城寺千部經有二月二日始同本尊開帳。

八月宮津如願寺鐘鐺。

【補】切支丹天主教徒山下宗琢父子六月六日斬ニ處セラル。

四月中申日宮津如願寺鎮守山王權現地中ヨリ經筒發見。

愛宕山炎上正月廿三日去年也。寬永廿一年十二月二十三日改元。

戊子 慶安元 二
 己丑 二
 庚寅 三
 辛卯 四
 壬辰 承應元 二
 癸巳 二
 甲午 三
 乙未 明暦元 二
 丙申 二
 丁酉 三
 戊戌 萬治元 二
 己亥 二
 庚子 三
 辛丑 寛文元 二
 壬寅 二

緣城寺勸勤院寺立。緣城寺般若院增信小原村宗慶兩人小原山本堂屋敷へ假堂立九月十八日本尊ヲ山上へ勸請。二月十五日改元。

緣城寺嵯峨末寺ニ成尊性親王緣城寺入來宿西明院也。九月廿五日內宮廿七日外宮式年御遷宮。

八月稻ミイラズ。ミノ、國大垣御城二重目ニ水附人千人程死。

六月廿日大地震。八月十日夜大風大雨川流數多有人死。

慶安五年九月十八日改元。竹野郡網野龍獻寺宗祖道元四百年大遠忌。

八月六日大風南北ノカエシニテ生木何本モ吹テ。内裡火。

心王院十一世舜永四月十三日寂廿五歲。

後西院 後光明弟。

道山公爲三藏王權現別當緣城寺般若院峰山へ引西明院隱居盛舜六十七上人引越。仁王兩佛修理十二月三日供養移ス。其時ノ衆僧兩座廿一人也。

江戶御城並ニ諸大名屋形乃至町家寺々己下迄炎燒正月十八日ヨリ廿日迄人死十萬八千人町ノ數不知。九世戸文殊堂立六月廿四日移ス。

江戶大名町屋迄亦炎上正月十日ヨリ十一日迄。勢州內宮皆炎上宇治橋共ニ。明暦四年四月十三日改元。內宮炎上十一月廿五日臨時遷宮。

大阪エンシヤウ藏へ雷落チ火六月十八日人多死。正月四日丹後但馬大地震卯尅。九世戸供養ニ千部經三

月十六日ヨリ。三月丹後檢地アリ。內裏炎上正月十五日午尅公家町不殘二條殿出火。萬治四年四月廿五日改元。

五月朔日丹後大地震天下人死多シ洛中二條城破損。

癸卯 三
 甲辰 四
 乙巳 五
 丙午 六
 丁未 七
 戊申 八
 己酉 九
 庚戌 十
 辛亥 十一
 壬子 十二

靈元院

【補】素淨院。

九月ヨリ霜月ハウキ星出。【補】十一月二十五日重テ切支丹ノ禁制ヲ嚴ニス。十二月二十二日宿驛ノ令ヲ下ス。丹禁止令ヲ布ク。

正月二日大阪城雷火本丸炎上。緣寺城奉加ス五月ヨリ廿八佛修入洛ス金燈籠掛ル。

五月三日ニ京極丹後守流罪御上使青山大膳城受取松平日向守九鬼長門守御番水谷左京。小原山宗慶死當山福壽院應舜後改テ勤ム。【補】五月朔宮津城外墮へたなご多ク海ヨリ上リテ斃死ス。八月朔但馬國蛇山鳴動ス。峯山領主京極高通六月十四日隱居高供家督。

三月朔日ヨリ緣城寺不斷經有十日間。本尊開帳十日ヨリ廿一日迄。

緣城寺十輪院寺立。由邊城京極高盛公豐阿ニ御國替六月十六日。

長井右近太夫宮津へ入五月采封七萬三千六百石。九月廿六日內宮廿八日外宮式年御遷宮。

久美濱如意寺本堂立宥々代。

二月宇川上山寺大覺寺末トナル。

盛舜上人極老ニ及ビ峯山般若院ヨリ緣城寺へ隱居ス。般若院ニハ增信ヲ住セシム。盛舜八十三歲。

宇川井ノ谷海雲山長福寺宇川上山寺末寺トナル。寛文十三年九月廿一日改元。【補】田邊城主牧野親成

九月廿九日隱居富成家督。宮津城主永井右近太夫卒十一月十二日家督男信濃守尙長。

小原山ヲ福壽院兼帶ス近村ヲ勤化シテ三間四面ノ堂ヲ建。【補】峯山領主京極主膳正高供二月廿八日卒四月廿九日高明家督。

六月二日地震雲州石州最モ烈シ。

福壽院ヲ弘範ト云フ弟子ニ讓リ應舜小原山興法寺ニ隱居ス。往昔小原山無本寺ノ處對馬守榎御改ノ初年々福壽院本寺請判致ス。【補】田邊城主牧野親成卒因幡守富成家督。

戊午 六
己未 七
庚申 八
辛酉 二三四一 天和元
壬戌 二
癸亥 三
甲子 二三四四 貞享元
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四
戊辰 二三四八 元祿元
己巳 二
庚午 三
辛未 四
壬申 五

千部經一月三十三年目法會先例ノ通り。
宮津御城主永井信濃守殿増上寺ニテ横死。所領御取上六月廿四日。

丹後大饑饉死者數萬冬大雪二丈モ降ル所アリ牛皆凍死。【補】此年宮津領御檢地七萬三千六百石延高貳萬五千石。五月八日將軍家綱薨シ常憲院綱吉職ヲ嗣ギ八月二十三日將軍宣下江戸五代。

○峰山般若院ヲ増長院ト號ス。七月廿五日高明道意公判物下サル。延寶九年九月廿九日改元。阿部公宮津御入城。采邑九萬九千石。

盛舜上人九十三歳ニテ入寂。
【補】五月大小名ニ令シ諸國百姓ノ奢侈ヲ戒メ切支丹ヲ制禁シ忠孝ヲ勵マシム。

太神宮炎上三月拾日假遷宮。
【補】土御門泰福諸國院內陰陽師ヲ總ベシム九月二十五日。

法事先例訂正代開眼二十八部衆再興供養。
天和四年二月廿一日改元。

四月廿九日當村甚右衛門ヨリ出火シ外六軒ト仁王門惣門福井坊東坊西明院福壽院不動院心王院燒次西谷坊金堂阿彌陀堂鐘樓鎮守等燒失。【補】後西院崩。

八月廿七日ヨリ石場シキ初九月十七日柱立初。十一月十八日棟上十二月十四日日本尊金堂假宮殿ニ入ル。

東山院 靈元之皇子。
【補】三月廿一日受禪。

西明院八月立願主快尊大工宮津助左衛門。
貞享五年九月三十日改元。

心王院八月建願主信覺又福壽院寺建願主弘範。
宮津國清寺鐘鑄有。九月十日內宮十三日外宮式年御遷宮。

【補】十二月二十二日江戸神田孔子聖廟建ッ。

三月十一日本堂開帳堂供養十七日開白四十五口梵侶ヲ請ス。鹿原山五人成相寺十人如願寺八人今山寺二人上山寺二人普甲佛性寺二人大慈寺一人光明寺一人關水德寺一人出石般若院二人増長院増信一導師六十人九歳福壽院眞英西明院快尊十〇院律賢心王院信覺不動院彌勒院以上。此年箇原寺觀音堂再興。

【補】水戸光圀湊川ニ楠公ノ碑ヲ建ッ八月。

六月惣門立七月九日內陣掃除廿八部衆棚十日本宮殿ニ御入佛。【補】宮津辛川山論承應三年ヨリ卅四年振リニ裁許。

癸酉 六
甲戌 七
乙亥 八
丙子 九
丁丑 十
戊寅 十一
己卯 十二
庚辰 十三
辛巳 十四
壬午 十五
癸未 十六
甲申 二三四六 寶永元
乙酉 二
丙戌 三
丁亥 四

【補】田邊城主因幡守富成八月六日卒佐渡守英成家督。

金堂大師御影四月廿一日開帳佛工京左衛門導師増信。
【補】五月廿七日地震奥羽烈シ死者四百餘。十月廿六日晝八ツ時々七ツ頃迄大地震ユリ通シ丹後損害多シ。當山涅槃像二月八日増長院へ來ル江戸屋敷ニテ觀音講ヨリ寄進十四日於ニ金堂開眼供養導師増信七十三歳。増進増長院ニ引縁城寺ニ隱居。

【補】宮津城主阿部對馬守十萬石ニ御加増下野宇都宮へ御國替ノ仰チ蒙ラセラル十二月廿五日。

宮津御城主二月十一日奥平大膳大夫様印チ蒙ラセラレ五月十二日御入城御知行九萬石。
【補】元宮津領熊野郡御料御藏入トナル大津陣屋御代官長谷川六兵衛支配。九月十六日二寸四方ノ大雹降リ宮津近邊往來怪我人多シ。

岩倉山光明寺本堂三月ニ建三世秀海法印代。八月宇川上山寺本堂立第二世律傳代三月廿八日十輪院律賢法印弟子賢海大法師寂。

【補】歷朝山陵修營成ル四月。峰山京極備後守高明四月廿九日隱居主膳正高之家督。

【補】阿闍陀交易船五艘ヲ限ル。

明光寺觀音一千年法事。

明光寺第三世秀海九月十八日寂。緣城寺へ八月十五日高之道倫公判物下サル。當山仁王奉加初。

秀雅明光寺第四世トス。

【補】御代官雨宮庄九郎長谷川六兵衛ト代リ御支配。

三月一日ヨリ七日迄明光寺法會夏ヒテリニテ宇川上山寺律傳上人雨乞其證アリ。七月十九日十輪院六世律賢寂。元祿十七年四月十三日改元。

岩屋寺へ宮津城奥平公ヨリ大船若經六百卷御寄進。

【補】熊野郡御代官雨宮源次郎ニ代ル。

緣城寺仁王像作十月十七日乳字佛工洛陽綾小路東洞院西へ入町鎌田喜内。

大慈寺本堂建文盛代三月。
【補】十月四日大地震遠江國荒井關海ニ没シ。十一月二十三日富士山噴火寶永山生ズ。

戊子 五
己丑 六
庚寅 七
辛卯 正徳元 七
壬辰 二
癸巳 三
甲午 四
乙未 五
丙申 享保元 二
丁酉 二
戊戌 三
己亥 四
庚子 五
辛丑 六
壬寅 七

【補】京都錢座大錢鑄造四月ヨリ通用ス。
久美濱如意山如意寶珠出ル。七月廿四日當山仁王尊炭方作佛工同前。廿二日內宮式年御遷宮東。十二月十日將軍綱吉薨シ文昭院家宣職ヲ襲ギ五月一日將軍宣下江戸第六代。五月廿六日宮津本町燒。十二月十七日天皇疱瘡ニ罹リ崩。東山之皇子。宇川上山寺本堂供養中興第二世律傳。

寶永八年四月廿五日改元。二月朔日地震アリ因伯但作地方烈シク潰家六百餘ノ由。
【補】熊野郡御代官小堀仁右衛門御役所ハ京都ニテ御支配。十月十四日將軍家宣薨ズ。
明光寺秀雅ト塔婆論アリ。宮津田町大燒。
【補】宮津火事七月七日晝六ツ時。十二月廿三日有章院家繼將軍宣下江戸第七代。
成相寺吉祥院ヨリ來リテ明光寺第五世法印祐義。
【補】八月十六日靈元上皇剃髮。
八月十八日高之公ヨリ綠城寺ヘ十二天寄附。

小原山興法寺大覺寺末トナル。二月廿八日ヨリ三月十八日迄綠城寺開帳。同寺阿彌陀堂建施主沖利兵エ。三月十七日熊野郡甲山寺ヨリ綠城寺緣起二軸寄進ス。
養老元綠城寺開創ヨリ一千年忌。正徳六年六月廿二日改元。
【補】四月三十日將軍薨年八歳八月十三日有徳院吉宗將軍宣下江戸八代。
宮津御城主奥平公御國管青山公御入國采邑四萬八千石。【補】元宮津領四萬九千八百石御料御藏入トナリ熊野郡湊村船見番所ヲ御陣屋ニ改メ小堀仁右衛門御代官入陣。
明光寺平等院門再建五月十九日。
宮津大頂寺鐘鑄。

【補】湊御代官玉虫佐兵衛ト交代。
【補】年々不作ニ付キ十一月新米一石代銀百四拾貳匁替被仰出。
四月峯山町絹屋治郎兵衛京都ヨリ縮緬ノ織方ヲ傳フ。
【補】水戸宗堯十月二十九日大日本史ヲ獻ズ。
【補】湊御代官飯塚孫治郎ト交代。
五月十二日綠城寺仁王門再建凡此入用四寶銀十五貫目米三十俵。八月加悅町手米屋小右衛門京都方歸リヲ縮緬ヲ織始。【補】湊代官小泉市太夫。

癸卯 八
甲辰 九
乙巳 十
丙午 十一
丁未 十二
戊申 十三
己酉 十四
庚戌 十五
辛亥 十六
壬子 十七
癸丑 十八
甲寅 十九
乙卯 二十
丙辰 元文元 二
丁巳 二

六月十五日不空三藏九百五十年宇川上山寺再建中興津傳代。
【補】峯山京極高之二月二日卒備後守高長四月家督。
三月一日ヨリ七日迄綠城寺仁王門供養。三月七日ヨリ九日迄大慈寺開白一千年忌法會。

春不動院建立。一行禪師一千年忌。
小原本堂建現住惠龍代。

正月三日眞雅八百五十年。三月京都ヨリ眞教實詮來リ綠城寺ニテ持明灌頂許可汀。

九月三日內宮廿日外宮式年御遷宮四。【補】巳ヨリ年々豐作打續キ拾月新米一石銀三拾匁四分六厘五毛。七月七日地震北陸烈シ。八月十九日大風雨文殊境内松三十四本折。

【補】湊御代官海上彌兵衛小泉市太夫ニ代ル。

八月十五日金剛智一千年。

三月一日ヨリ七日迄小原山本堂供養。

【補】八月六日靈元法皇崩御。

七月一日龍智一千六百五十回忌。

九月六日田邊町大火。

二月七日善無畏一千年忌。三月彌勒院實道ヲ住持トス。弘法大師九百年法事笛原寺大師像ヲ增長院引取リ供養ス此ハ辻八兵衛ヨリ增長院惠覺ニ命ゼラル。

櫻町院 中御門之皇子。
【補】三月廿一日受禪。

【補】田邊町大洪水六月二十一日。代官所湊御陣屋ヲ久美濱ニ移ス。

享保二十一年四月廿八日改元。

【補】二月廿八日類聚國史校訂六月五日日本後紀纂校訂。

【補】四月六日仙洞院（中御門）崩御。十月二日田邊城主牧野因幡守英成隱居明成家督。

戊午 三
己未 四
庚申 五
辛酉 二二四〇一 寛保元
壬戌 二
癸亥 三
甲子 三二四〇四 延享元
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四二四〇八 寛延元
戊辰 二二四〇八
己巳 二
庚午 三
辛未 三二四一 寶曆元
壬申 二

三月廿四日不動院覺道ヲ西明院十七世トス十六世寂照福井坊ニ隱居。
【補】久美濱御代官平岡彦兵衛トナル。
八月十五日金剛智一千年。同月高長公判物下サル。
【補】久美濱代官大塚彦六ニ代ル。
三月二日ヨリ増長院法會。
元文六年三月三日改元。

【補】十一月上旬ヨリ辰巳ノ方ニ稻星顯ハル。
寛保四年二月廿一日改元。
【補】宮津城主青山大膳亮幸秀九月卒主計幸通家督。此月一日將軍職ヲ家重ニ讓ル。
【補】惇信院家重十一月二日將軍宣下江戸第九代。
【補】久美濱代官瀧川小右衛門支配。

桃園院

櫻町之皇子。
【補】五月二日受禪。

三月一日ヨリ七日迄縁城寺開白一千三十三
年法會。一日ヨリ十日迄開帳。

二月二日行基一千年。日置金剛心院本堂建。九月峯山藏王權現御社建九月廿七日遷宮。
切畑火事。増長院縁城寺ト別號ヲ稱スルニ公事入用拾兩。七月三日丹後全國大雨風。九月朔日内宮四日
外宮式年御遷宮東。
【補】四月廿三日櫻町上皇崩御。田邊城主因幡守明成十月五日卒豐前守惟成家督十一月十九日。
四月二十六日大地震三越最モ烈シ七月八日大地震。寛延四年十月廿八日改元。
縁城寺塔中大日如來再建七月九日。
【補】久美濱代官小野佐太夫入陣。

癸酉 三
甲戌 四
乙亥 五
丙子 六
丁丑 七
戊寅 八
己卯 九
庚辰 十
辛巳 十一
壬午 十二
癸未 十三
甲申 二二四二四 明和元
乙酉 二
丙戌 三
丁亥 四

【補】久美濱代官佐々新十郎入陣此年三月はしか流行。
惠果和上九百五十年。
三月十三日ヨリ十九日宇川上山寺開帳四世圓證代。
【補】久美濱代官大野佐左衛門入陣。
當山開白ヨリ一千五十年忌七月十八日。
六月宮津城主青山幸通澧州郡上へ御國替松平資昌公遠州濱松ヨリ御入國。
【補】五月十三日將軍二丸ニ隱居シ九月二日浚明院家治將軍宣下江戸第十代。
【補】久美濱代官志村新左衛門入陣。
【補】宮津城主松平資昌卒正月十八日大隅守資尹家督。七月二十一日桃園天皇崩御。
十二月宮津府志五卷成ル。
【補】十一月二十一日後櫻町天皇即位。
後櫻町院
寶曆十四年六月十九日改元。
【補】宮津城主松平資尹。七月二十二日卒伊豫守資承家督。峰山京極備後守高長八月八日隱居高久家督。
【補】久美濱代官今井平三郎入陣。
【補】久美濱代官今井平三郎入陣。
【補】牧野侯田邊城拜領百年御祝賀八月三日。

戊子 五
己丑 六
庚寅 七
辛卯 八
壬辰 二四三二 安永元
癸巳 二
甲午 三
乙未 四
丙申 五
丁酉 六
戊戌 七
己亥 八
庚子 九 二四四一 天明元
辛丑 二四四一
壬寅 二

【補】七月二十一日大雨風野田川洪水橋立廿八間切レ。
九月三日内宮六日外宮式年御遷宮西。

【補】四月十六日令シテ諸國村々ニ御高札ヲ立ツ。十一月二十四日天皇讓位。
御桃園院 桃園第一皇子。 御蔭參リ拔參宮流行。

明和九年十一月十六日改元。

【補】十二月十一日夜子剋大地震アリ。此年久美濱代官平岡彦兵衛入陣。

【補】同代官萬年七郎右衛門入陣。

【補】久美濱代官眞野惣十郎入陣。

【補】十一月九日後桃園天皇崩。御同月二十五日光格天皇踐祚。

仙洞 御所 大上帝ト云。 櫻町之第二皇女。

【補】五月宮津町ニ沖ノ口一件アリ町在トモ騒動。

安永十年四月六日改元。

【補】久美濱代官眞野四郎左衛門入陣。 眞觀和上詔來願ヲ十二月不動院增長院西明院連名國澤六兵衛鶴飼源左衛門へ願。

癸卯 三
甲辰 四
乙巳 五
丙午 六
丁未 七
戊申 八
己酉 二四四九 寛政元
庚戌 二
辛亥 三
壬子 四
癸丑 五
甲寅 六
乙卯 七
丙辰 八
丁巳 九

二月十二日宮津白柏晒屋大火事。【補】天變地妖多ク年穀稔ラズ信洲淺間山ノ鳴動丹後ニ響ク。

【補】田邊城主豐前守惟成七月廿三日卒因幡守宣成家督。 十月九日久美濱代官所支配下百姓一揆。【補】隣國諸藩ニ加勢仰付ラレ豐岡ヨリ二百四十人峰山ヨリ六十人宮津ヨリ六百三十四人軍用意ニテ御出張一揆終熄。

饑辰年穀登ラズ死人多シ。

【補】七月大地震。八月廿九日宮津如願寺谷大崩洪水。九月八日將軍薨文恭院家齊職ヲ嗣グ。

【補】四月十五日家齊征夷大將軍宣下江戸第十一代。

【補】久美濱代官稻垣藤四郎入陣。 三月大慈寺當山離末願來ル十一月ニ離末ス。尊空西明院ニ來ル。天明九年十一月十六日改元。九月朔日内宮四日外宮正遷宮東。

【補】久美濱代官昨冬野村權九郎ニ代ル。八月朔大風洪水。

十月五日惣門建立施主寺田七次良。

【補】ロシヤ人來ル。十一月沿海諸侯ニ海岸ヲ警備セシム。

當山下馬札再興ス七月下旬。

【補】日蓮宗不受不施派ヲ禁ズ八日。

【補】十二月宮津城主松平伯耆守宗九家督。

【補】高橋作左衛門改訂寛政曆翌年ヨリ行フ旨十一月十八日宣下。

戊午 十
己未 十一
庚申 十二
辛酉 二四六一 亨和元
壬戌 二
癸亥 三
甲子 二四六四 文化元
乙丑 二
丙寅 三
丁卯 四
戊辰 五
己巳 六
庚午 七
辛未 八
壬申 九

【補】三月蝦夷巡察。

五月二十六日地震加賀金澤死人多シ。

【補】勘定奉行近藤守重再ビ蝦夷巡視三月。當山鎮守再建年行事彌勒院諸入用二貫七百廿八匁六分大工棟梁但馬崎藤原喜三ノ外六人。

【補】久美濱代官鹽谷大四郎入陣。

寛政十三年二月廿七日改元。

冬十二月ヨリ宮津小川町福壽院柴燈大護摩修行。

【補】二月勘定奉行山田大吉地圖ヲ徴ス。

【補】田邊城主因幡守宣成八月二十二日隱居豊前守以成家督。

【補】正月三日長崎奉行ロシヤ使ヲ面諭ス。同月二十六日沿海諸侯ニ警備ヲ傳フ。

【補】十二月十六日續藩翰譜成レ。

【補】六月蝦夷ヲ巡檢シ十月松前奉行ヲ置ク。

【補】宮津城主伯耆守宗發家督。英船來リ交易ヲ求ム。峰山京極備中守高久五月卒高備家督。

九月朔日内宮四日外宮式年御遷宮西。

仲秋西明院朝清上人塔再建發願此時十〇院堅戒彌勒院得明三人在住。丹後舊事記十卷成ル。

【補】伊根浦鯛大漁。六月二十九日大雨田邊宮津町々水漬リトナル。

癸酉 十
甲戌 十一
乙亥 十二
丙子 十三
丁丑 十四
戊寅 二四七八 文政元
己卯 二
庚辰 三
辛巳 四
壬午 五
癸未 六
甲申 七
乙酉 八
丙戌 九
丁亥 十

【補】久美濱代官田口五郎左衛門入陣。此年正月大雪積一丈餘。

九月往來當村長左衛門大塔再建ニ付諸國役人中へ宛テ山名ニテ。

【補】七月二十七日大雨由良嶽山崩潰家世軒餘死人多シ。

【補】五月十三日遊行上人宮津佛性寺ニテ化益十八日迄參詣者市ヲ爲ス。須津村笠井淺七歳木嶺ヲ掘抜

自養老元年千百年。【補】久美濱代官平岡彦兵衛入陣。

今上皇帝 【補】三月二十二日光格天皇讓位仁孝受禪。須津村淺七頭取宮津魚屋町裏河

文化十五年五月十一日改元。

【補】英船浦賀ニ來リ互市ヲ乞フ五月十三日。

山根道澤丹後一覽集五卷ヲ作ル。

【補】五月地震アリ。

六月宮津智源寺大地藏尊立。

十二月十三日十八日迄宮津領百姓一揆。

【補】久美濱代官斐笠之助入陣。

四月廿二日宮津強訴ノ帳本石川村新兵衛爲治郎御仕置。

【補】田邊城主牧野豊前守以成十一月十六日隱居河内守節成家督。

二月當山本堂開帳。

朝暉圓頓寺任職トナル。

戊子 十一
己丑 十二
庚寅 天保元二四九〇
辛卯 二
壬辰 三
癸巳 四
甲午 五
乙未 六
丙申 七
丁酉 八
戊戌 九
己亥 十
庚子 十一
辛丑 十二
壬寅 十三

二月大塔再建用挽入山。
九月朔日内宮四日外宮式年御遷宮東。
四月地震古塔潰ル八月大塔屋敷引直シ。文政十三年十二月廿四日改元。
【補】三月上旬伊勢神宮へ拔ケ参リ流行五月府中一ノ宮へ御蔭参リ。
三月一日ヨリ三日間大塔礎五月十日地ぐみ同九日ヨリ建初。七月十二日迄ニカシ木立相濟み直ニ作事相掛リ。御蔭参リ流行。
三月大塔作事畢ル四月弘法大師一千年忌共大塔供養。
【補】久美濱代官和田主馬入陣。八月大風。
【補】峰山京極備後守高倍正月卒大膳高領家督。
五月廿一、廿二日天變地妖五穀實ラズ。
【補】宮津城主伯耆守宗發様御老中ニ加列正月十六日十日間領内へ倭數酒料被下大祝アリ。
【補】四月米一俵百三十石(一石代銀三百二十五石)小麥一石二百八十石大豆一石百八十石。蕎麥一石七十石奉公人ハ無給銀。日雇稼男上等一日五分飢死多シ。四月二日將軍隱居慎徳院家慶九月二日將軍宣下江戸第十二代。
七月廿四日西明院廿世增長院住尊光和尚寂。
【補】宮津城主伯耆守宗發卒男伯耆守宗秀家督。十一月十五日光格上皇崩御。
御公儀ヨリ儉約被仰出縮縮緬實御法度。
【補】久美濱代官大草太郎左衛門入陣。

癸卯 十四
甲辰 弘化元二五〇四
乙巳 二
丙午 三
丁未 四
戊申 嘉永元二五〇八
己酉 二
庚戌 三
辛亥 四
壬子 五
癸丑 六
千時嘉永二五〇八霜月吉辰寫焉

七月廿日本堂阿彌陀堂彌勒院燒失當山開白ヨリ千百二十六年。
【補】久美濱代官岡崎兼三郎入陣。
天保十五年十二月二日改元。
【補】異國船數艘長崎沖松前沖へ顯ハレ宮津田邊藩海岸防備仰付ラル。
【補】六月朔日夕五日間宮津御城内一番手ヨリ四十番手迄小具足ニテ陣立。
朝暉圓頓寺ヨリ西明院ニ移ル圓頓寺朝仁住持トナル八月。
【補】二月六日仁孝天皇崩御同月十三日孝明天皇踐祚。七月七日大風雨ニテ濱家難船丹後人死多シ。
十一月明年入佛供養大般若西明院心王院增長院連名寺社奉行。今井重兵衛へ届。【補】木津村中館上野和田二丈餘地落地昇正月十三日。地震三月二十四日。久美濱代官増田作右衛門入陣。
三月十六日ヨリ十八日迄本堂普請成就入佛供養並大般若轉讀。
弘化五年二月廿八日改元。
四月二日緣城寺鐘鑄アリ。九月二日内宮五日外宮式年御遷宮西。
【補】峰山京極高景卒三月高富家督。長江村へ異國ノ丸木舟漂着三月廿日。
竹セニ付ク四月。
【補】九月三日大洪水天橋立洲先ニテ所切流。
【補】田邊城主河内守節成六月五日隱居豐前守誠成家督。宮津城主先代伯耆守十三年忌法事領内罪人不殘御赦免九月廿五日。
五月二十三日ヨリ九月二日マテ雨降ラス丹後旱魃。【補】六月二十二日將軍家慶薨去温恭院家定十一月二十三日將軍宣下江戸第十三代。此年久美濱代官寺西直治郎入陣。
緣城寺西明院
朝暉 什物

甲寅 七 安政改元
乙卯 二 十月二日古今稀有ノ大地震。十二月廿三日和蘭陀條約調印。
嘉永七年二月廿八日改元。【補】六月二十三日朝六ツ時晝八ツ半時四ツ時大地震。此年久美濱代官鈴木大太郎入陣。

丙辰 三
丁巳 四
戊午 五
己未 六
庚申 七
辛酉 二
壬戌 二
癸亥 三
甲子 四
乙丑 二
丙寅 二
丁卯 三
戊辰 四
己巳 二
庚午 三

【補】九月十二日宮津城外島崎ニ砲臺築造始マリ御殿様砂御持運ビ被成。
 【補】北丹勝景集印行。
 二月廿六日八ツ時古今マレ成ル大地震々源越前潰家死人無數。【補】九月廿五日異國船竹野郡網野沖ニ見ユ。八月八日將軍薨シ昭徳院家茂十二月朔將軍宣下江戸十四代。十二月朔ヨリ七日迄大公儀海岸御改御同勢百六十人丹後來着村々人足七千人徴發。
 【補】正月二十日日の丸旗ヲ日本船旗トス。七月ころり病流行。此年久美濱代官齋藤六藏入陣。
 萬延 改元 四月ニ 安政七年閏三月一日改元。
 觸有之 【補】丹後百姓困窮シ強訴蜂起ノ兆アリ御救米被下漸ク無事。
 文久 改元 萬延二年二月廿八日改元。
 【補】宮津領殿様滿百年御祝御酒頂戴四月朔日。
 【補】五月ヨリ癩疹流行死者多シ。
 十二月廿九日瑞西國條約調印。十二月稀ナル大雪。
 【補】二月十七日じぶの田ヲ神武天皇陵ニ御治定。
 元治 改元 三月 文久四年三月一日改元。
 慶應 改元 五月 元治二年四月十六日改元。
 【補】八月二十日將軍家茂薨去一橋慶喜嗣ク江戸十五代。
 八月宮津様大内時與謝時普甲時御臺場御築立。
 【補】宮津城主宗秀隱居男宗武家督。十二月五日慶喜將軍宣下同二十九日孝明天皇崩御。
 秋神佛天降諸國騒グ。
 【補】正月九日明治天皇踐祚。十月十四日將軍政權ヲ奉還シ二十四日征夷大將軍ヲ辭退返上。
 明治 改元 九月 慶應四年九月八日改元。正月三日皇政復古被仰出。
 【補】正月久美濱代官所官軍出張所ト改メ五月久美濱縣トナル。七月江戸ヲ東京ト改メ十月十三日遷都。
 九月四日内宮七日外宮式年御遷宮東。田邊町ヲ舞鶴町ト改稱。【補】田邊城主誠成六月十七日卒。彌成家督。峰山京極高富隱居高陳家督。宮津 田邊 峰山三藩二月版籍奉還。

辛未 四
壬申 五
癸酉 六
甲戌 七
乙亥 八
丙子 九
丁丑 十
戊寅 十一
己卯 十二
庚辰 十三
辛巳 十四
壬午 十五
癸未 十六
甲申 十七
乙酉 十八

三月峰山藩ヨリ西明院へ合併スベキ由達セララル。外四院ヲ西明院へ合スナリ。十一月廿二日全國三府二十七縣ニ分チ郡制ヲ布セラル。豊岡縣ニ入ル。
 二月六日地震石州濱田殊ニ烈シ。維新ニ付寺中西明院ニ合併。僧侶肉食帶妻蓄髮許可四月廿五日。初テ徴兵令ヲ頒布。八月九日大洪水。【補】郵便役所久美濱、峰山、宮津ニ置七月一日。
 大陰曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用壬申五年十二月三日ヲ太陽曆六年一月一日トス。
 【補】網野、岩瀧、加悦、川守ニ郵便役所設置。此年十一月二十日元宮津城主神宮大宮司本莊宗秀卒。
 地券御調査。
 【補】番非人捕亡吏ヲ廢シ豊岡縣警察部ノ警部巡查巡檢ス。
 二月廿六日朝鮮國條約調印。【補】三月豊岡縣宮津警察署ヲ置キ峰山舞鶴ニ屯所ヲ置ク。
 八月二十一日豊岡縣廢止京都府。【補】宮津町ニ京都裁判所宮津支廳ヲ置ク。
 【補】五月十日森本村三十八軒焼。
 觀音開帳三月十七日ヨリ五日西明院朝仁增長院義猛。
 三月十七日小地震此地震東北地方激シ。
 【補】宮津ニ治安裁判所ヲ置キ京都裁判所支廳ヲ宮津始審裁判所ト爲ス。
 【補】京都、宮津並ニ舞鶴間ニ電信架設十一月開始。六月廿二日大風吹ク。
 七月廿八日黃塵降ル。【補】六月宮津懲役場島崎御藏前ニ移リ京都府宮津監獄支署ト云フ。宮津ノ裁判所管轄丹後一圓丹波天田何鹿二郡。
 大師入定千五十年忌。三月十五日灰雨降ル但シ肥後阿蘇山噴火ニ因ル。
 【補】七月一日洪水。

丙戌 十九
 丁亥 二十
 戊子 廿一
 己丑 廿二
 庚寅 廿三
 辛卯 廿四
 壬辰 廿五
 癸巳 廿六
 甲午 廿七
 乙未 廿八
 丙申 廿九
 丁酉 三十
 戊戌 卅一
 己亥 卅二
 庚子 卅三

【補】宮津大手口ニ裁判所新築成ル。波路村賣間九兵衛發頭ニテ栗田嶺ヲ抜キテ隧道ヲ造リ宮津大手橋大膳橋ヲ眼鏡橋トス。丹後隧道眼鏡橋ノ始メ也。宮津警察舞鶴分署峰山分署ヲ本署トス。綠城寺ト公稱。三月地鳴但馬和田山落チテ河底一丈五尺隆起。六月九州肥前神六岳劈裂地變。八月同州梅野地變。

【補】宮津町ヨリ汽船丹州丸ヲ運航シテ越前敦賀ニ往復シ鐵道ニ連絡ス。一月七日灰塵降ル但シ大隅霧島山噴火ノ爲メ也。此年七月十五日岩代國磐梯山爆發十一村埋マルト云。

四月町村制施行。九月九日大水。十月二日內宮五日外宮式年御遷宮西。

【補】加佐郡餘內村餘部長濱一帯ノ地ヲ第四海軍港ニ指定ス。(勅令)宮津ニ京都收稅部出張所ヲ置ク六。綠城寺鐘鐺三月四日朝詮代鑄物師但馬出石五歩一小兵衛。

【補】宮津治安裁判所加悅、峰山、久美濱、舞鶴ニ出張所ヲ置ク十一月一日。

九月廿六日朝大地震別シテ美濃尾張烈シ、人家數萬軒潰レ死人數不知。

【補】四月二十一日夜中郡地方ニ徑一寸五分以上ノ大雹降ル。

【補】宮津港特別輸出港トナル四月一日。宮津監獄支署島崎ヨリ中ノ町ニ移轉シ福知山園部ヲ合併シ京都監獄宮津分監ト云フ。

日清戰爭始。九月廿七日大風吹。文殊二本松一本倒ル。

日清講和。七月廿二日大洪水丹波福知山全滅。

【補】加佐郡餘內村餘部、長濱北吸倉梯村濱村溝尻一帯ニ軍港工事始ル。

【補】餘內村倉谷ニ舞鶴要塞砲兵始メテ置ク十一月。

三月七日晝前小地震。五月十八日祐全綠城寺住職トナル。八月廿八日大風吹。

【補】宮津特別輸出港商港トナル。(勅令三四二號)稅關開廳。

太陽曆八月九日仁和寺金剛峰寺醍醐嵯峨獨立認許ヲ得。

五月廿三日太神宮火十月二日假御遷宮。

維新後從來本堂村方ニ於テ支配セシモ舊八月十五日ヨリ會計ヲ除ク外一切寺ニ於テ支配ス。舊三月廿三日明光寺土砂加持法會。【補】十月舞鶴鎮守府開廳。

【補】舊三月四日雪三寸大江山一尺餘。

【補】加佐郡倉梯村濱村溝尻志樂村泉源寺市場一帯ノ地ヲ碁盤型ノ新市街トナス。

舊三月十七日南風公庄十軒燒失。

陽二月十一日征露詔勅發セラル。本年ヨリ笛原寺祖師降誕會始。

【補】十一月阪鶴鐵道舞鶴町並ニ軍港ニ開通ス。

四月十六日水橋當山ノ山論決定。五月二十七日、八日日本海大海戰。

舊六月廿九日庫裏再建發議八月廿六日決定。陽曆六月廿九日大森京都府知事當山ニ參詣。眞言宗開宗千百年。【補】濱村市場ノ新市街地ヲ新舞鶴町ト爲ス七月。

舊二月廿八日磯搗。舊九月八日九日十日日庫裏立前。本堂西、竝仁王門南西北三面屋根葺替。七月十七日大水。

岩屋寺本堂上棟式三月廿八日、舊二月十二日本堂ヨリ住侶新庫裏移轉。

【補】三舞鶴、宮津、峰山ニ電話開通。

當山多寶塔密相銅板張。十月二日內宮五日外宮式年御遷宮東。

【補】八月十四日地震アリ江州姉川地方烈シキ由。

本堂裏屋根替。

【補】十月鐵道京都線綾部ニ延長シ阪鶴線ニ合シ新舞鶴京都間連絡成ル。

【補】舊八月小原山隆道法印死。

【補】一月一日宮津町ニ始テ電燈點ス。ドイツ東洋艦隊旗艦以下六隻七月九日宮津入港米國艦隊八月入港。

大正七月改元 七月卅日明治天皇崩御。三十一日大正天皇踐祚。

日獨其聯合軍戰爭。舊西明院土藏七月移轉庫裏壁上塗。十月廿五日峰山城主高道公二百五十年忌法事。

【補】九州櫻島爆發丹後ヘモ灰雨降ル一月十二日。中郡誌出版六月。

十一月十日即位大典十四日大嘗祭。高野山開創紀念千百年大法會五十日間。

【補】二月加佐郡誌成リ十一月竹野郡誌成ル。

辛丑 卅四
 壬寅 卅五
 癸卯 卅六
 甲辰 卅七
 乙巳 卅八
 丙午 卅九
 丁未 四十
 戊申 四十一
 己酉 四十二
 庚戌 四十三
 辛亥 四十四
 壬子 四十五
 癸丑 二
 甲寅 三
 乙卯 四

二五七二

丙辰 五 養老元年當山開白ヨリ千二百年目善無畏三藏入滅天平十七年ヨリ千八百八十二年目。峰山水道成ル三月十

丁巳 六 舊三月二十日(五月十日)本堂屋根替供養。

戊午 七 九月十四日(舊八月十日)大雨如意寺山崩本堂破壊。當地方水害郷。日和田、關流家。

己未 八 秋當村電燈取付。

庚申 九 電燈取付舊三月三日點火。秋町莊村清一來リ當山寶物修繕。

辛酉 十 舞鶴軍港内鐵道運轉許可中舞鶴線開通。

壬戌 十一 四月十七日ヨリ四日間木津中性院經會。九月廿五日(舊八月廿四日)大雨。

癸亥 十二 四月十七日ヨリ十日間東寺勅賜紀念法會。夏莊村來リ寶物修繕。

甲子 十三 九月一日(舊七月廿壹日)關東大地震。三月小原山義光法印死。

乙丑 十四 十二月廿二日明光寺住泰淳死亡六十三。

丙寅 十五 五月廿三日(舊閏四月一日)但馬丹後大地震豐岡城崎其他附近全滅久美濱全潰。

【補】四月加佐郡誌改訂。七月丹後山田鐵道開通。十一月峰山迄開通。

【補】十一月加悦鐵道開通。十二月省線網野へ開通。同廿五日大正天皇崩御、今上踐祚同日昭和改元。

右緣城寺年代記もと吉野山上山寺所藏年代記に據り嘉永六年十一月緣城寺中西明院朝暉阿闍梨の臨寫に係り爾來歷住の補筆せるものなり、記事主として同寺の史實を録し傍ら近郷社寺の出來事並びに世相著名の事物を網羅して、丹後史研究上幅強の資料たり。今丹後史料叢書中に収録するに際り六國史、皇陵、年代記要その他諸書に據り皇室、紀元年數及び國家の重要記事を増補し、類聚國史、群書類從、續類從その

他諸書によりて丹後に關する事項の追補を行ひ増補緣城寺年代記と名く。書中紀元年數と【補】の符號を冠したる記事は皆編者の補入せる所なるが、漫りに筆を加えて却つて原本の權威を損せしものあるを恐る。

昭和元年十二月三十日

永濱宇平

追補

去る三月七日夕尅の烈震は、この年代記所藏者與丹後の寶物館なる緣城寺をも呪ひの的より外すことなく、寶塔を崩し勅門樓門を倒し庫裏を潰して將さに火を失せんとせり。然れども金堂と寶藏の辛くも助かりしと住持祐堅法印竝に御一族の壓せられながら左ほどの傷痕も負はずに閻魔の廳より脱出し災火を防止せられしは不幸中の幸といふべく、此の書の原本は當時住持の書齋にありて潰屋の下敷となり、狼籍損傷苦荼々々にて亦た原形を保たず殆んど廢滅に近し。いま之の寫本によりて廣く江湖に永く後昆に傳ふるを得ば所謂緣城寺年代記の使命蓋し全たきに遡からむ歟、即ち罹災の由を附記して後考に備ふ。

昭和二年四月二十五日

宇平追記

第三輯

丹後史料叢書

昭和二年七月二十七日印刷
昭和二年七月三十一日發行

(非賣品)

編輯者

永濱 宇平
橋本 信治 郎
小室 萬吉

京都府與謝郡宮津町字白柏
株式會社 橋立新聞社內
丹後史料叢書刊行會
右代表者

發行者 橋本 信治 郎

岐阜縣稻葉郡長良村字福光二七番地

印刷者 高井 辰之 丞

岐阜縣稻葉郡長良村字福光二七番地

印刷所 岐阜縣 刑務所 作業部

5
1

554
159

Faint, illegible text within a rectangular border on the right page.

5
13

554
157

